第７節　遺構外出土遺物

遺構外からは、縄文時代早期から後期までの土器・土製品・石器・石製品が出土した。遺物の出土位置は調査区北東側のⅠV-33グリッド以北に集中している。出土層位は第Ⅰ層が大半を占めており、層位ごとの時期差を捉えることはできなかった。

１　土器

遺構外出土土器の総量は約120kgである。復元できた個体は少なく、大部分は破片資料だが、特徴等を考慮した上で全体の器形がわかるもの、口縁部・底部資料を中心に掲載した。出土した土器は縄文時代早期後葉から後期中葉までみられるが、主体は縄文時代後期前葉に属するものである。以下、各時期の土器について記述するが、個々の遺物の詳細については遺物観察表を参照されたい。

縄文時代早期後葉から後期初頭以前の土器（図30-１・図43-２～９、写真図版15・25）

図30-１は深鉢口縁部である。波状口縁の波頂部突起は小さく、口唇部と口縁部内面にLRが回転施文され、外面は丁寧に磨かれる。特徴から中期中葉から後葉に属する可能性が高いが、判断材料が少ないため断定はできず、後期中葉の可能性もある。図43-２～４は縄文時代前期前葉に位置づけられるものである。２・３は竹管状工具による押し引きによって施文され、４はLRが回転施文される。いずれも胎土に繊維を含む。５～７は前期中葉から後葉に属すると考えられるものである。６・７は単軸絡条体第１類によって施文される。８・９は中期中葉から後期初頭に属するもので、縄文が縦位に回転施文される。

縄文時代後期初頭に属する土器（図30-２・３、写真図版15）

韮窪式(本間1987)、牛ヶ沢(３)式(成田1989)、第Ⅰ様式(榎本2008)などに相当する土器である。本遺跡からの出土量は少ない。器種は深鉢形と壺形がみられる。図30-２は波状口縁の深鉢であり、頸部が屈曲する。波頂部から頸部にかけて隆帯が付され、隆帯を含む内外面に無節Lが回転施文される。口唇部と隆帯には竹管状工具による連続した刺突が施される。図30-３は隆帯上にLRが施文される。

縄文時代後期前葉に属する土器

十腰内Ⅰ式古段階（図30-４～図33-11、図37-12、写真図版15～18・21）

十腰内ⅠA式(成田1989)、第Ⅳ様式(榎本2008)などに相当する土器である。器種は深鉢形、鉢形、壺形がみられ、台付鉢も一定数認められる。深鉢形・鉢形土器の口縁形は波状となるものと平坦口縁のものがあり、口唇部に刻みが施されるものもみられる。鉢形土器では口縁部が肥厚し、口唇部から口縁部外面にかけて穿孔されるもの(図32-10・16)や、上げ底状の底部から胴部にかけて穿孔されるもの(図32-13)も認められる。文様は沈線や隆沈線によって入組文や弧状文、楕円形文などが施される。鉢形土器や壺形土器の中には赤彩されるもの(図32-10・17、図33-11)が散見されるほか、漆と推測される黒色付着物が認められるもの(図30-17)も少量ある。

沈線によって施文されるものの中には、２条の沈線の両端をつないで文様を表現するもの(図31-１、図32-７・12・図33-２・７～９)と２～３条の平行沈線によって文様を表現するもの(図32-３～５・８・

9・11・13・20）がある。隆沈線によって施文されるものは、器面が丁寧に磨かれるものが多い。口縁部に限定して隆沈線が用いられるものと、全体に用いられるものがある。

図37-12は大型の壺である。楕円形文によって縦位・横位に区画された内側に三角形文や入組文が施文され、LRが充填される。十腰内Ⅰ式直前型式段階から十腰内Ⅰ式に比定されるものである。図31-3～5は同一個体とみられる壺である。頸部には小ぶりな把手が2段にわたって付く。把手は上段と下段で半単位ずらして付され、上段では把手が付されない部分に穿孔がなされる。口縁部から頸部には隆沈線による楕円形文が、胴部には弧状文や入組文が施される。図25-4と図30-11は同じ文様のモチーフをもつが、それぞれ沈線と隆沈線によって施されている。図32-3は外面に沈線文が施され、内面は無節Lが横位回転施文される。

十腰内Ⅰ式新段階（図33-14～図37、写真図版19～21）

十腰内ⅠB式（成田1989）、第Ⅴ～Ⅵ様式（榎本2008）などに相当する土器である。器種は深鉢形、鉢形、壺形がみられ、台付鉢も一定数認められる。深鉢形・鉢形土器の口縁形は波状となるものが多く、口唇部に刻みが施されるものも少量みられる。鉢形土器は頸部が屈曲して外反するもの、直線的に外反するもの、口縁部が内湾するものなど、十腰内Ⅰ式古段階に比べて多様である。文様は沈線によって入組文や方形文、クランク文などが施され、沈線間に櫛歯状沈線が充填（図33-14～図34-9）もしくは、縄文が充填（図34-10～図36-19）される。櫛歯状沈線が充填されるものは2条1組の沈線によって施文され、縄文が充填されるものは3条1組の沈線によって施文される傾向がある。縄文が充填されるものでは、口縁部に沿って横位の平行沈線が施され、胴部の方形文や入組文が縦位もしくは斜位の沈線によって口縁部の横位平行沈線と連携されるものが多い（図34-11～15、図35-2・3）。

粗製土器及び底部破片（図38～42、写真図版22～25）

無文あるいは地文のみ施文されるものである。出土状況から後期初頭から前葉に属すると考えられる。地文には絡条体や沈線によって格子目状あるいは条線状の文様が施されるもの、櫛歯状沈線や縄文のみが施されるものがある。器種は深鉢形、鉢形、壺形が認められる。絡条体による施文は、単軸絡条体第5類が大部分を占め、単軸絡条体第1類がわずかに認められる。口縁部は折返し状になるものや肥厚するものが多い。口縁部が折返し状となるものの中には、口縁部が無文のもの（図38-9）や、胴部と同じ絡条体が縦位施文されるもの、横位施文されるもの（図38-5～8）がある。沈線によって格子目状文を表出するものは図39-6の1点のみ確認された。櫛歯状沈線が施されるものには、縦位に施文されるもの（図39-7～10）と、格子目状の文様を表出するもの（図33-12・13）がある。図27-25は口縁部に横位施文、胴部に縦位施文される。

縄文のみ施文される土器は、口縁部が肥厚するもの（図40-8）や、口唇部に胴部と同じ縄文原体が回転施文されるもの（図40-20、23～28）が認められる。また、縄文原体の側面押圧（図26-9～11、図40-28）をもつものがあるが、これらは十腰内Ⅰ式の中でも新しい要素とされているものである。

無文のものは深鉢形、鉢形（台付鉢を含む）、壺形、片口形が認められる。深鉢形土器の中には波状口縁となるもの（図41-6、図42-2）、底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、底部が上げ底状となるもの（図41-7）がある。底部は網代痕や木葉痕、笹葉状木葉痕など、敷物の痕跡を残すものが

多い。図42-15は網代痕を覆い隠すように化粧土が貼り付けられている。

縄文時代後期中葉に属する土器

十腰内Ⅱ式（図35-23・24、図36-17・20、図43-1、写真図版20・21・25）

出土量は少ない。器種は深鉢形と壺形がみられる。図35-23は深鉢、図36-20は壺である。沈線によって縦位に展開する帯状の入組文が表出され、沈線間にLRが充填される。図36-17は口縁部が内傾する鉢である。平行沈線文が施され、沈線間に蛇行文が施される。図43-1は深鉢形土器の口縁部突起である。　（木村）

2　石器（図44～49、写真図版27～29）

遺構外からは石鏃11点、石錐1点、削器18点、掻器6点、二次加工剥片49点、微細な剥離痕のある剥片6点、剥片210点、石核16点、ピエス・エスキーユ4点、原石3点、打製石斧2点、磨製石斧14点、石錘18点、凹石2点、敲石56点、磨石8点、砥石2点、石皿15点、台石4点、剥離のある礫6点、擦痕のある礫1点、搬入自然礫1点が出土した。

図44-1～11は石鏃である。1～5は珪質頁岩製であり、1は裏面中央に素材剥片の主要剥離面が残る。その部分は、にぶい光沢がある。有茎鏃で長さは2.2cmと小型である。他の石鏃も未成品を除いて有茎鏃で、長さは3cm未満と小型である。5は平坦な剥離が施されるが先端部の作り出しがなく、石鏃未成品と判断した。石鏃と形状と加工状況が類似するが、先端部が作りだされていないもの等は石鏃未成品とし、石鏃の中で扱う。6～11は玉髄製の石鏃である。9・11は先端部の作り出しがなく、10は表面左側縁に加工が認められないことから石鏃未成品と判断した。

図44-12は石錐で、図44-13～図45-4は掻器・削器である。図44-13は珪質頁岩製で、14は玉髄製である。図44-15～図45-1は珪質頁岩製で、裏面に素材剥片の主要剥離面が残る。素材剥片は、剥片剥離軸がねじれている幅広の縦長剥片や横長剥片である。図45-2～4は玉髄製であり、玉髄製の石器は2～3cm程度の小型品が多い。

図45-5～17は二次加工剥片である。5～14は玉髄製で、5・6は二次加工により器体の輪郭が、石鏃と共通性のある形状になっているが、本類に含めた。7は尖った先端部が作り出されているが、両側縁の加工が粗い。尖った部分を持つ削器や石槍の未成品の可能性がある。8は両極打法により生産された剥片を素材としている。9～12は、削器と認定するには加工が粗い。13は、両極打法により生産された剥片を素材とし、14も同様の可能性がある。15・16は珪質頁岩製であり、15の裏面中央には節理面が観察できる。正面左側には石鏃に多く認められる細長く平坦な剥離加工の痕跡が残る。石鏃の製作時に節理面により破損した石鏃関連資料の可能性がある。17は赤鉄鉱製で平坦な剥離がなされ、石鏃未成品もしくは小型削器未成品の可能性がある。

図45-18～図46-16は剥片と石核である。両極打法による剥片と石核は区別しがたいものを含むため、石材ごとに分けて両者をあわせて図示した。18は赤鉄鉱製の剥片である。19・20は珪質頁岩製の石核である。剥片素材の石核であり、双方の上面が図版完成後に接合しており、詳細は総括で記述した。21はチャート製の石核で、図46-1は珪化木製の剥片である。2～11は玉髄製の剥片で、6～11は対向する剥離痕とリングの密集など両極打法の痕跡が残る。2～4のように明瞭な光沢が残るものがあ

り、図に網掛けで表示したが、詳細については総括部分で記述する。４については断面が四角形となる形状であり、５はリングが密集する点で両極打法により生産された可能性がある。図46-12～14は玉髄製の、15･16は珪質頁製の両極打法による石核である。厚みがあり剥片と認定できず、石核とした。

図46-17～19はピエス・エスキーユである。17は玉髄製で、縦横二方向から両極打法で打撃されている。舘遺跡では両極打法による石核は、一方向から打撃されているためピエス･エスキーユとした。18は珪質頁岩製で、上下一方向からの打撃であるが、長さが5.1cmと他の両極打法による石核より大きい。19は碧玉製で、長さ5.5cm、厚さ2.6cm、重量44.4gである。上下一方向からの打撃であるが大きさと石材の点で、他の両極打法による石核と異なる。また、碧玉製の剥片は舘遺跡から出土しておらず、ピエス・エスキーユとした。

図46-20は石英の、図46-21は玉髄の原石である。

図46-22･23は粗粒玄武岩製の打製石斧である。22は、刃部側の破片であり、礫素材で刃部付近の厚みがない。23は基部付近を欠損するのみで、完形品に近い。刃部付近に素材礫の曲面を残している。両側面を中心に敲打加工の痕跡が残る。

図47-１～10は磨製石斧である。５は長さ5.3cm、重量15.0gの小型品で、６も残存長が5.0cm、残存重量30.1gとやや小型である。他は、欠損や再加工がなければ長さ10cm前後、重量150g以上の大きさと考えられる。１は閃緑岩製で、安山岩製の２・３は基部欠損後に折面を再加工している。４は閃緑岩製、５は流紋岩製、６は石材不明である。７・８は、粗粒玄武岩製で、８は先端部側を欠損した後に、折面から再加工している。９は閃緑岩製、10は粗粒玄武岩製である。

図48-１～７は敲石で、図48-８・９は磨石である。８・９のように複数の種類の使用痕を持つものに関しては、最も多くの表面積を占める使用痕もしくは最も新しい使用痕を観察し、その石器を代表する使用痕を勘案して、磨石や敲石に振り分けた。１は底面の敲打痕に稜が形成されており、多面体の敲石となっている。２は長さ13.9cmと大型の敲石で、敲打痕が、側面を一巡する。３は、側面と裏面に溝状の敲打痕が形成されている。４は長さが６cmと小型の敲石で、敲打痕が側面を一巡する。円盤状石製品の可能性もある。５は敲打痕が正面と側面に形成されている。６・７は敲打痕が上下両端部に形成されている。８は、磨面が側面に細長く形成されている。下端部などには敲打痕も形成されている。９は石鹸形の磨石であり、正裏面は器表面が滑らかな磨面で、左右の側面はざらざらした磨面となっている。正裏面の磨面の上に敲打痕が、正面には凹痕が形成されている。

図48-10は擦痕のある礫で、図48-11は砥石である。

図49-１～７は石錘である。１は楕円礫の長軸側に紐かけのための抉りがあるが、短軸側にも敲打痕がある。長さ12.7cm、重量740.6gと大型である。２～７は楕円礫の短軸側に紐かけのための抉りがある。４・５は石材がチャートのため、抉り部分の剥離痕の打点や剥離状況が観察できる。打点が線状であり､横幅の広い横長剥片が剥離された痕跡が残るため両極打法による打撃の痕跡と考えられる。他の石錘も、抉りの剥離痕が向かいあい、強打された痕跡が残るため、両極打法による可能性がある。図49-８は剥離のある礫とした。短軸側に素材礫の形状に由来する窪んだ部分があり、石錘と類似した形状となっている。

図49-９～11は石皿であり、９は機能面に敲打痕と凹痕が認められる。10は正面に平滑な磨面が形

成されている。裏面にも磨面が認められるが、器表面に凹凸があるため、凸の部分を中心に磨面が形成されている。11は正面に磨面が大きく広がり、正面左側に敲打痕が認められる。

敲石、磨石、石錘などの石材としては、チャート、デイサイト、粗粒玄武岩、凝灰岩などが多く用いられている。石皿については安山岩が多く用いられている。

なお、写真のみの掲載遺物が2点あり、うち1点（写真図版29-A）は正裏面ともに器体中央部に火ばねによる欠損がある珪質頁岩製の石鏃である。珪質頁岩は搬入石材であり、全体の形状等がわかる資料であるため、写真掲載とした。もう1点(写真図版29-B)は、石棒に形状が類似するチャートの搬入自然礫である。研磨等の明瞭な加工は見られない。両者は遺物写真のほか、遺物観察表に計測値を記載した。（齋藤岳）

3　土製品 (図50･51、写真図版30･31)

土製品は土偶、動物形土製品、鐸形土製品、ミニチュア土器、土器片利用土製品などが出土した。

図50-8は土偶の腕部である。粘土粒貼付によって乳房が表現される。裏面には棒状工具による刺突がなされる。9は土偶胴部である。粘土粒貼付によって臍が表現される。10は欠損部が多く、全体形は不明だが、土偶脚部の可能性がある。11は動物形土製品である。本来耳と尾があったと推測される部分や顔面は剥落しており、口の表現のみ確認できる。四肢の端部が剥落していることから、動物形内蔵土器など、何らかの器面に貼り付けられていた可能性がある。背中と側面には円形の棒状工具による刺突が施される。形態からイヌを模したものである可能性が指摘できる。図51-1・2は鐸形土製品である。つまみ部に穿孔がなされる。1は円形の棒状工具によって刺突が施される。内面にはススが付着している。3は棒状の土製品である。長軸方向に穿孔され、表面には円形の棒状工具による刺突が施される。4は筒形の土製品である。5～12はミニチュア土器である。いずれも深鉢形であり、平坦口縁のもの(6～8･11)と波状口縁のもの(5･12)が認められる。12は波頂部に穿孔がなされる。文様は無文が主体だが、沈線文や刺突文を施すもの(6・7)も認められる。6は口縁部が内傾する器形で、沈線文と刺突文が施される。8は口縁部が内湾しており、鐸形土製品の可能性もある。13～31は土器片利用土製品で、すべて円形である。縁辺を打ち欠きによって成形したものと、打ち欠き後に磨りによって成形したものが認められる。いずれも十腰内I式土器の胴部破片を用いたものとみられ、隆帯によって文様を表出するもの(13)、地文縄文のみのもの(15･16)、沈線間に縄文を充填するもの(14)、単軸絡条体による格子目状文が表出されるもの(17･18)、沈線で波状入組文などの文様を表出するもの(19･20)、櫛歯状沈線が施されるもの(21～25)、無文のもの(26～31)がある。（木村）

4　石製品 (図52、写真図版29)

石棒の破片が1点、石刀の破片が2点出土している。図52-1の石棒は粗粒玄武岩製である。石刀については、より残存状況の良い粘板岩製の図52-2を図示した。（齋藤岳）

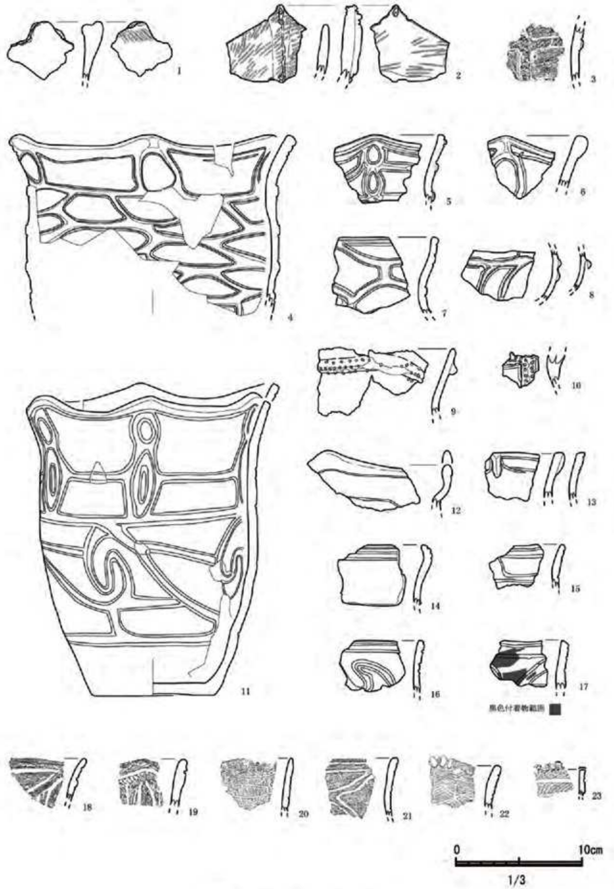


図30　舘遺跡　遺構外出土土器１

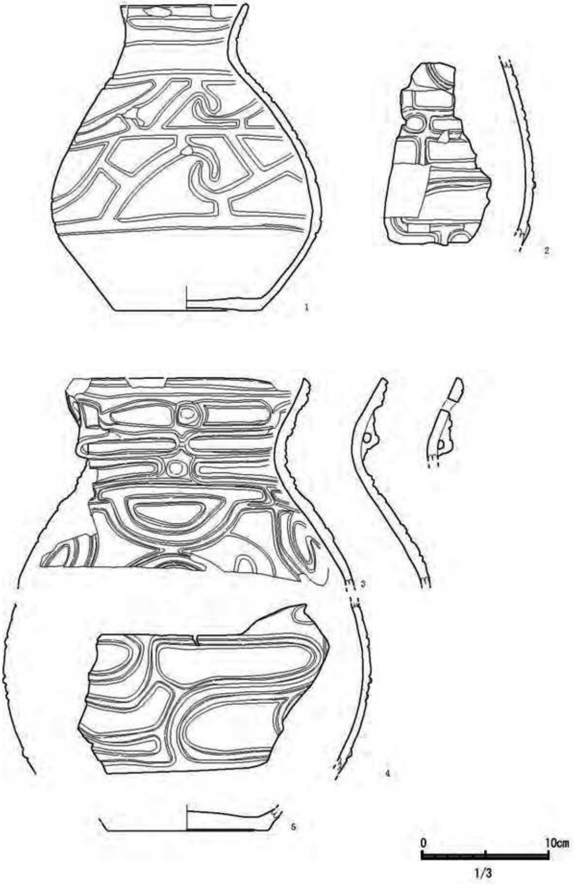


図31　舘遺跡　遺構外出土土器２

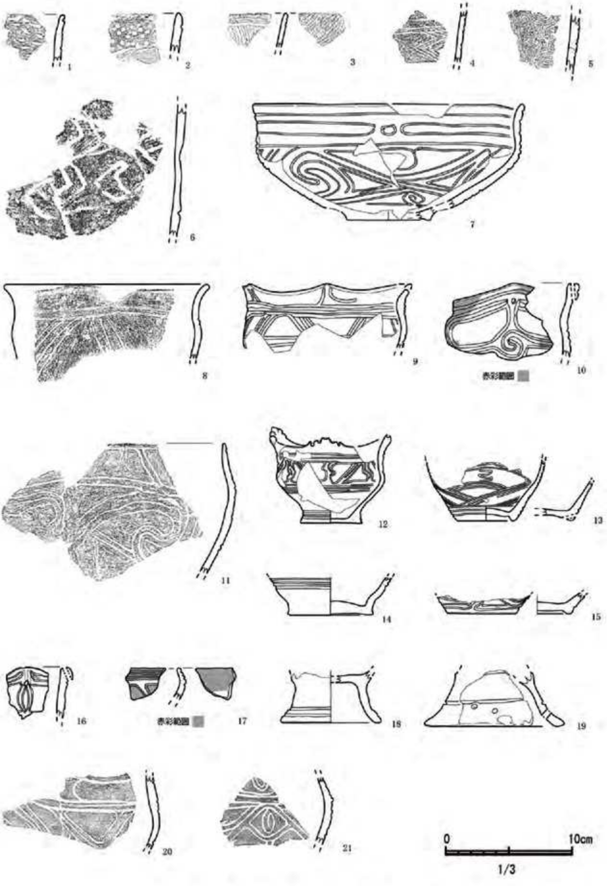


図32　舘遺跡　遺構外出土土器３

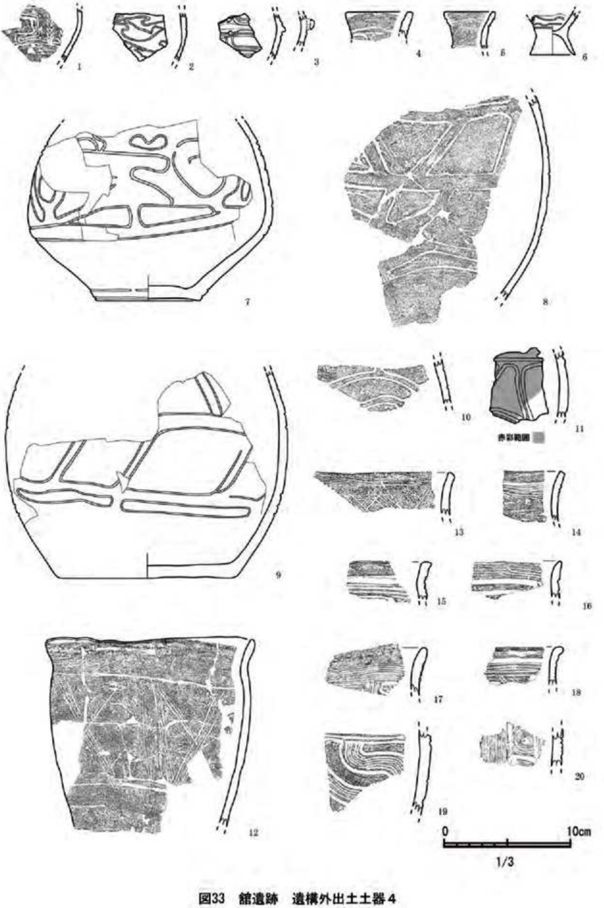


図33　舘遺跡　遺構外出土土器4

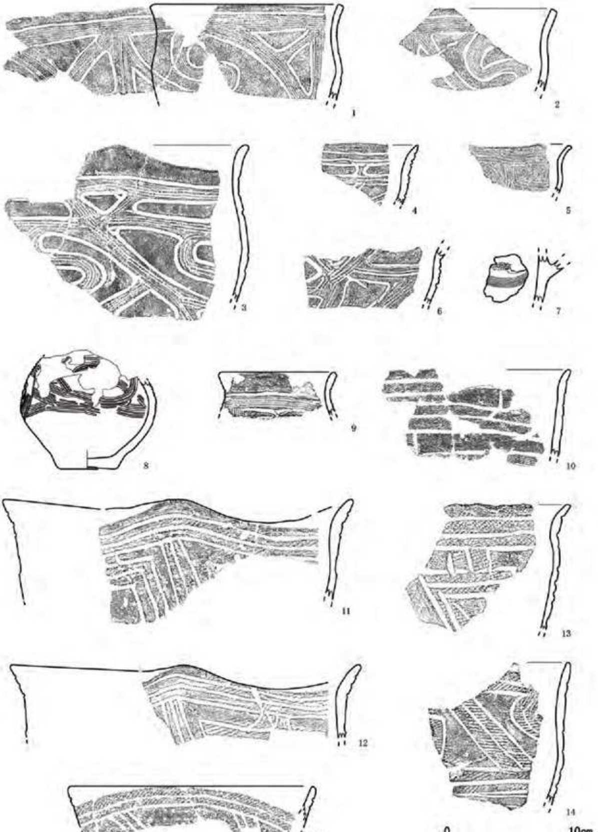


図34　舘遺跡　遺構外出土土器５

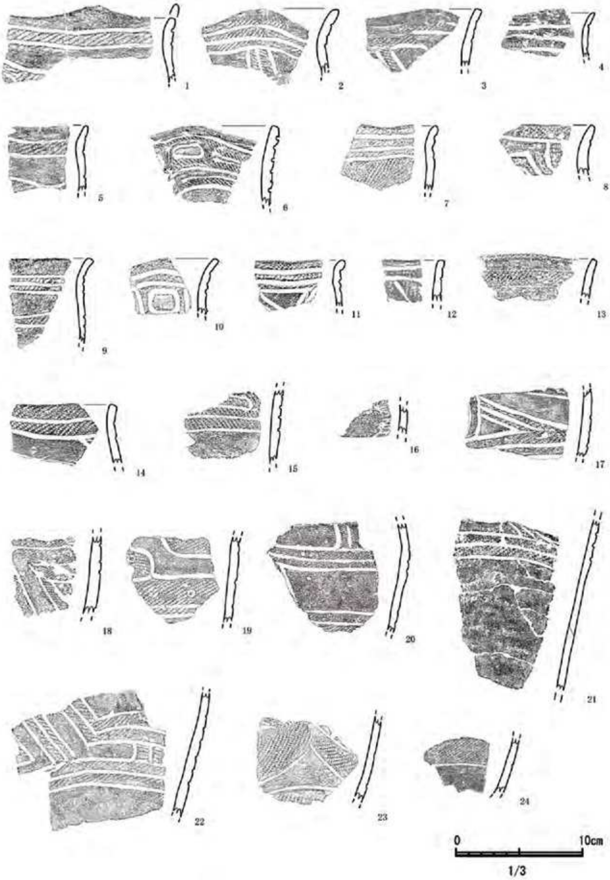


図35　館遺跡　遺構外出土土器6

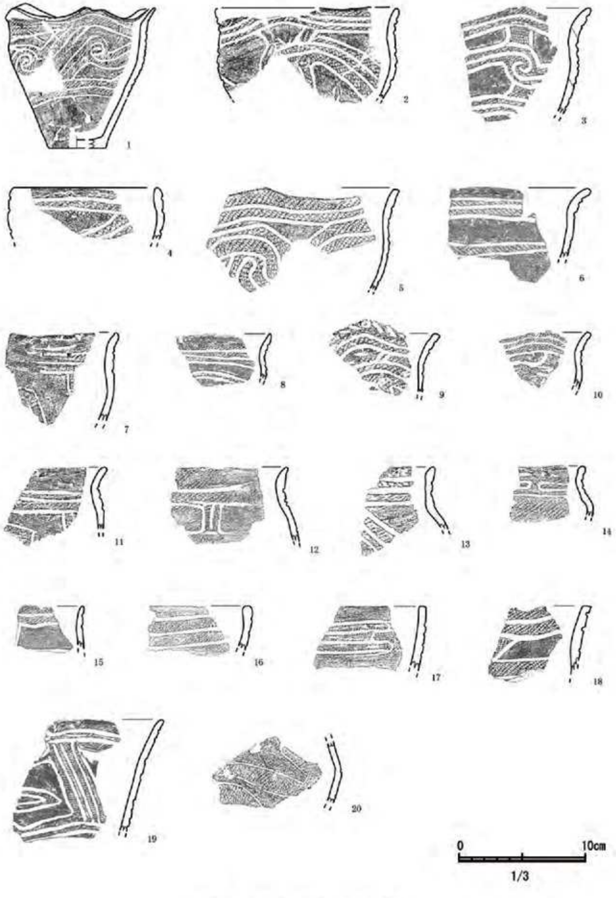


図36　舘遺跡　遺構外出土土器７

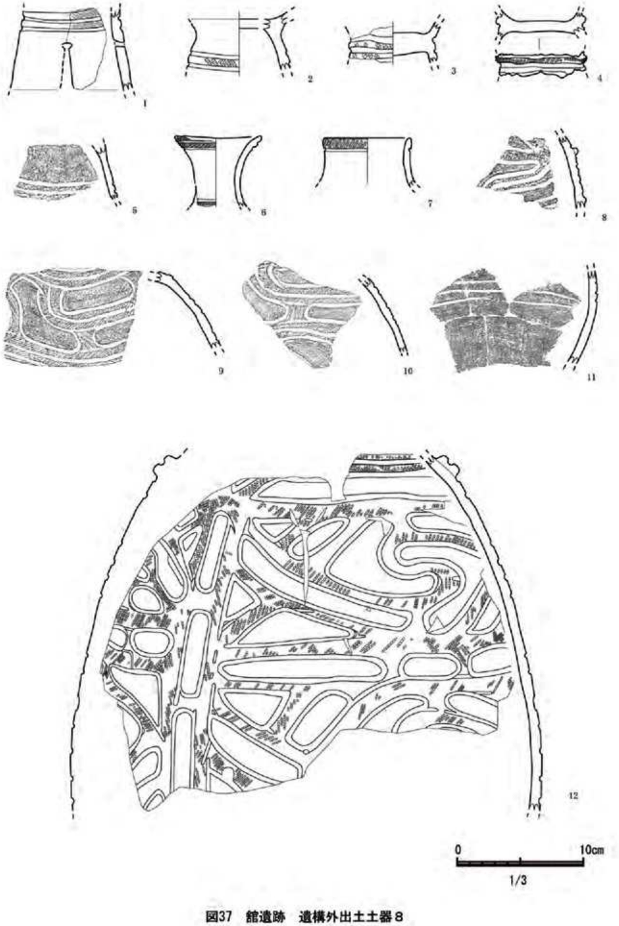


図37　館遺跡　遺構外出土土器８

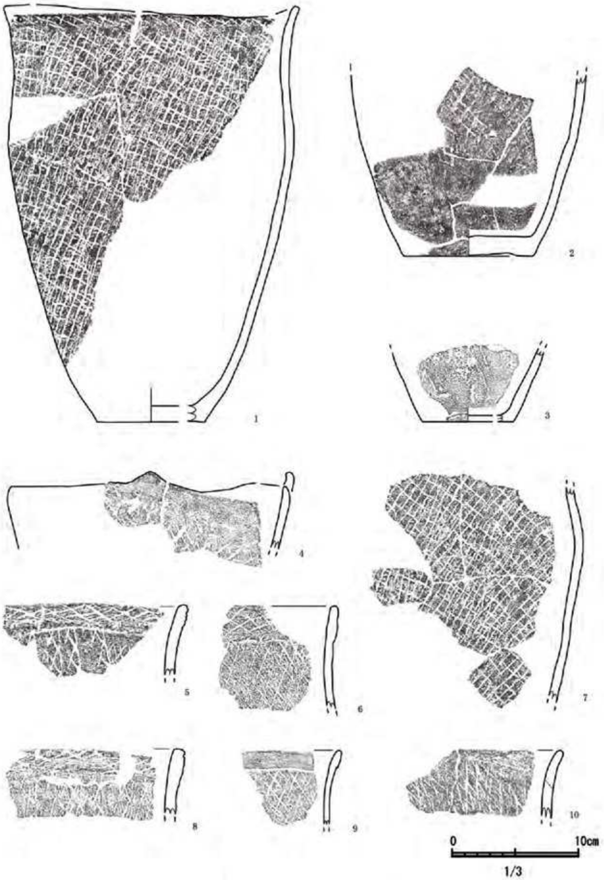


図38　館遺跡　遺構外出土土器９

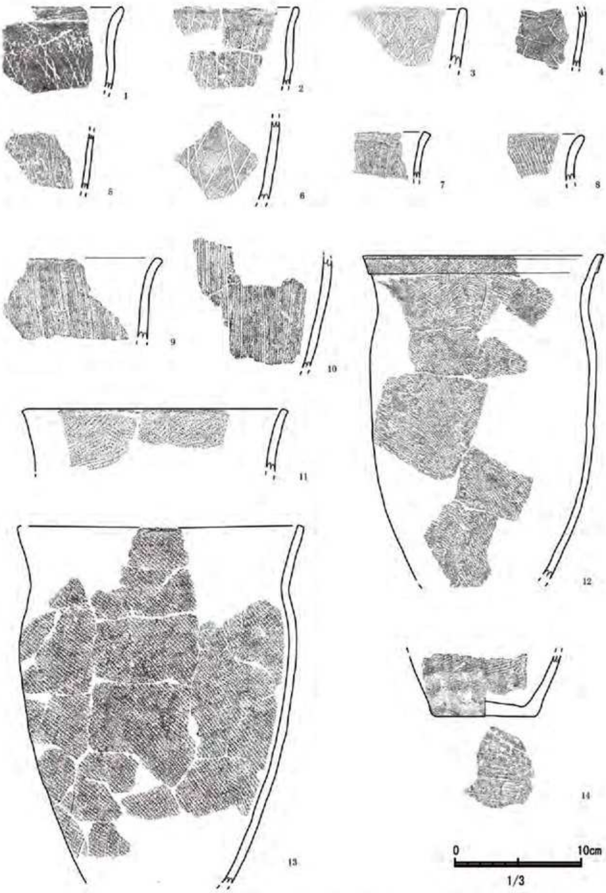


図39　館遺跡　遺構外出土土器10

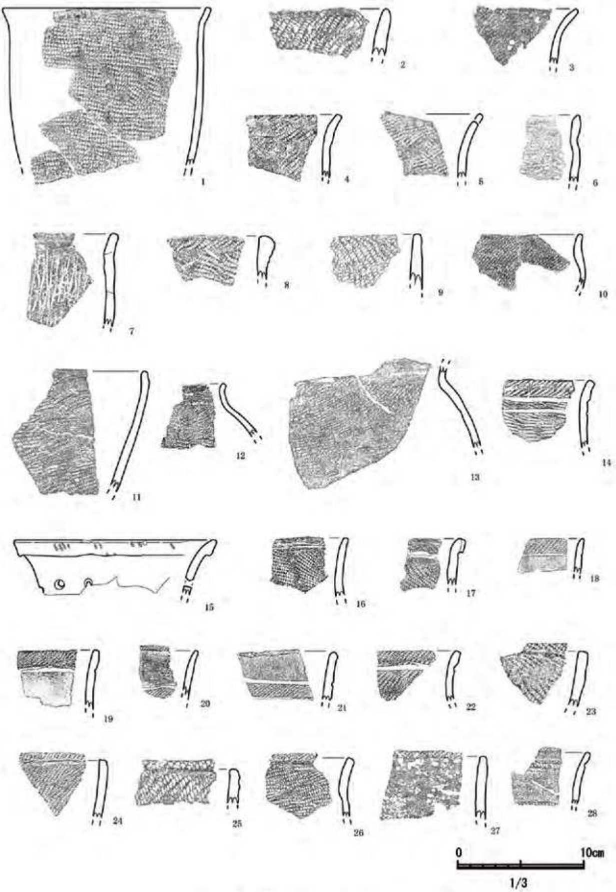


図40　舘遺跡　遺構外出土土器11

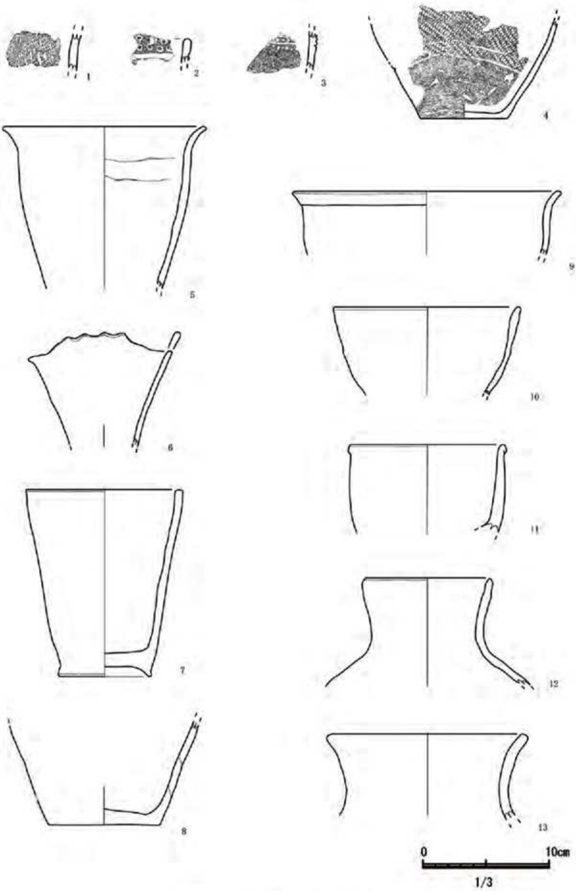


図41 舘遺跡 遺構外出土土器12

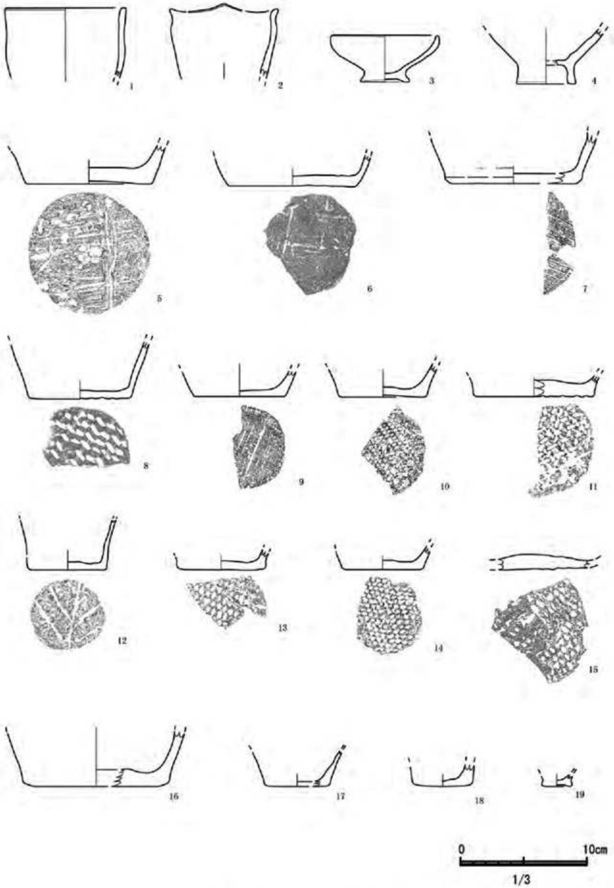


図42　館遺跡　遺構外出土土器13

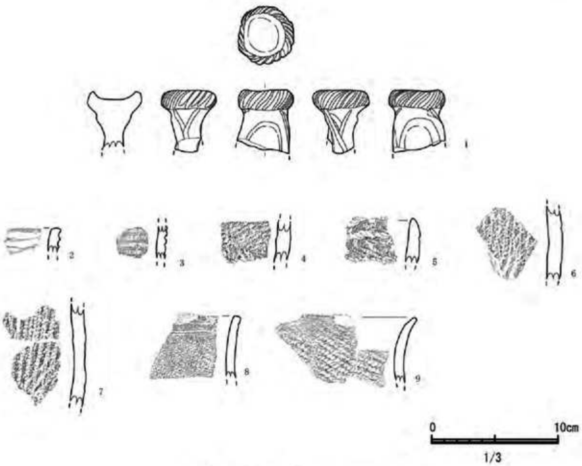


図43 舘遺跡 遺構外出土土器14

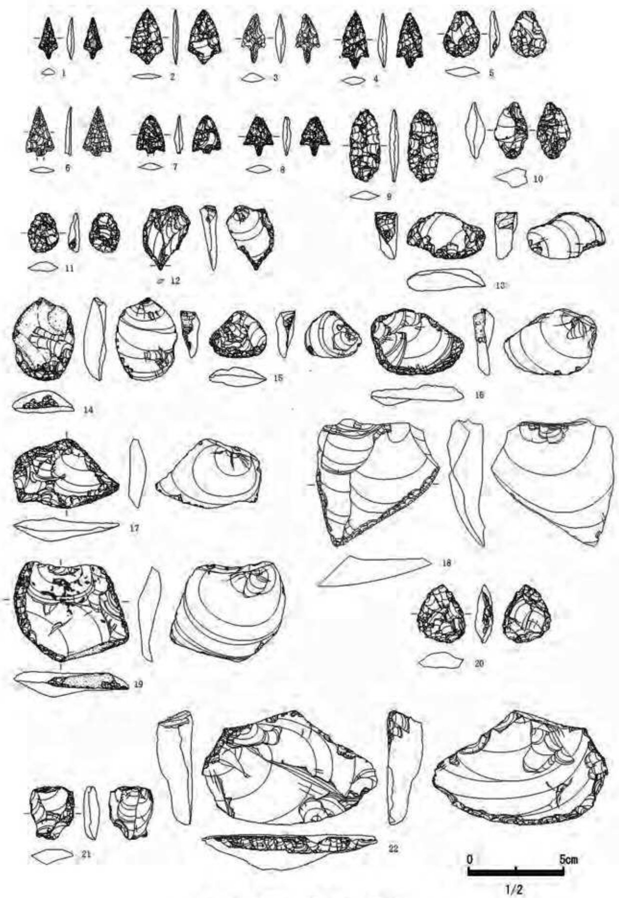


図44　館遺跡　遺構外出土石器1

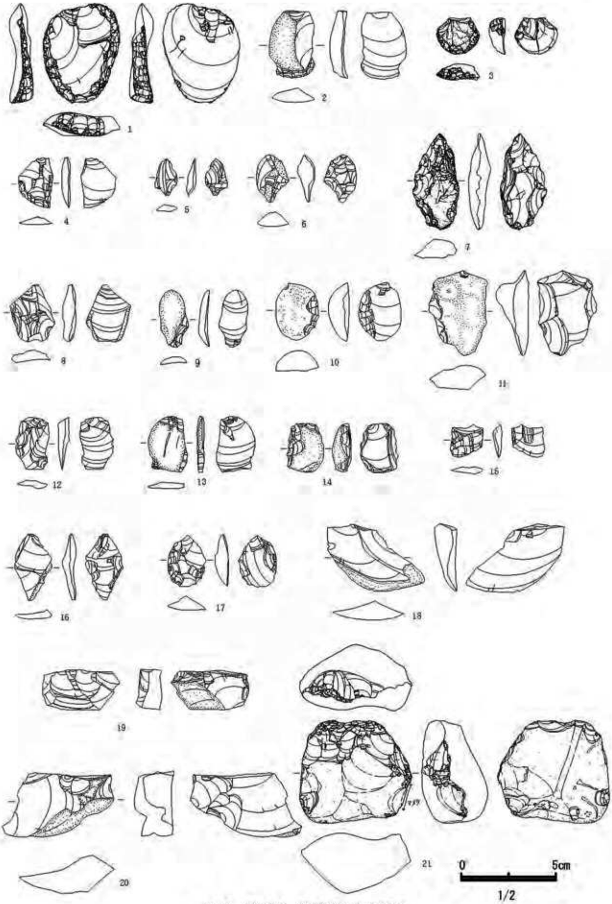


図 45　館遺跡　遺構外出土石器２

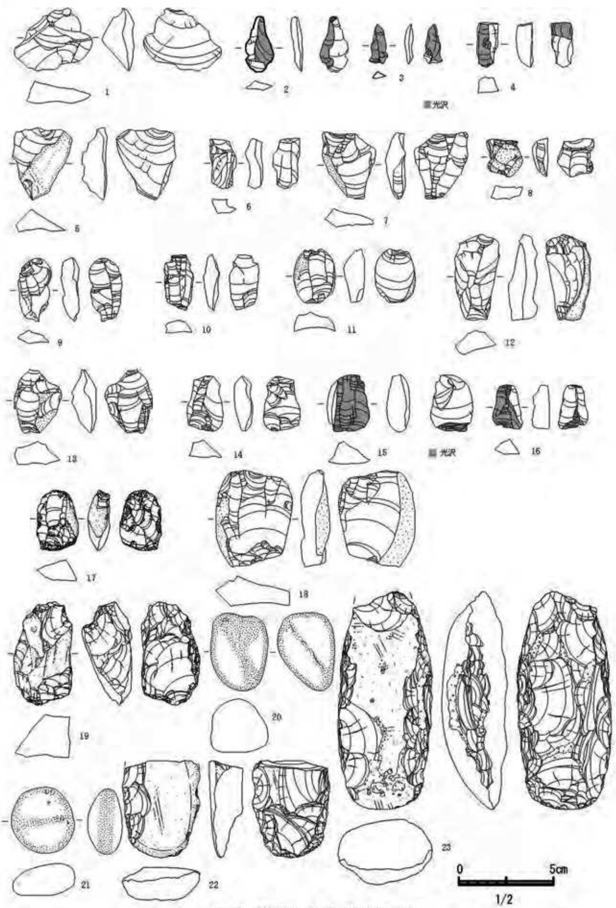


図46　館遺跡　遺構外出土石器３

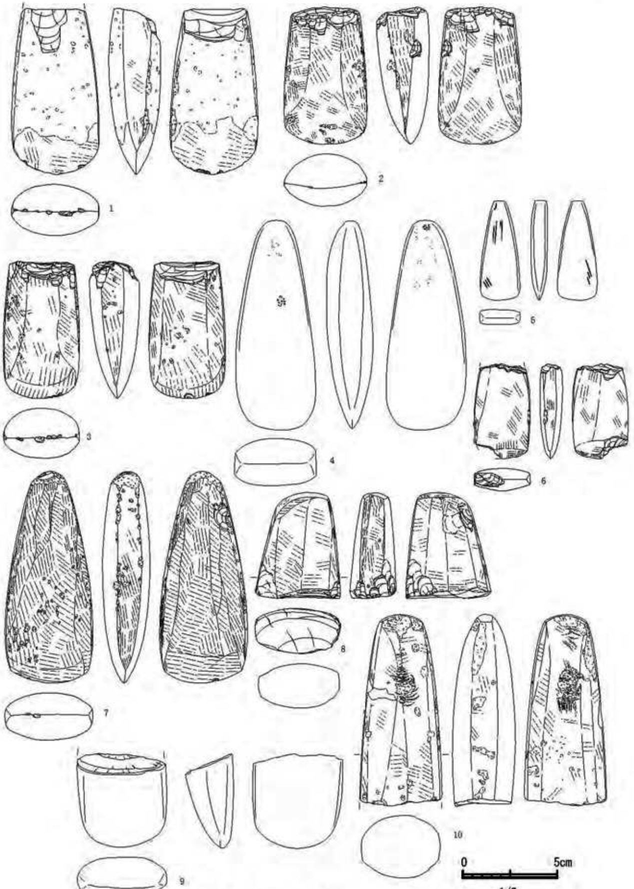


図47　館遺跡　遺構外出土石器４

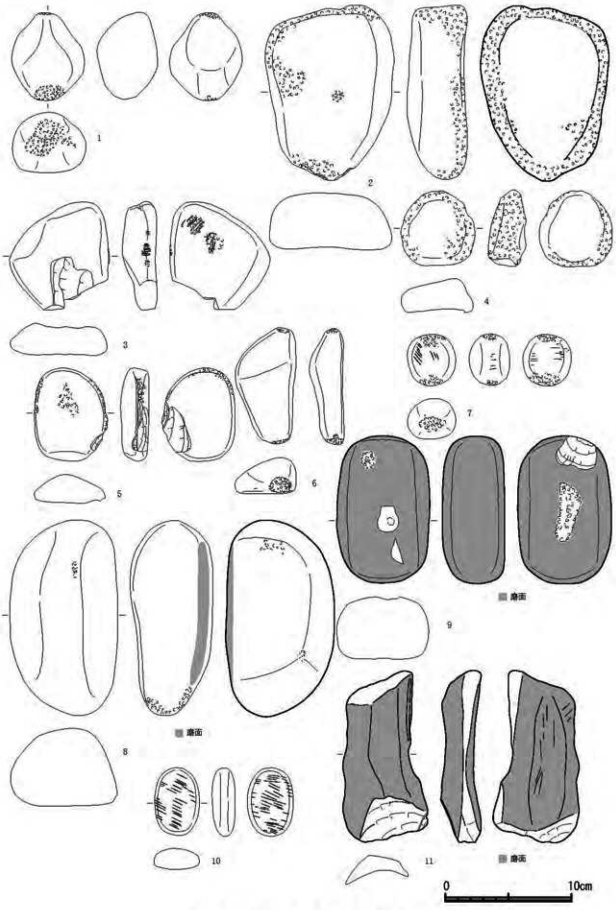


図48　館遺跡　遺構外出土石器５

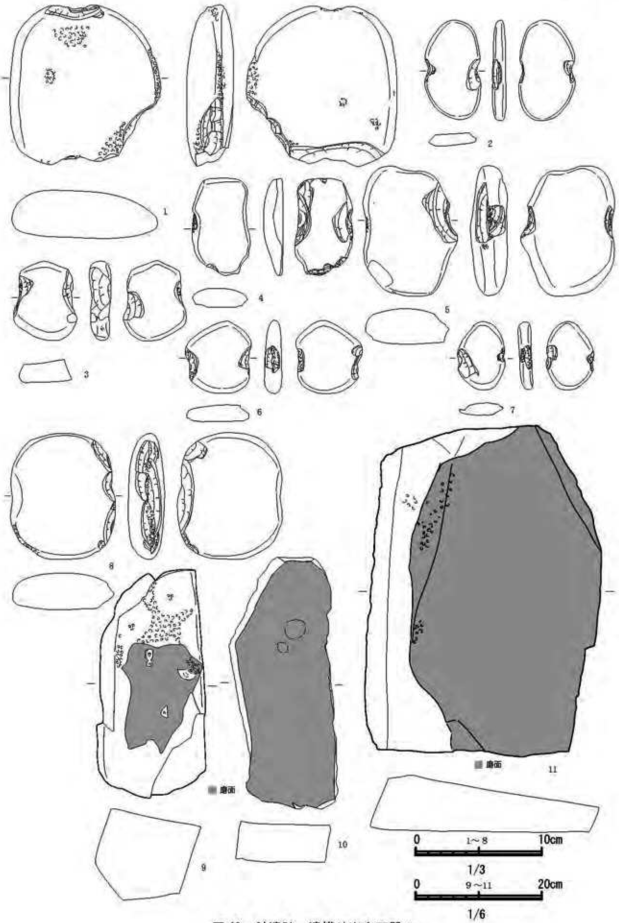


図49　舘遺跡　遺構外出土石器６

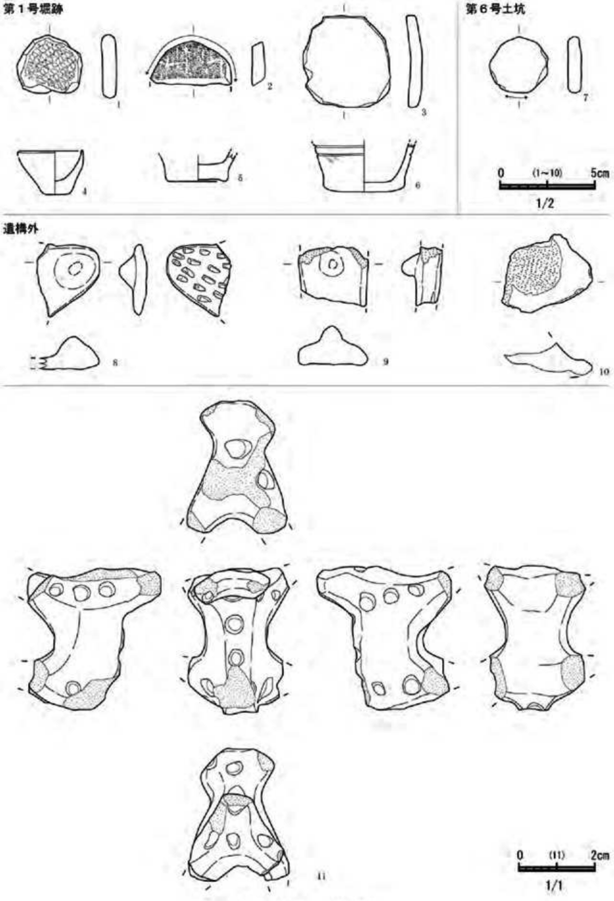


図50　舘遺跡　土製品1

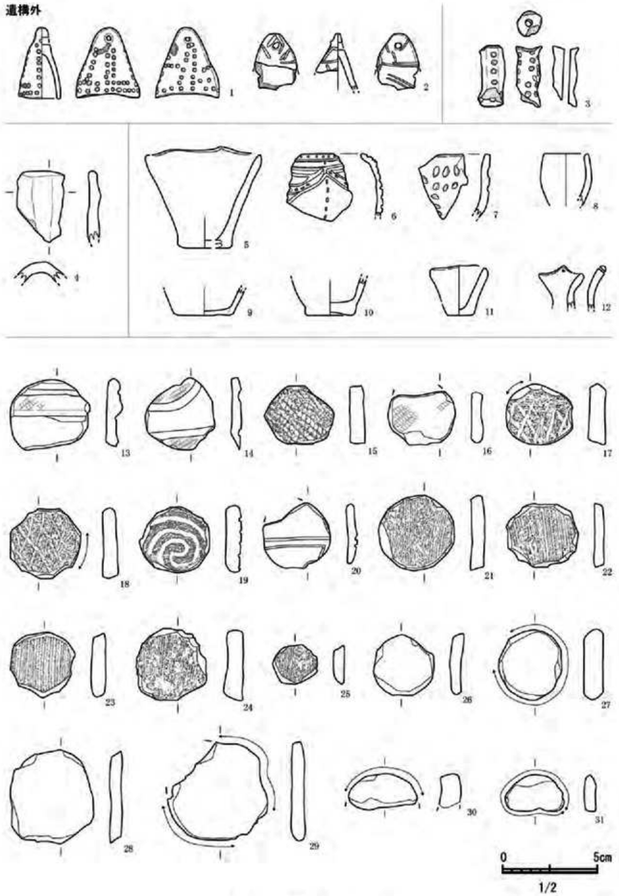

遺構外
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
0
5cm
1/2

図51　舘遺跡　土製品2

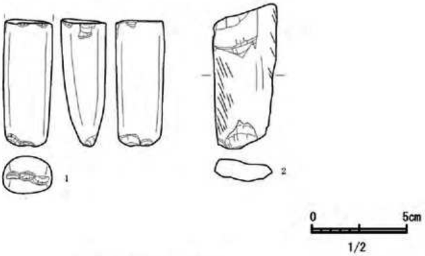


図52　舘遺跡　石製品

舘遺跡　第１号堀跡調査状況

第４編　自然科学分析

第１章　舘遺跡のプラント・オパール分析

㈱パレオ・ラボ

１．はじめに

青森県南部町に所在する舘遺跡において、中世の堀跡が検出された。この堀跡の埋土には、周囲からの流入土や投げ込み土と推測される層準が確認されており、これらの層準から堆積物が採取された。以下では、試料について行ったプラント・オパール分析の結果を示し、植物珪酸体の組成による堆積物の類似性について検討した。

２．分析試料および方法

分析試料は、第１号堀跡の土層断面B-B'から採取された３点である。試料一覧を表1に、試料採取層準を図1に示す。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約１g（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約0.04mm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが300個に達するまで行った。また、植物珪酸体の写真を撮り、図版１に載せた。

表１　分析試料一覧

試料No.	遺構	層位	時期	土質
A	第１号堀跡	6層	中世?	黒色（10YR2/1）シルト
B		8層		ローム粒混じり黒褐色（10YR3/2）シルト
C		44層		黒色（10YR1.7/1）シルト

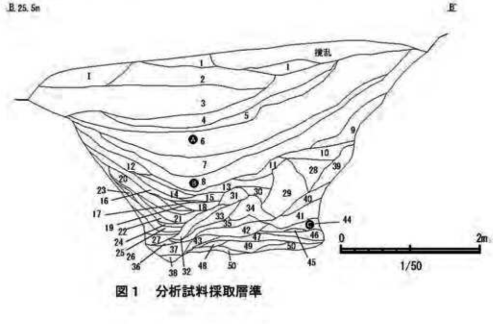


図１　分析試料採取層準

3. 結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め（表2）、分布図に示した（図2）。

3試料の検鏡の結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、他のタケ亜科機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の8種類の機動細胞珪酸体の産出が確認できた。

表2　試料1g当りのプラント・オパール個数

	イネ（個/g）	ネザサ節型（個/g）	ササ属型（個/g）	他のタケ亜科（個/g）	ヨシ属（個/g）	シバ属（個/g）	キビ族（個/g）	ウシクサ族（個/g）	ポイント型珪酸体（個/g）
A	6,700	14,600	32,000	1,300	6,700	18,600	127,800	6,700	0
B	1,600	4,800	14,300	0	0	3,200	43,000	3,200	0
C	27,300	15,800	74,800	5,800	2,900	12,900	162,500	21,600	7,200

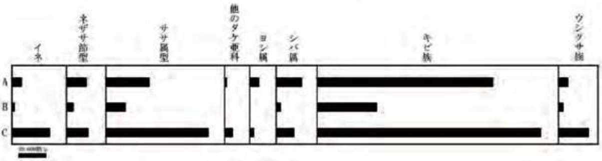


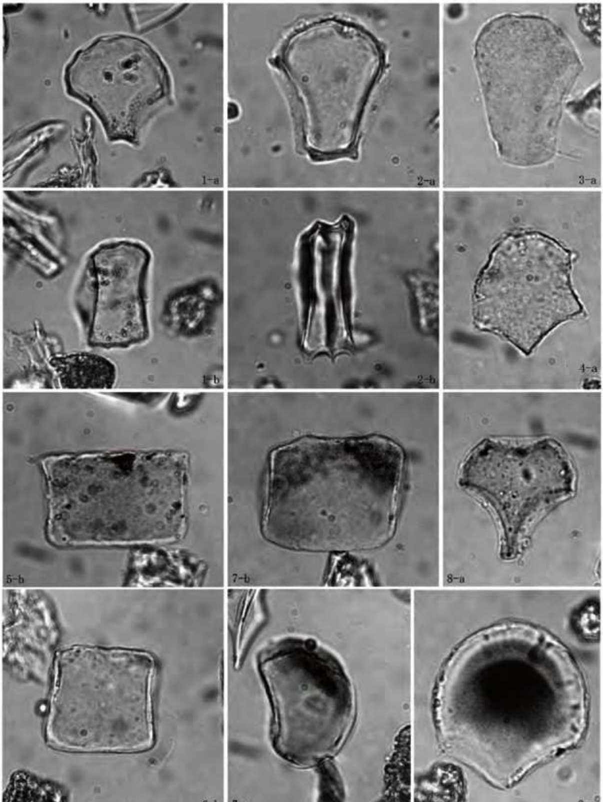
図2　植物珪酸体分布図

4．考察

3試料ともに産出が確認できたのが、イネとネザサ節型、ササ属型、シバ属、キビ族、ウシクサ族の機動細胞珪酸体である。これら分類群の産出量に注目すると、AとCは産出量が比較的多く、Bは産出量が少ない傾向にある。また、Bにはローム粒も含まれており、Bの堆積物は堆積速度が比較的速かったと推測される。すなわち、Bの堆積物は人為的あるいは自然発生的にローム粒が混じるような堆積をしており、堆積速度が速かったため、イネ科植物の葉身や植物珪酸体が取り込まれにくかったと考えられる。

AとCについては比較的多くの機動細胞珪酸体が含まれているが、Cにより多くの機動細胞珪酸体が含まれていた。このような植物珪酸体の相違は、堆積速度の違いか、植生の違いを反映していると思われる。

（森　将志）



図版１　産出した植物珪酸体

1. イネ機動細胞珪酸体（C）
2. ネザサ節型機動細胞珪酸体（A）
3. ウシクサ族機動細胞珪酸体（C）
4. ササ属型機動細胞珪酸体（A）
5. キビ族機動細胞珪酸体（C）
6. キビ族機動細胞珪酸体（C）
7. キビ族機動細胞珪酸体（C）
8. シバ属機動細胞珪酸体（A）
9. ヨシ属機動細胞珪酸体（A）

a: 断面　b: 側面

第5編　総括

第１章　西張（３）遺跡

西張（３）遺跡は南部町東部に位置し、馬淵川右岸の標高約20～30ｍの段丘上に所在している。今回の発掘調査において遺構は溝状土坑、遺物は縄文時代早期・後期・晩期の土器や石器が確認された。

本遺跡は平成６・７年度に東北新幹線建設事業に伴い発掘調査が実施されていることから、過去の調査結果もふまえて時代ごとにまとめを行う。

［縄文時代］ 竪穴建物跡、集石遺構、配石遺構、土坑、溝状土坑を検出した。

竪穴建物跡は平成６年度の調査で縄文時代早期の竪穴建物跡を１棟検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸４ｍ、短軸3.1ｍである。柱穴は両端の壁際に２基検出された。

配石遺構は平成６年度の調査で１基検出した。安山岩の７個の礫がＶ字状に配置されているように出土している。四角い扁平な礫が多く、割れているものも数個見られ接合することができる。台石として使用された可能性のものもある。配石遺構の周辺からは、石器が出土しており、作業場の可能性も考えられている。時期は検出層位や周辺の出土遺物から縄文時代早期と考えられている。

集石遺構は平成７年度の調査で１基検出した。東西140㎝、南北70㎝の範囲に安山岩の角礫が10個検出されている。周辺の出土遺物から縄文時代後期から晩期に構築されたと考えられる。

土坑は平成６・７年度の調査で15基検出されている。検出層位から13基が中期～後期と考えられる。時期が分かる例として、縄文時代早期の平面形が円形で底部に逆茂木痕を持つ土坑１基と縄文時代後期の遺物が出土して後期と考えられる土坑１基がある。

溝状土坑は平成６年度の調査で３基、平成７年度の調査で５基、平成30年度の調査で１基の合計９基が検出されている。等高線に沿って検出したものがあり、台地から馬淵川へ下る斜面に構築されたと考えられる。配置については、平成７年度の調査区では北西側に３基まとまって検出された。その他の溝状土坑はそれぞれ離れて検出しており、散漫な配置となっている。いずれも規則性を見いだすことはできない。時期は縄文時代中期～後期と思われる。

逆茂木痕を持つ円形土坑や溝状土坑が検出されたことから縄文時代は断続的に狩猟場としても使われたことがわかった。

遺物は縄文土器と石器、土製品が出土している。縄文土器は縄文時代早期～前期・後期・晩期が確認されたが、早期と後期が大半を占める。石器は剥片石器（石鏃、石匙、不定形石器等）、礫石器（磨製石斧、石錘、凹石、磨石等）が出土している。土製品は円盤状土製品、キノコ形土製品が出土している。

［弥生時代］ 遺構は検出されていないが、平成７年度の調査で砂沢式の浅鉢形土器が出土している。

［古代以降］ 濠跡を検出した。平成６・７年度の調査で検出した第１号濠跡は段丘平坦面から段丘崖にかけて、ほぼ東西方向に構築され、両端とも調査区外に延びている。全長95ｍ、幅2.8～11ｍ、深さ1.9～6.5ｍと大規模である。断面形状はＶ字状及び逆台形を呈している。時期については、時期決定できる遺物が出土していないため不明であるが、規模と形状から古代以降と推定されている。濠跡の配置からは、館跡主体部は段丘平坦面に存在したと思われるが、削平により不明である。舘遺跡の第１号堀跡と断面形状で類似点はあるものの、対岸にあることから関係性は無いと思われる。　（齋藤正）

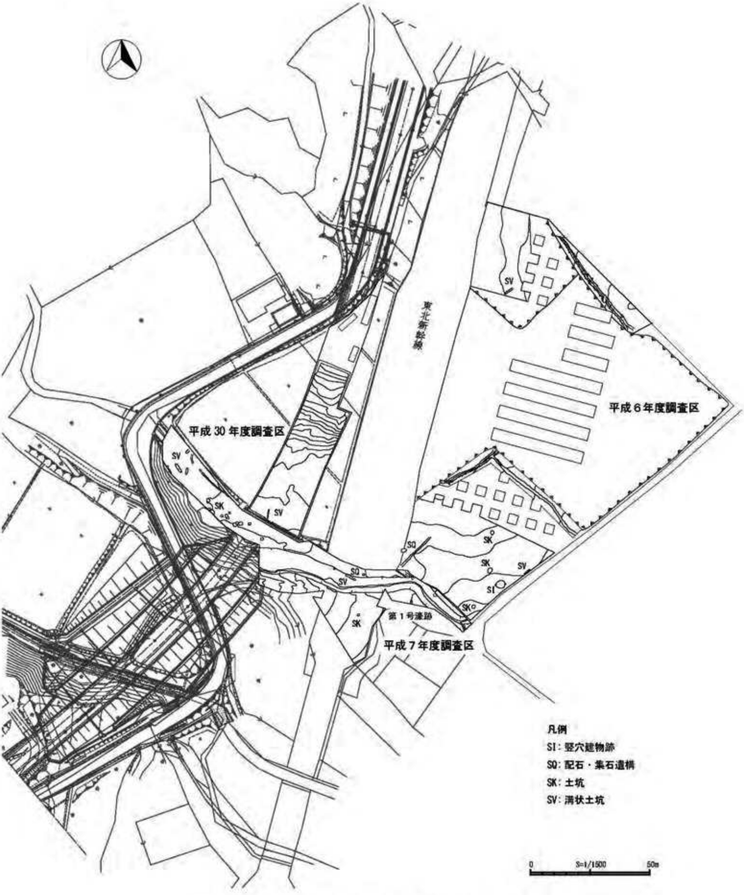


図53　西張（3）遺跡　遺構配置図（平成6・7・30年度調査）

第2章 舘遺跡

第1節 縄文時代の遺構と遺物について

(1)縄文時代の遺構 (図54)

舘遺跡では、縄文時代の土坑8基、溝状土坑1基が検出された。いずれも近現代の耕地開発による地形改変の影響を受けており、遺存状態は良くない。第1・2・8号土坑と第3・5号土坑は、それぞれ東西方向に並んで構築されている。第1～3・8号土坑は断面形がフラスコ状を呈する土坑である。第3号土坑は他の3基とやや離れたⅠU-35・ⅠV-35グリッドに位置する。遺物は第2号土坑堆積土から縄文時代後期初頭から前葉の土器が、第3号土坑堆積土から十腰内Ⅰ式に比定される土器が出土した。

第4～7号土坑は断面形が皿状を呈する土坑である。第6・7号土坑は遺物の出土量が比較的多い。第7号土坑堆積土からは十腰内Ⅰ式古段階に比定される土器が出土した。第6号土坑は上部が大きく削平されていたが、本来堆積土の最下層であったとみられる1層から十腰内Ⅰ式新段階に比定される深鉢形土器や土器片利用土製品、石鏃や削器の可能性がある二次加工剥片が出土した。

第4号土坑からは縄文時代前期前葉の土器が出土しており、構築時期も前期前葉以前に遡る可能性があるが、これを除くすべての土坑は後期前葉を主体とした時期に属するものと考えられる。

調査区では土坑が2～3基のまとまりで並列する様相がうかがえる。フラスコ状土坑からは遺物が少なく、皿状となる土坑からは比較的まとまって遺物が出土した。フラスコ状土坑は貯蔵穴としての機能が想定されており、2種類の土坑のなかに利用方法の違いが存在した可能性がある。

溝状土坑は形態などから落とし穴としての機能が想定されており、時期は縄文時代中期後半から後期前葉と指摘されている(福田2018)。溝状土坑内からは遺物が出土していないため断定はできないが、本遺跡では後期初頭以前の人々の活動の痕跡は乏しく、後期前葉に属する可能性がある。

上記の遺構・遺物の出土地点はⅠV-33グリッド以北に集中していることから、調査区北東部に縄文時代後期の活動の中心があったと推測される。調査区内から出土した遺物量に対して遺構数が圧倒的に少ないことから、遺構は調査範囲外に分布するか、竪穴建物跡などの掘り込みが比較的浅い遺構は地形改変によって削平されている可能性が高い。舘遺跡から100mほど北東には、縄文時代後期前葉の遺物が出土した西張(3)遺跡がある。西張(3)遺跡でも同時期の竪穴建物跡などは検出されていないが、本遺跡周辺は縄文時代後期前葉の人々の活動の場が広がっていたと考えられる。

(2)縄文時代後期の土器・土製品

舘遺跡では縄文時代早期後葉から後期中葉の土器が出土した。その中でも主体となるのは、後期前葉に属するものである。

縄文時代後期に属する粗製土器には、縄文原体の側面圧痕を施文するものが一定数認められる(図26-9～11、図40-28)。これらの土器は十腰内Ⅰ式から十腰内Ⅱ式をつなぐ時期の土器として位置付けられているもので、秋田県居熊井遺跡や岩手県上野B遺跡などで確認されている。同様にこの時期以降に特徴的な器形とされている、片口壺の口縁部も出土した(写真25-2)。舘遺跡において十腰内Ⅱ式期の遺構は検出されていないが、沢を挟んで500mほど北東に位置する西張(2)遺跡では、後期中葉(十腰内Ⅱ～Ⅲ式期)の竪穴建物跡が検出されており、舘遺跡との関わりが指摘できる。

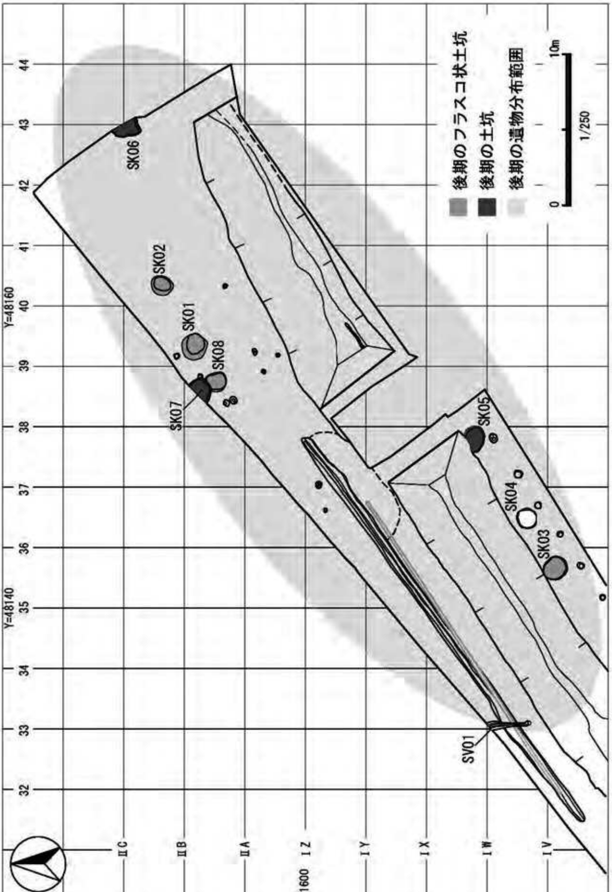


図54　館遺跡　縄文時代の土坑・溝状土坑配置図

土製品は土偶や動物形土製品、鐸形土製品やミニチュア土器、土器片利用土製品などが出土した。動物形土製品は四肢の端部が剥落していることから、動物形内蔵土器など、何らかの器面に貼り付けられていた可能性がある。本来耳と尾があったと推測される部分や顔面は剥落しており、全体形は明らかでない。動物形内蔵土器は縄文時代後期前葉にみられ、動物形土製品は青森県においては縄文時代後期初頭～晩期にみられる。種類が判別できるものではクマやイノシシが主体であり、イヌらしきものも含まれると指摘されている(福田2019)。クマやイノシシとされる土製品は頭部が背中よりも低い位置に付く傾向にあるが、舘遺跡で出土したものは頭部が背中よりも高い位置にあり、その形態からイヌを模したものである可能性が指摘できる。同様のものは西目屋村砂子瀬遺跡で出土している（青森県教育委員会2014)。

以上のように、出土した土製品は、動物形土製品や鐸形土製品など、十腰内Ⅰ式に伴うものが主体である。

(3)縄文時代の石器・石製品

石器・石製品の出土地点別、器種別、石材別数量は表3・4に記載し、グラフ化して図55に示した。そして、剥片石器の多数を占める珪質頁岩製石器と玉髄製石器の数量についてもグラフ化して図56に示した。

ほとんどが縄文時代後期前葉の十腰内Ⅰ式に属する物と考えられるため、本稿及びグラフ等の数量は遺構内外を合算した数量を記載している。その他の時期としては、縄文時代前期前葉などのものを少量含んでいると考えられる。

(1)剥片石器

表4に示したように、剥片石器全体の409点のうちで、珪質頁岩製のものは230点(56.2%)、玉髄製のものは157点(38.4%)である。両者で剥片石器全体の94.6%をしめる。石材の鑑定では「玉髄質珪質頁岩」といった細分を行っていないため、珪質頁岩には、玉髄質のものを含んでいる。その一部は、肉眼的に見て玉髄に見えるくらいに珪化が良い。他に赤鉄鉱(鉄石英)が18点(4.4%)、チャートが3点(0.7%)、珪化木が1点(0.2%)、碧玉が1点(0.2%)となっている。

器種に関しては 14点出土した石鏃を除くと、定形石器は少ない。石錐は1点、石篦は2点の出土であり、いずれも珪質頁岩製である。石匙が出土していないことが注目される。

図56に示したように珪質頁岩製の石器では、二次加工剥片が34点(計320.1g)、削器が14点(計275g)と多い。削器は1点あたりの平均重量が19.6gと比較的大型であり、いずれも刃部の加工は丁寧である。

玉髄製石器は、小型であり、多くが両極打法で剥片を生産している。玉髄製剥片は石鏃7点の素材となっているほか、小型の削器・掻器の素材となっている。

石核は、珪質頁岩製のものは、両極打法が多用される玉髄質のものを含んでおり、剥片素材の石核もあるため、計9点のうち1点あたりの平均重量は13gと小型である。玉髄製のものは、ほとんどが両極打法に伴うものであり、10点のうち1点あたりの平均重量は5.6gと、さらに小型である。剥片は、珪質頁岩製のものは、計148点のうち1点あたりの平均重量は5.3gである。玉髄製のものは、多くが両極打法に伴うものであり、109点のうち1点あたりの平均重量は4.2gと、小型である。

玉髄は原石が2点出土しており、在地の石材と考えられる。珪質頁岩の原石は出土していない。珪質頁岩は遺跡周辺に産しないので、産地のある津軽地方や下北地方西部などからの搬入品と考えられる。西張(3)遺跡では、平成6年度調査区の北区で両極打法による「玉髄質珪質頁岩」製の剥片等が十

腰内Ⅰ式土器に伴って出土しており、玉髄質の珪質頁岩は、在地石材の可能性がある。

なお、黒曜石は全く出土していない。

また、石器の一部には明確な光沢が確認できるため、図に網掛けを行った。光沢は特に二次加工部分にみられ、加熱処理による光沢(御堂島1993)の可能性がある。しかし、弱い光沢の物については光沢の認定自体が難しい。さらには埋没後の表面変化による光沢(岡沢1995)その他の要因による光沢の発生の可能性、加熱処理を意図していない被熱(受熱)との区分など、慎重に検討する必要があり、弱い光沢は図示せず、観察表にのみ記載している。

図45-19•20の２点の石核は珪質頁岩製の大型剥片の折面を打面とした石核である。打面となった折面をはじめ、被熱のため黒色や赤褐色に色調が変化している。図版等の完成後に双方の上面が接合したため、下に写真を掲載した。

図 45-19(写真上側)と20(写真下側)の接合状況

(２)打製石斧・磨製石斧

第１号堀跡から出土した図29-６は、剥片素材の打製石斧であり、刃部付近の厚みがない。類例は縄文時代前期初頭に多いことが知られている(齋藤2012)。図46-23は刃部付近に素材礫の曲面を残す粗粒玄武岩製の打製石斧である。両側面を中心に敲打痕がみられ、厚さ3.5cmと厚みがある。磨製石斧の加工初期の打製石斧形状のものに類似する。舘遺跡からは、石斧成形段階で発生する調整剥片が全く出土していない。そのため、この形状のまま搬入されたものと考えておきたい。

磨製石斧については、多様な石材が使用されている。石斧石材のうち石斧に適した先第三紀の安山岩や粗粒玄武岩は、八戸市から階上町にかけての海岸沿いで採取できる。八戸市沢堀込遺跡(青森県教育委員会1992)、階上町道仏鹿糠遺跡(青森県教育委員会2011)などで、それらの石材を用いた磨製石斧製作が行われている。閃緑岩を含む花崗岩類は、階上町から岩手県久慈市にかけての遺跡で磨製石斧石材として使用されているほか、下北半島北東端の尻屋崎産のものが下北半島部で磨製石斧に加工されている。図47-９は肉眼的に尻屋崎産のものに類似している。十腰内Ⅰ式期では、六ヶ所村上尾駮(２)遺跡で、閃緑岩製磨製石斧の未成品等が数多く出土しており(青森県教育委員会1988)、製作遺跡の一つと考えられる。緑色片岩と鑑定されたものは北海道日高地方のアオトラ石（緑色片岩相の緑色岩）と考えられる。不明とされた石斧は、筆者が以前、資料を観察したことのある盛岡市手代森

遺跡や川目Ａ遺跡の「蛇紋岩製」と報告されたものに肉眼的に類似している。

（３）礫石器

舘遺跡は馬淵川に近く、段丘を開析する小河川からも段丘礫が得られるため、馬淵川で採取可能なチャートなどの石材については獲得が容易と考えられる。

器種では、敲石が73点と多く、磨石は10点、凹石は３点と少ない。石皿は17点、台石は４点であるが、多くは欠損品である。他に石錘が23点、剥離のある礫が10点、擦痕のある礫が２点、砥石が２点、くびれ石や石棒状の礫など搬入自然礫が５点出土した。

特筆されるのは23点出土した石錘である。小型楕円礫の短軸方向に抉りが入るものがほとんどである。紐かけの抉りは、両極打法による加工痕跡の残るものがある。抉りを作り出す剥離が向かい合うため、多くが両極打法により作り出されているものと考えられる。

石錘は、舘遺跡周辺では、馬淵川右岸の南部町西久根遺跡（青森県教育委員会2006）から縄文時代前期末から中期初頭のものが11点図化されている。礫の短軸側に抉りのあるものが多く、長短の両軸に抉りのあるものも出土している。

南部町の南に隣接する三戸町では、馬淵川右岸の中野（２）遺跡（縄文時代前期末～中期）のSI-02竪穴住居跡（縄文時代中期；円筒上層ａ～ｂ式期）から19点出土し、遺構外から28点出土している。礫の短軸側に抉りのあるものが多い（三戸町教育委員会2001）。また、馬淵川左岸の三戸町沖中（１）遺跡（縄文時代後期前葉～後葉主体）では、57点の石錘が出土しており、楕円礫の短軸方向に抉りが入るものが54点で約95％を占める（三戸町教育委員会2002）。

以上から馬淵川中流域の三戸郡南部町と三戸町では、縄文時代前期末から後期には楕円礫の短軸方向に抉りが入るものが多数を占めるといえる。

舘遺跡の石器群のほとんどが帰属する縄文時代後期前葉の十腰内Ⅰ式期には、青森県内では石錘の出土数量が多い。六ヶ所村上尾駮（２）遺跡Ｂ・Ｃ地区では226点出土した（青森県教育委員会1988）。青森市近野遺跡第二次調査で石器総数の30.8％にあたる173点が（青森県教育委員会1975）、近野遺跡第三・四次調査では石器総数の約22％にあたる216点が出土した（青森県教育委員会1977）。岩木川上流域の砂子瀬遺跡Ａ・Ｂ区は、縄文時代後期前葉の十腰内Ⅰ式期の遺物が主体をなす。石錘は159点が出土している（青森県教育委員会2012・2014）。各遺跡ともに楕円礫の短軸方向に抉りが入るものが多数を占め、十腰内Ⅰ式期の時代性を表している。

なお、縄文時代早期中葉の石錘は南部町の位置する三戸郡内では新井田川支流の松館川に近い階上町小板橋（２）遺跡で、267点出土している。礫の長軸側に抉りを持つものが88％と多数を占める（階上町教育委員会2002）。礫の長軸側に抉りを持つ石錘は青森県内では、太平洋岸の六ヶ所村から三沢市、八戸市、階上町にかけての早期中葉の遺跡で多数出土している。

両極打法による敲石としては、溝状の敲打痕が観察できる図48-３があげられる。溝状の敲打痕は御堂島正による実験で、両極打法で剥片を割り取る敲石に典型的なものであることが追試されている（御堂島2005）。玉髄製の両極打法の石器群に対応する溝状の敲打痕が観察できる台石は舘遺跡から出土していないものの、同様の台石の出土例は青森県内では縄文時代後期前半の今別町二ッ石遺跡第５号土坑例（青森県教育委員会1989）を除きほとんど知られていない。そのため、舘遺跡内で両極打法による剥片生産が行われていたものと考えておきたい。　（齋藤岳）

表3　館遺跡　出土地点別　石器・石製品出土点数

出土地点	石鏃	石錐	石篦	削器	掻器	二次加工剥片	微細な剥離痕のある剥片	剥片	石核	ピエス・エスキーユ	磨石	敲石	凹石	砥石	剥離のある礫	擦痕のある礫	石錘	打製石斧	磨製石斧	石皿	台石	搬入自然礫	原石	石棒	石刀
第1号堀跡	1		2				1	33	3	1	2	10	1		3	1	2	1	1	2		3			
第1号溝跡						3	1	14	3	1		4			1		2					1			
第1号土坑					1																				
第3号土坑	1							1																	
第4号土坑						1																			
第6号土坑	1					2		15				1													
第7号土坑						1						2					1								
第1号性格不明遺構								1																	
遺構外	11	1		18	6	48	6	210	16	4	8	56	2	2	6	1	18	2	14	15	4	1	3	1	2
遺構内外合計	14	1	2	18	7	55	8	274	22	6	10	73	3	2	10	2	23	3	15	17	4	5	3	1	2

表4　館遺跡　遺構内外合計　石器・石製品石材別出土数量

石材	数量	石鏃	石錐	石篦	削器	掻器	二次加工剥片	微細な剥離痕のある剥片	剥片	石核	ピエス・エスキーユ	磨石	敲石	凹石	砥石	剥離のある礫	擦痕のある礫	石錘	打製石斧	磨製石斧	石皿	台石	搬入自然礫	原石	石棒	石刀
珪質頁岩	点数	7	1	2	14	3	34	7	148	9	4									1						
珪質頁岩	重量(g)	7.8	5.6	31.4	275	65.4	320.1	78.1	778.7	117.2	76.1									23.9						
玉髄	点数	7			4	3	20	1	109	10	1													2		
玉髄	重量(g)	7.4			52.5	29.3	167.7	6.5	453.8	56.3	8.9													121.4		
珪化木	点数								1																	
珪化木	重量(g)								21.8																	
赤鉄鉱	点数						1		16	1																
赤鉄鉱	重量(g)						2.8		97.4	26.4																
碧玉	点数										1															
碧玉	重量(g)										44.6															
チャート	点数					1				2		1	27			1		6					4			
チャート	重量(g)					3.9				127.5		482.3	6252.2			204.2		821					8428.7			
粘板岩	点数															1				1						2
粘板岩	重量(g)															166.3				3.6						55.9
頁岩	点数																		1							
頁岩	重量(g)																		37.2							
凝灰岩	点数												6	3	2	1		1		2	4					
凝灰岩	重量(g)												1143.4	1213.8	286.3	22.1		161.7		77.5	285.3					
砂岩	点数												1					1								
砂岩	重量(g)												16.9					34.1								
玄武岩	点数																				1					
玄武岩	重量(g)																				1256.7					
粗粒玄武岩	点数											2	3					1	2	3					1	
粗粒玄武岩	重量(g)											1389.9	1658.4					54.1	326.7	560.5					67.6	
安山岩	点数											3	23			3		10		2	11	4				
安山岩	重量(g)											1629.1	8614.4			633.8		936.7		269.2	53637	18917				
デイサイト	点数											2	7			4	1	4			1					
デイサイト	重量(g)											1171.1	2909.8			314.8	51.2	978.4			1187.2					
流紋岩	点数											1	6							1			1			
流紋岩	重量(g)											1471.2	736.3							15			47.5			
閃緑岩	点数																			3						
閃緑岩	重量(g)																			428.2						
花崗閃緑岩	点数											1														
花崗閃緑岩	重量(g)											699.4														
ホルンフェルス	点数																1									
ホルンフェルス	重量(g)																290.3									
緑色片岩	点数																			1						
緑色片岩	重量(g)																			38.2						
石英	点数																							1		
石英	重量(g)																							48.3		
不明	点数																			1						
不明	重量(g)																			30.2						

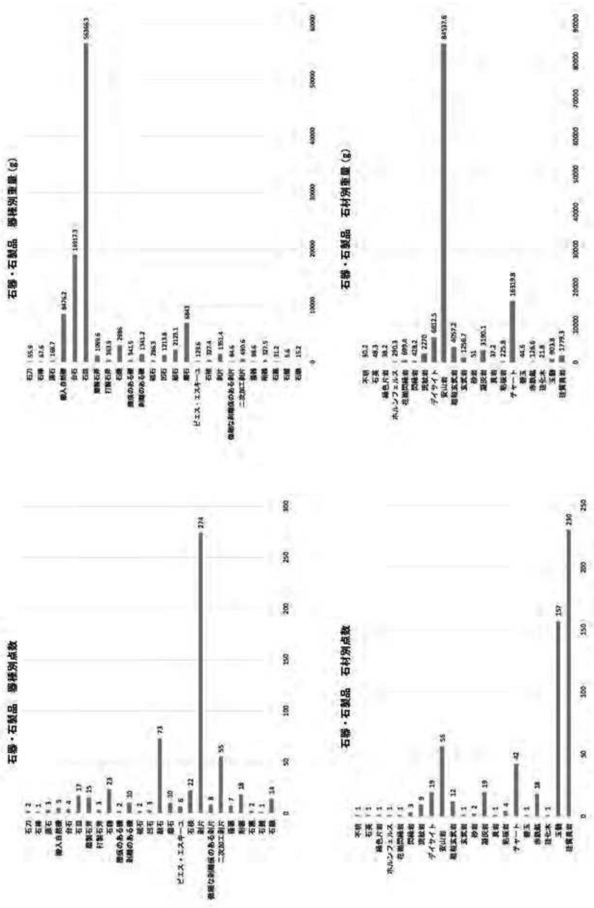


図55　舘遺跡　石器・石製品　器種別・石材別数量

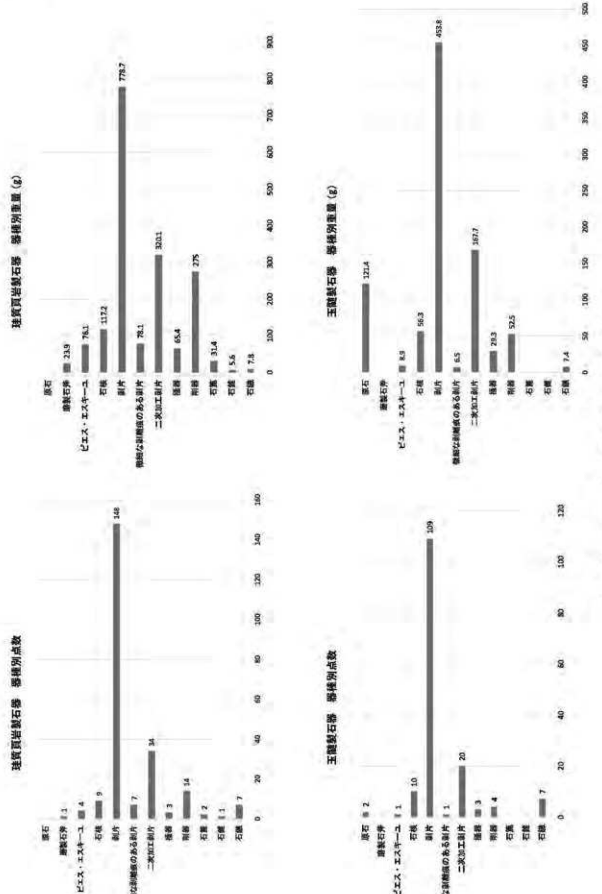


図56　館遺跡　珪質頁岩・玉髄製石器　器種別数量

第2節 城館の構造と規模について

縄張り調査で判明している城館の構造(第1編第2章第3節参照)

舘遺跡は過去の縄張り調査などにより、二重のL字状の堀と曲輪をもつ城館であることが知られていた。今回の調査区外にあたる部分では、2条の堀跡の一部が完全に埋没しておらず、現在でも窪みとして確認できる箇所がある。

発掘調査で判明した堀の規模と構造(図57)

調査では、二重の堀のうち外側の堀(堀2)の一部を検出した(第1号堀跡)。第1号堀跡は北東から南西にかけて延び、南西端で北西方向に屈曲する。図57は縄張り図に第1号堀跡を合成したものである。堀2の南東辺の一部は耕作地となっており、現況でその痕跡を確認することはできない。しかし、堀跡が窪みとして確認できる部分と第1号堀跡の方向が合致することから、これらは一連のものと考えられる。第1号堀跡の北東端は調査区外へ続いており、調査区外の部分は表土直下が十和田-八戸火山灰層まで削平されていることからその延長は判然としない。しかし、本来は堀がさらに北東側まで続き、沢に合流していたと推測される。

第1号堀跡と縄張り調査によって判明している堀跡のプランを合わせると、堀2の規模は南北約150m、東西約160mとなる。第1号堀跡の最大幅は6.15m、深さは最大で確認面から3.08mである。縄張り調査では、堀跡の幅8～10mとされている。第1号堀跡の上部が削平されていることを考慮すると、構築当時は幅10m程度であった可能性が高い。

第1号堀跡の断面形は主に薬研状を呈する。底面付近からは湧水があり、堆積土の状況から機能時は底面付近に水が溜まっている状態だったと考えられる。

曲輪内の構築物について

第1号堀跡の北西側に広がる平坦面は曲輪と想定される部分だが、掘立柱建物跡や土塁などの城館に関わる遺構は検出されなかった。削平を受けて遺構が破壊されている可能性もあるが、当該期の遺物がいっさい出土していないことから、構築物があった可能性は低いと推測される。また、第1号溝跡は第1号堀跡に並行して検出されたが、堀跡が埋没した後に構築された第1号性格不明遺構よりも新しく、直接的な関わりはないと考えられる。第1号堀跡は近現代まで完全には埋没していなかったことから、第1号溝跡・第1号性格不明遺構は現代に近い時期に構築されたものである可能性が高い。また、ⅠS-33グリッドからⅠV-37グリッドにかけて第1号堀跡に並行するピット列が検出されたが、柱痕や遺物は確認されておらず、性格や時期は不明である。

通路について(図5)

曲輪内への通路に関して、『南部諸城の研究』や『青森県の中世城館』では県道櫛引上名久井三戸線から曲輪内にある墓地へ続く道を「大手」と指摘している(沼館1976、青森県教育委員会1982)。沼館氏が調査をおこなった昭和20年代には、第1号堀跡にあたる部分は完全に埋没しておらず、土橋がかけられていたようである。一方で『福地村史 上巻』では聞き取り調査の結果、上記の土橋は近現代にかけられたものであるとして、大手という指摘には疑問を呈している(福地村2005)。今回の調査においても土橋や木橋といった遺構は確認されず、大手の位置は不明である。大手以外の通路については、『南部諸城の研究』で城館北東側に出口と記述されている部分があり、現況は沢へ下る急勾配の傾斜となっている。通路の痕跡を確認することはできなかったが、存在するとすれば、最短距離で本郭に至る事

が可能な道となる。

城館の存続期間と機能

調査区内からは、堀跡及び城館の年代を示す遺物が出土しなかった。しかし、堀跡の規模や形状から16世紀代に機能し廃絶しているものと思われる。第1号堀跡には改築・改修の痕跡が認められないことから、短期間の存続だった可能性が高い。また、近現代に埋め立てられたと考えられる層以外は自然堆積であることから、城館は破却されたものではないと推測される。

城館の機能として『南部諸城の研究』では、堀以外の防備がないことから「屋敷型」の城館であるとし、「河岸交通路に接するので土豪の居館に適する。伝えの城か或いは監視哨的任務を有するに過ぎない。」としている（沼館1976）。『福地村史　上巻』では、内部を区画する堀が小規模であることなどから、上級武士の屋敷と指摘している（福地村2005）。今回の調査では主たる曲輪部分の調査を行っていないため推測の域を出ないが、居住の痕跡は見出しがたく、居住空間以外の機能を担っていた可能性を指摘しておきたい。

（木村）

図57　舘遺跡　堀跡復元図

引用・参考文献

青森県 2003『青森県史　資料編　考古 4　中世・近世』
青森県 2004『青森県史　資料編　中世 1　南部氏関係資料』
青森県 2005『青森県史　資料編　考古 3　弥生～古代』
青森県 2013『青森県史　資料編　考古 2　縄文後期・晩期』
青森県 2017『青森県史　資料編　考古 1　旧石器　縄文草創期～中期』
青森県教育委員会 1975『近野遺跡発掘調査報告書（Ⅱ）』青森県埋蔵文化財調査報告書第 22 集
青森県教育委員会 1977『近野遺跡発掘調査報告書（Ⅲ）　三内丸山（Ⅱ）遺跡発掘調査報告書』
　青森県埋蔵文化財調査報告書第 33 集
青森県教育委員会 1981『新納屋（2）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 62 集
青森県教育委員会 1983『青森県の中世城館』
青森県教育委員会 1988『上尾駮（2）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 115 集
青森県教育委員会 1989『二ッ石遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 117 集
青森県教育委員会 1989『館野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 119 集
青森県教育委員会 1991『雷・西山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 136 集
青森県教育委員会 1996『西張（3）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 197 集
青森県教育委員会 1997『石焼沢・西張（3）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 213 集
青森県教育委員会 1998『西張（2）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 233 集
青森県教育委員会 1999『櫛引遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 263 集
青森県教育委員会 1999『高岩（1）遺跡・高岩（2）遺跡・白蛇（1）遺跡・鳥河岸遺跡』
　青森県埋蔵文化財調査報告書第 266 集
青森県教育委員会 2000『櫛引遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 272 集
青森県教育委員会 2000『岩ノ沢平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 287 集
青森県教育委員会 2001『上野平（3）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 296 集
青森県教育委員会 2001『岩ノ沢平遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 301 集
青森県教育委員会 2004『中野館跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 375 集
青森県教育委員会 2004『法師岡遺跡外』青森県埋蔵文化財調査報告書第 378 集
青森県教育委員会 2005『法師岡館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 387 集
青森県教育委員会 2006『西久根遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 407 集
青森県教育委員会 2011『堀端（1）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 503 集
青森県教育委員会 2012『砂子瀬遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 513 集
青森県教育委員会 2012『堀端（1）遺跡Ⅱ・上明戸遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 517 集
青森県教育委員会 2014『砂子瀬遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 543 集
青森県教育委員会 2017『鳥舌内館』青森県埋蔵文化財調査報告書第 584 集
青森県立郷土館 1997『馬淵川流域の遺跡調査報告書』青森県立郷土館調査報告書第 40 集
秋田県教育委員会 1981『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅰ』秋田県文化財調査報告書第 78 集
三戸町教育委員会 2001『中野（2）遺跡』三戸町埋蔵文化財調査報告書第 2 集

三戸町教育委員会 2002『沖中（1）遺跡』三戸町埋蔵文化財調査報告書第３集
三戸町教育委員会 2005『三戸城跡　平成 16 年度発掘調査概報』三戸町埋蔵文化財調査報告書第５集
三戸町教育委員会 2006『三戸城跡　平成 17 年度発掘調査概報』三戸町埋蔵文化財調査報告書第６集
三戸町教育委員会 2019『三戸お城講座－甦る三戸城の歴史－』町制施行三十周年記念事業資料集
名川町教育委員会 1999『森ノ越館遺跡』名川町埋蔵文化財調査報告書第４集
南部町教育委員会 2000『本三戸城跡　沖田面幹２号線道路改良に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書』
南部町埋蔵文化財調査報告書第８集
南部町教育委員会 2001『佐藤館跡発掘調査報告書』南部町埋蔵文化財調査報告書第 10 集
南部町教育委員会 2003『聖寿寺館跡発掘調査報告書Ⅷ』
南部町教育委員会 2004『聖寿寺館跡発掘調査報告書Ⅸ』
南部町教育委員会 2010『町内遺跡発掘調査報告書１』南部町埋蔵文化財調査報告書第４集
南部町教育委員会 2011『平良ヶ崎城跡発掘調査報告書』南部町埋蔵文化財調査報告書第６集
南部町教育委員会 2013『国史跡聖寿寺館跡発掘調査報告書』南部町埋蔵文化財調査報告書第７集
南部町教育委員会 2014『国史跡聖寿寺館跡発掘調査報告書』南部町埋蔵文化財調査報告書第８集
南部町教育委員会 2014『史跡聖寿寺館跡整備基本計画書』
南部町教育委員会 2016『国史跡聖寿寺館跡発掘調査報告書』南部町埋蔵文化財調査報告書第９集
南部町教育委員会 2019『令和元年度史跡聖寿寺館跡発掘調査現地説明会資料』
二戸市教育委員会 1991『九戸の戦　関係文書集』
二戸市教育委員会 1991『九戸の戦　関係軍記・記録集』
階上町教育委員会 2002『青森県階上町小板橋（2）遺跡』
八戸市 2009『新編八戸市史　考古資料編』
八戸市 2014『新編八戸市史　中世資料編　別冊　写真／系図・由緒書』
八戸市 2015『新編八戸市史　通史編Ⅰ　原始・古代・中世』
八戸市教育委員会 1988『八幡遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 26 集
八戸市教育委員会 1992『岩ノ沢平遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 46 集
八戸市教育委員会 1992『八幡遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 47 集
八戸市教育委員会 1993『殿見遺跡Ⅰ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 49 集
八戸市教育委員会 1993『岩ノ沢平遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 50 集
八戸市教育委員会 1994『殿見遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 57 集
八戸市教育委員会 1999『昼場遺跡・根岸山添遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 78 集
八戸市教育委員会 2000『人首沢遺跡・毛合清水（3）遺跡・大仏遺跡』
八戸市埋蔵文化財調査報告書第 84 集
八戸市教育委員会 2006『八戸市内遺跡発掘調査報告書 22』「八幡遺跡第３次」
八戸市埋蔵文化財調査報告書第 109 集
八戸市教育委員会 2007『八幡遺跡Ⅳ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 115 集
福地村 2005『福地村史　上巻』
福地村教育委員会 1997『苫米地館遺跡　試掘調査報告書』

榎本剛治 2008「十腰内Ｉ式土器」『総覧縄文土器』株式会社アム・プロモーション
岡沢祥子 1995「遺跡出土の頁岩製石器にみられる「光沢」」『お仲間林遺跡の研究 -1992年発掘調査 -』慶應義塾大学民族学・考古学研究室小報 11
上條信彦 2007「石皿と磨石」『縄文時代の考古学５　なりわい－食料生産の技術－』同成社
齋藤岳 2012「本州北東端の磨製石斧製作－三陸の石材環境への適応と石斧製作の解明にむけて－」『研究紀要』第 17 号　青森県埋蔵文化財調査センター
鈴木克彦 2001『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣
沼舘愛三 1976『南部諸城の研究（草稿）』みちのく双書第 33 集　青森県文化財保護協会
福田友之 2018『東北北部先史文化の考古学』同成社
福田友之 2019「狩猟文土器と動物形土製品」『季刊考古学』第 148 号
御堂島正 2005『石器の使用痕』同成社
御堂島正 1993「加熱処理による石器製作；日本の事例と実験的研究」『考古学雑誌』第 79 巻第 1 号
御堂島正 2017「石器の加熱処理と小瀬ヶ沢洞穴の石器」『山本暉久先生古希記念論集 二十一世紀考古学の現在』六一書房

表5　西張(3)遺跡 土器観察表

図番号	出土位置	層位	器種	部位	文様・調整等	胎土	時期
14-1	表採		深鉢	胴部	(外面)貝殻押引き文 (内面)ナデ	海綿骨針、砂粒	縄文時代早期中葉
14-2	ⅢQ-78	Ⅴ層	深鉢	胴部	(外面)貝殻押引き文 (内面)ミガキ	海綿骨針、砂粒	縄文時代早期中葉
14-3	ⅢN-77 ⅢO-78	Ⅳ層	深鉢	胴部	(外面)爪形状刺突、 貝殻腹縁文 (内面)ミガキ	砂粒	縄文時代早期中葉
14-4	ⅢP-75	Ⅲ層	深鉢	口縁部	(外面)沈線、無節L (内面)ナデ	砂粒	縄文時代後期前葉
14-5	ⅢO-74	Ⅱ層	深鉢	頸部	(外面)沈線、LR (内面)ナデ	砂粒	縄文時代後期前葉
14-6	ⅢN-76	試掘トレンチ 埋め戻し土	深鉢	胴部	(外面)沈線 (内面)ナデ	砂粒	縄文時代後期前葉
14-7	ⅢQ-77	Ⅱ層	深鉢	胴部	(外面)沈線 (内面)ミガキ	砂粒	縄文時代後期前葉
14-8	ⅢR-77	Ⅱ層	深鉢	胴部	(外面)単軸絡条体(R) (内面)ナデ	砂粒	縄文時代後期前葉
14-9	ⅢO-75	試掘トレンチ 埋め戻し土	深鉢	口縁部	(外面)LR横 (内面)ナデ	砂粒	縄文時代晩期後葉
14-10	ⅢO-75 ⅢP-75	Ⅱ層	深鉢	口縁部	(外面)LR横 (内面)ナデ	砂粒	縄文時代晩期後葉
14-11	ⅢO-76	試掘トレンチ 埋め戻し土	深鉢	口縁部	(外面)LR横 (内面)ナデ	砂粒	縄文時代晩期後葉
14-12	ⅢP-75	Ⅱ層	深鉢	胴部	(外面)LR横 (内面)ナデ	砂粒	縄文時代晩期後葉
14-13	ⅢN-77	Ⅲ層	深鉢	底部	(外面)ナデ (内面)ナデ 底径(4.8)cm	砂粒	時期不明

表6　西張(3)遺跡 石器観察表

図番号	出土位置	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
15-1	ⅢR-77	Ⅳ層	石匙	5.4	1.6	0.5	4.4	珪質頁岩	縦型
15-2	ⅢU-77	Ⅳ層	打製石斧	9.2	5.3	1.3	82.8	粗粒玄武岩	
15-3	ⅢM-75	Ⅱ層	磨石	10.1	7.9	4.2	515.5	安山岩	片面使用
15-4	ⅢN-77	Ⅴ層	磨石	14.2	6.7	6.2	740.1	デイサイト	両側縁使用
15-5	ⅢN-76	試掘トレンチ 埋め戻し土	磨石	8.2	6.7	4.9	385.3	凝灰岩	両側縁使用

表7　館遺跡 土器観察表

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器面調整・施文	時期	備考
25-1		第1号堀跡	覆土	深鉢	胴			4.7	0段多条LR横回	前期前葉	繊維混入
25-2	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	胴			3.9	LR横回	早期後葉	
25-3	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口			4.9	沈線(横位平行)、LR充填	後期初頭	
25-4	12	第1号堀跡 ⅠY-39	覆土 Ⅰ層	深鉢	口～胴			9.7	隆沈線(縦位楕円形文、方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
25-5	12	第1号堀跡	覆土	鉢	胴			5.9	隆沈線(渦巻文)	十腰内Ⅰ(古)	
25-6		第1号堀跡	覆土	深鉢	口			4.5	口縁部隆沈線(横位平行)、胴部沈線	十腰内Ⅰ(古)	
25-7	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口～胴			12.7	波状口縁、口唇波頂部刺突、口縁波頂部下貼付(楕円形)、隆沈線(横位、円形文)、胴部沈線(長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
25-8	12	第1号堀跡 ⅠZ-41	覆土 Ⅰ層	深鉢	口			4.2	沈線(横位平行、括弧状区切文、縦位区切文)	十腰内Ⅰ(古)	
25-9	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口～胴			5.8	沈線(横位、弧状文、楕円形文)	十腰内Ⅰ(古)	
25-10	12	第1号堀跡	覆土	鉢	胴			4.4	沈線(長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	外面赤彩
25-11	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口			8.4	波状口縁、櫛歯状沈線(横位、格子目文)	十腰内Ⅰ	
25-12	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口～胴			9.1	波状口縁、沈線(横位平行、方形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
25-13	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口	(27.7)		5.6	波状口縁、沈線(横位平行、方形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
25-14	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口～胴			6.8	沈線(横位平行、長方形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
25-15	12	第1号堀跡	覆土	鉢	口			4.6	波状口縁、口唇部刻み、沈線(横位平行、弧状)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
25-16	12	第1号堀跡 ⅠY-39 ⅠZ-41	覆土 Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	胴～底		(6.9)	8.4	沈線(横位)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
25-17		第1号堀跡	覆土	深鉢	胴			9.5	沈線(横位平行、長方形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	外面黒色付着物
25-18	12	第1号堀跡 ⅠZ-41	覆土 Ⅰ層	鉢	口～胴			5.6	口唇部刻み、沈線(横位平行、波状入組文、楕円形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
25-19	12	第1号堀跡	覆土	鉢	口～胴			4.5	口唇部刻み 外面：沈線(横位平行)、L充填、 内面：沈線(横位平行)、L充填、無文部ミガキ	十腰内Ⅰ(新)	補修孔
25-20		第1号堀跡	覆土	壺	胴			5.0	沈線(平行、楕円形文)、細いLR充填	十腰内Ⅰ(新)	
25-21	12	第1号堀跡	覆土	鉢	底		(5.2)	1.7	内面沈線(波状入組文)、LR充填、無文部ミガキ、底部網代痕(ござ目？)	十腰内Ⅰ(新)	
26-1	13	第1号堀跡	覆土	壺	頸			4.6	隆帯(断面三角形)、沈線(横位)、L充填、橋状把手	十腰内Ⅰ(古)	
26-2		第1号堀跡	覆土	壺	頸～胴			4.7	隆帯(断面方形、横位)、楕円形貼付、LR	十腰内Ⅰ(古)	
26-3		第1号堀跡	覆土	壺	頸～胴			3.7	沈線(平行、波状入組文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
26-4		第1号堀跡	検出面	深鉢	口			6.0	口縁部平行沈線、L	後期初頭	
26-5		第1号堀跡	覆土	深鉢	口			4.0	頸部LR横回	後期初頭	
26-6	13	第1号堀跡	覆土	深鉢	口			3.2	口縁部肥厚、沈線(横位)、L充填	十腰内Ⅰ	
26-7	13	第1号堀跡 ⅡA-41	覆土 Ⅰ層	深鉢	頸			2.5	内面刺突、LR横回	十腰内Ⅰ	
26-8	13	第1号堀跡	覆土	深鉢	頸			1.8	内面刺突、LR横回	十腰内Ⅰ	
26-9	13	第1号堀跡	覆土	深鉢	口～胴			9.4	口唇部LR横回、頸部LR押圧、胴部LR縦回	十腰内Ⅰ(新)	
26-10		第1号堀跡	覆土	深鉢	口			6.1	頸部LR押圧	十腰内Ⅰ(新)	
26-11		第1号堀跡	覆土	鉢	胴			4.9	頸部RL押圧、胴部RL横回	十腰内Ⅰ(新)	
26-12		第1号堀跡	覆土	深鉢	胴			6.6	RLR横回	後期初頭	
26-13	13	第1号堀跡 ⅠZ-41	覆土 Ⅰ層	深鉢	口	(21.3)		4.8	R単節1	十腰内Ⅰ	破損後に二次被熱
26-14	13	第1号堀跡	覆土	深鉢	口			5.7	櫛歯状沈線(縦位)	十腰内Ⅰ	
26-15		第1号堀跡	覆土	深鉢	胴			4.1	櫛歯状沈線(横位→縦位)	十腰内Ⅰ	
26-16	13	第1号堀跡 ⅡB-39 ⅡB-39	覆土 Ⅰ層 Ⅱ層	深鉢	口～底	(28.8)	(10.8)	26.5	折返し状口縁、R単節6？(口縁部横位、胴部縦位)	十腰内Ⅰ	口縁～胴部上半スス付着
26-17	13	第1号堀跡	覆土	鉢	口～胴	(11.8)		9.8	LR横回	十腰内Ⅰ	

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器面調整・施文	時期	備考
27-1	13	第1号堀跡	覆土	深鉢	口～胴	(18.1)		8.0	無文	後期初頭～前葉	
27-2		第1号堀跡	覆土	深鉢	底		(9.5)	6.0	底部張り出し	後期初頭～前葉	
27-3		第1号堀跡	覆土	深鉢	底		(5.6)	5.2	無文	後期初頭～前葉	
27-4		第1号堀跡	覆土	深鉢	底		(9.9)	2.3	底部上げ底状	後期初頭～前葉	
27-5		第1号堀跡	覆土	深鉢	底			1.4	重複する笹葉状圧痕	後期初頭～前葉	
27-6		第1号堀跡 ⅠZ-41	覆土 Ⅰ層	鉢	底		5.0	2.6	底部木葉痕	後期初頭～前葉	
27-7		第1号堀跡	覆土	鉢	底		3.7	2.0	無文	後期初頭～前葉	
27-8	13	SD01	覆土	深鉢	口～胴			6.6	波状口縁、沈線(横位平行)	十腰内Ⅰ	
27-9		SD01	覆土	深鉢	口			4.2	波状口縁、口唇部刻み、鋸歯状沈線(横位平行、弧状文?)	十腰内Ⅰ(新)	
27-10		SD01	覆土	深鉢	口			4.6	沈線(横位平行、クランク文?)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
27-11		SD01	覆土	深鉢	口			5.0	沈線(横位平行、クランク文?)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
27-12		SD01	覆土	深鉢	口			5.3	沈線(横位平行、曲線)、細いLR充填	十腰内Ⅰ(新)	
27-13	13	SD01	覆土	深鉢	口			2.9	折返し状口縁、鋸歯状沈線(口縁部横位、胴部縦位)	後期初頭～前葉	
27-14		SD01	覆土	深鉢	胴			11.9	沈線(三角形文、長方形文)、RL充填	十腰内Ⅰ(新)	
27-15		SD01	覆土		底			0.6	網代痕(ござ目?)	後期初頭～前葉	
27-16	14	SD01 ⅠX-36 ⅠY-37	覆土 Ⅱ層	深鉢	胴			15.0	隆帯(断面三角形)、沈線(横位)、鋸歯状沈線(横位)	十腰内Ⅰ	27-17と同一個体
27-17		SD01	覆土	深鉢	胴			12.4	隆帯(断面三角形)、沈線(横位)、鋸歯状沈線(横位)	十腰内Ⅰ	27-16と同一個体
28-1		SK02	1層		胴			6.0	R単絡5	後期初頭～前葉	
28-2		SK03	覆土	鉢	底		(6.2)	2.4	無文	十腰内Ⅰ	
28-3	14	SK04	覆土	深鉢	胴			3.1	結束1羽状(LR・RL)	前期前葉	繊維混入
28-4		SK05	覆土	深鉢	口			1.7	口唇部刻目、沈線(横位)	十腰内Ⅰ	
28-5		SK05	覆土	深鉢	口			3.6	隆沈線(横位、弧状文?)	十腰内Ⅰ(古)	
28-6	14	SK06 第1号堀跡 ⅡE-42	1層 覆土 Ⅲ層 Ⅰ層	深鉢	口～底	(23.0)	8.9	28.5	波状口縁、沈線(口頸部平行、胴部斜位区画、方形文)、鋸歯状沈線充填、底部網代痕(ござ目?)	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱、胴下部スス付着
28-7		SK06 ⅡC-42	1層 Ⅱ層	深鉢	口			1.8	波状口縁、鋸歯状沈線(横位)	十腰内Ⅰ(新)	
28-8		SK06	1層	深鉢	胴			3.4	沈線(横位)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
28-9		SK06	1層	深鉢	胴			7.0	沈線(クランク文?)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
28-10		SK06	1層	深鉢	胴			4.8	R単絡5	後期初頭～前葉	
28-11	14	SK06	検出面	深鉢	胴～底		6.8	14.1	沈線(平行、三角形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
28-12	14	SK07 ⅡA-38 ⅡB-38 ⅠY-36	覆土 撹乱 Ⅲ層 Ⅲ層	深鉢	口	(30.0)		6.8	隆沈線(弧状文)	十腰内Ⅰ(古)	
28-13		SK07	覆土	深鉢	口			5.5	口唇部沈線、隆沈線(横位平行)	十腰内Ⅰ(古)	
28-14	14	SK07	覆土		口			2.8	隆沈線(横位平行、弧状文?)	十腰内Ⅰ(古)	内面剥落、外面赤彩
28-15		SK07	覆土	深鉢	口			4.7	鋸歯状沈線(縦位)	後期初頭～前葉	
28-16		SK07	覆土	深鉢	口			3.5	折返し状口縁、口縁部LR(横位)、胴部LR(縦位)	後期初頭～前葉	
28-17	14	SK07	覆土	深鉢	胴			9.5	鋸歯状沈線(縦位)	後期初頭～前葉	
28-18	14	SK07	2層	鉢	口～胴	(11.0)		6.2	沈線(横位平行、弧状文、波状入組文(縦位))	十腰内Ⅰ(古)	
28-19		SK07	覆土	鉢	口			3.3	沈線(横位平行)	十腰内Ⅰ(古)	
30-1	15	ⅠZ-41	Ⅰ層	深鉢	口			4.6	口縁部肥厚、口唇部、口縁部内面LR	中期中葉～後葉	後期中葉の可能性あり
30-2	15	ⅠZ-39	Ⅰ層	深鉢	口			6.2	波状口縁、波頂部口唇連続刺突 外面：隆帯(断面三角形)、隆帯上刺突、頸部刺突、L横回 内面：波頂部刺突、L縦回	後期初頭	

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器面調整・施文	時期	備考
30 3			Ⅰ層	深鉢	胴			4.5	隆沈線(長方形文)、隆線上LR	後期初頭	
30 4	15	ⅡA 38	撹乱	深鉢	口～胴	22.7		14.0	波状口縁、隆沈線(縦位楕円形文、横位波状文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 5	15	ⅠW 36	Ⅰ層	深鉢	口			5.3	隆沈線(縦位に連続する楕円形文、長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 6		ⅡA 38	撹乱	深鉢	口			4.0	波状口縁、口縁部肥厚、隆沈線(縦位楕円形文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 7	15	ⅡA 38	Ⅰ層	壷	口～頸			6.0	隆沈線(弧状文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 8			Ⅰ層	鉢	胴			3.9	隆沈線(隆線下部に刺突)	十腰内Ⅰ(古)	
30 9	15	ⅡD 41	Ⅰ層	壷	口～頸			5.0	隆帯(断面三角形)、隆帯頂部・下端部に刺突	十腰内Ⅰ(古)	
30 10	15		Ⅰ層	壷	頸			2.6	隆沈線、隆線上刺突	十腰内Ⅰ(古)	
30 11	15	ⅡA 38 ⅡA 38 ⅡA 39	Ⅱ層 撹乱 撹乱	深鉢	口～底	20.0	9.3	24.6	波状口縁(6単位)、沈線(横位平行、縦位に連続する弧状文、方形文、波状入組文)	十腰内Ⅰ(古)	二次被熱
30 12	15		Ⅰ層	鉢	口			4.5	波状口縁、口縁部肥厚、沈線(横位)	十腰内Ⅰ(古)	
30 13	15	ⅡB 40	撹乱	深鉢	口			3.7	口縁部楕円形貼付、沈線(長楕円形文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 14	15	ⅡA 38	撹乱	壷	口			4.7	沈線(横位平行)	十腰内Ⅰ(古)	
30 15		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口			3.6	沈線(横位、長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 16	15	ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	口			4.1	沈線(横位平行、波状文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 17			Ⅰ層	深鉢	口			3.8	沈線(平行、曲線)	十腰内Ⅰ(古)	外面黒色付着物(漆か)
30 18		ⅡD 41	Ⅰ層	深鉢	口			3.4	隆沈線(横位、斜位)	十腰内Ⅰ(古)	
30 19		ⅡA 38	Ⅰ層	深鉢	口			3.7	波状口縁、沈線(横位、縦位)、ℓ充填	十腰内Ⅰ(古)	二次被熱
30 20	15	ⅡB 39	Ⅰ層	深鉢	口			4.1	沈線(弧状文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 21		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口			4.6	沈線(横位、曲線文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 22	15	ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口			3.4	口唇部刻み、沈線(格子目状文)	後期初頭～前葉	
30 23	15		Ⅰ層	深鉢	口			2.2	口唇部刺突、沈線(横位平行)、L充填	十腰内Ⅰ(古)	
31 1	16	ⅡA 38	Ⅱ層	壷	口～底	10.1	11.5	24.2	沈線(横位平行、長方形文、波状入組文)、底部木葉痕	十腰内Ⅰ(古)	
31 2		ⅡA 38 ⅡB 39	Ⅰ層 撹乱	壷	胴			14.6	隆沈線(長方形、円形文)	十腰内Ⅰ(古)	
31 3	16	ⅡA 38	撹乱	壷	口～胴	(19.3)		16.3	口縁部沈線(横位平行)、頸部2段の橋状把手、穿孔、隆沈線(楕円形、円形文、弧状文、波状入組文)	十腰内Ⅰ(古)	31 4・5と同一個体
31 4	16	ⅡA 38	撹乱	壷	胴			13.5	隆沈線(楕円形)	十腰内Ⅰ(古)	31 3・5と同一個体
31 5		ⅡA 38	撹乱	壷	底		12.5	1.7		十腰内Ⅰ(古)	31 3・4と同一個体
32 1	17	ⅡB 39	Ⅱ層	深鉢	口			3.7	刺突	十腰内Ⅰ	
32 2	17	ⅠY 39	Ⅰ層	深鉢	口			3.1	口縁部刺突、沈線	十腰内Ⅰ	
32 3	17		Ⅰ層	深鉢	口			2.6	外面：平行沈線 内面：L横回	十腰内Ⅰ(古)	
32 4	17	ⅡB 39	Ⅰ層	深鉢	胴			4.0	沈線(横位平行、稲妻状文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 5	17	ⅠY 39	Ⅰ層	深鉢	胴			4.7	沈線(波状入組文、波状文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 6		ⅡA 38	撹乱	深鉢	胴			10.4	沈線(弧状文)	十腰内Ⅰ(古)	二次被熱
32 7	17	ⅡD 41	Ⅰ層	台付鉢	口～底	(21.1)	(6.5)	9.1	沈線(横位、長楕円形文、円形文、波状入組文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 8	17	ⅡB 41	Ⅰ層	鉢	口～胴	(16.2)		5.8	波状口縁、沈線(横位平行、斜行)	十腰内Ⅰ(古)	
32 9	17	ⅡC 42 ⅡC 43	Ⅰ層 Ⅰ層	鉢	口～胴	(13.3)		5.0	波状口縁、沈線(横位平行、波頂部から垂下する括弧状文、三角形文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 10	17		Ⅰ層	鉢	口～胴			5.8	波状口縁、波頂部口唇肥厚、波頂部穿孔、沈線(横位平行、方形文、波状入組文)	十腰内Ⅰ(古)	外面赤彩
32 11	17	ⅠY 39	Ⅰ層	鉢	口～胴			10.2	沈線(長方形文、波状入組文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 12	17	ⅡB 41 ⅡC 41 ⅡC 42	Ⅰ層 Ⅰ層 Ⅰ層	台付鉢	口～底	(9.4)	4.7	7.5	波状口縁（4単位？）、波頂部刺突・刻み、沈線（横位平行、三角形文、蛇行文)	十腰内Ⅰ(古)	内面黒色付着物
32 13	17	ⅡA 38	撹乱	鉢	胴～底		4.4	4.8	沈線(横位平行、弧状文、蛇行文)、底部上げ底状、底端部穿孔2単位	十腰内Ⅰ(古)	

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器面調整・施文	時期	備考
32 14	17		Ⅰ層	鉢	胴～底		6.4	2.9	沈線(横位平行)	十腰内Ⅰ(古)	
32 15	17		Ⅰ層	鉢	底		5.2	1.6	沈線(楕円形文、弧状文?)、底部上げ底状	十腰内Ⅰ(古)	
32 16	17		Ⅰ層	鉢	口			3.9	波状口縁、波頂部突起穿孔、沈線(長方形文、縦位弧状文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 17	17		Ⅰ層	鉢				2.6	沈線(横位平行、方形文?)	十腰内Ⅰ(古)	内外面赤彩
32 18	17	ⅡC 42	Ⅰ層	台付鉢	台		(7.6)	4.0	沈線(横位平行)	十腰内Ⅰ(古)	
32 19	17		Ⅰ層	台付鉢	台		(11.0)	4.3	沈線(横位)、穿孔	十腰内Ⅰ(古)	
32 20		ⅠY 39 ⅡB 41	Ⅰ層 Ⅰ層	鉢	胴			5.8	沈線(横位平行、三角形文、楕円形文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 21	17	ⅡC 42	Ⅰ層	鉢	胴			5.2	隆沈線(横位)、沈線(三角形文、三角形文内に渦巻文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 1	18	ⅠY 39	Ⅰ層	鉢	胴			4.2	沈線(横位、クランク文、逆への字状文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 2	18		Ⅰ層	鉢	胴			3.7	沈線(波状入組文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 3			Ⅰ層	鉢	胴			3.6	隆沈線(横位)、隆線上貫通孔、沈線(長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 4		ⅡD 42	Ⅰ層	壺	口	(6.3)		2.1	沈線(横位、楕円形文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 5	18	ⅡE 42	Ⅲ層	壺	口	(4.1)		2.9	櫛歯状沈線(横位)	十腰内Ⅰ(古)	
33 6	18	ⅡA 39	Ⅰ層	台付鉢	底		(3.4)	3.5	沈線(横位平行、弧状文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 7	18	ⅡD 41 ⅡE 42	Ⅰ層 Ⅰ層	壺	胴～底		8.0	14.3	沈線(平行、長楕円形文、波状文、弧状文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 8	18	ⅡA 38 ⅡA 38	Ⅰ層 Ⅰ層	壺	胴			16.2	沈線(方形文、長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 9	18	ⅡA 38 ⅡA 38 ⅡA 38	Ⅰ層 Ⅰ層 Ⅲ層	壺	胴～底		13.4	16.3	沈線(方形文、長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 10	18		Ⅰ層	壺	胴			3.4	沈線(方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 11			Ⅰ層	壺	胴			6.2	沈線(横位、方形文)	十腰内Ⅰ(古)	外面赤彩
33 12	18	ⅠZ 39 ⅡB 41 ⅡC 42	Ⅰ層 Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	口～胴	(17.0)		14.8	櫛歯状沈線(三角形文)	後期初頭～前葉	二次被熱
33 13	18	ⅡD 41 ⅡE 42	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	口			3.3	櫛歯状沈線(横位、格子目状文)	後期初頭～前葉	
33 14			Ⅰ層	深鉢	口			3.9	沈線(横位)、櫛歯状沈線(横位)	十腰内Ⅰ(新)	
33 15		ⅡC 42	Ⅰ層	深鉢	口			2.9	沈線(横位)、櫛歯状沈線(横位)	十腰内Ⅰ(新)	
33 16		ⅡE 42	Ⅰ層	深鉢	口			2.9	沈線(横位平行)、櫛歯状沈線(横位)	十腰内Ⅰ(新)	
33 17		ⅡA 38	撹乱	深鉢	口			3.8	櫛歯状沈線(横位、縦位)	十腰内Ⅰ(新)	
33 18		ⅡB 41	Ⅰ層	深鉢	口			2.9	沈線(横位)、櫛歯状沈線(横位、斜位)	十腰内Ⅰ(新)	
33 19		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	胴			6.7	沈線(横位平行、波状文)、櫛歯状沈線充填	十腰内Ⅰ(新)	
33 20		ⅡA 38	撹乱	深鉢	胴			2.9	沈線(方形文)、櫛歯状沈線、方形文中心に竹管状刺突	十腰内Ⅰ(新)	
34 1	19	ⅡC 41 ⅡC 42 ⅡD 42	Ⅰ層 Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	口～胴	(15.3)		7.5	沈線(横位平行、波状入組文)、櫛歯状沈線充填	十腰内Ⅰ(新)	
34 2	19	ⅡC 42	Ⅰ層	深鉢	口～胴			6.4	沈線(横位平行、波状入組文)、櫛歯状沈線充填	十腰内Ⅰ(新)	
34 3	19	ⅡB 41 ⅡB 41 ⅡC 42	Ⅰ層 Ⅲ層 Ⅰ層	深鉢	口～胴			12.4	波状口縁、沈線(波状入組文)、櫛歯状沈線充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
34 4		ⅡA 38	撹乱	鉢	口			4.6	沈線(横位平行、楕円形文)	十腰内Ⅰ(新)	
34 5	19	ⅡE 42	Ⅰ層	鉢	口～胴			3.7	波状口縁、沈線(横位平行、方形文)	十腰内Ⅰ(新)	
34 6		ⅡB 41	Ⅰ層	深鉢	胴			4.8	沈線(波状入組文)、櫛歯状沈線充填	十腰内Ⅰ(新)	
34 7	19	ⅠY 36	Ⅲ層	壺	頸			3.7	櫛歯状沈線、橋状把手	十腰内Ⅰ(新)	
34 8	19	ⅡC 42	Ⅰ層	壺	胴～底		4.2	9.4	櫛歯状沈線(横位平行、波状入組文)	十腰内Ⅰ(新)	
34 9		ⅡB 39	Ⅱ層	壺	口	(9.3)		3.4	沈線(横位)、櫛歯状沈線充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
34 10		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口			6.8	沈線(横位平行、区切文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
34 11	19	ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口	(27.7)		7.9	波状口縁、沈線(横位平行、方形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	34 12と同一個体

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器面調整・施文	時期	備考
34 12	19	ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口	(27.8)		5.8	波状口縁、沈線(口縁部平行、胴部方形文？)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	34 11と同一個体
34 13	19	ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	口～胴			9.9	沈線(横位平行、区切文、方形文？)、LR充填、無文部ミガキ	十腰内Ⅰ(新)	
34 14		ⅡA 38	撹乱		口～胴			11.3	沈線(横位、斜位、曲線)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
34 15			Ⅰ層	深鉢	口	(19.6)		3.2	波状口縁、沈線(横位平行、斜位)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
35 1	20	ⅡC 42 ⅡD 42	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	口			6.2	波状口縁、沈線(横位平行)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 2			Ⅰ層	深鉢	口			4.7	波状口縁、沈線(横位平行、縦位)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 3	20	ⅡA 38	撹乱	深鉢	口			4.5	沈線(横位平行、斜位)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 4	20		Ⅰ層	深鉢	口			5.5	波状口縁、口唇部刻み、沈線(横位平行)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
35 5		ⅡD 42	Ⅰ層	深鉢	口			5.1	沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 6	20		Ⅰ層	深鉢	口～胴			6.3	波状口縁、沈線(平行、楕円形文)、R充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 7		ⅡB 39	Ⅰ層	深鉢	口			6.0	波状口縁、沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 8		ⅠV 36	Ⅲ層	深鉢	口			3.9	沈線(クランク文？)、RL充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 9			Ⅰ層	深鉢	口～胴			5.7	沈線(横位平行)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 10		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	口			4.4	波状口縁、沈線(平行、方形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 11		ⅡA 41	Ⅰ層	深鉢	口			5.6	波状口縁、沈線(平行、三角形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 12		ⅠY 36	Ⅲ層	深鉢	口			3.2	沈線(横位平行)、RL充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 13		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口			3.1	口唇部LR横回、沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 14			Ⅰ層	深鉢	口			4.6	沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 15		ⅠY 36	Ⅲ層	深鉢	胴			5.8	沈線(横位平行、楕円形文)、RL充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 16	20	ⅡB 41	Ⅰ層	深鉢？	胴			2.2	沈線(楕円形文？、平行)、L充填、無文部刺突	十腰内Ⅰ(新)	
35 17			Ⅰ層	深鉢	胴			5.4	沈線(横位、三角形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	外面スス付着
35 18		ⅠW 36	Ⅰ層	深鉢	胴			6.1	沈線(方形文？)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 19			Ⅰ層	深鉢	胴			6.7	沈線(横位平行、波状入組文？)、LR充填、充填部に竹管状刺突	十腰内Ⅰ(新)	
35 20		ⅠY 40	Ⅰ層	深鉢	胴			8.6	沈線(横位平行、長方形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	外部黒色付着物
35 21		ⅡC 42 ⅡD 42	Ⅰ層 Ⅰ層		胴			13.5	沈線(横位平行、三角形文？)、LR充填、充填部分に刺突	十腰内Ⅰ(新)	
35 22			Ⅰ層	深鉢	胴			9.9	沈線(横位平行、方形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 23		ⅠX 36	Ⅱ層		胴			6.8	沈線(入組文)、LR充填	十腰内Ⅱ	
35 24	20	ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	胴			4.4	沈線(横位)、細いLR充填	十腰内Ⅱ	
36 1	20	ⅡD 41 ⅡE 42	Ⅰ層 Ⅰ層	鉢	口～底	11.8	(4.4)	11.1	波状口縁(6単位)、沈線(横位平行、波状入組文、三角形文)LR充填、無文部ミガキ	十腰内Ⅰ(新)	
36 2	20	ⅡB 41 ⅡC 42	Ⅰ層 Ⅰ層	鉢	口～胴	(14.5)		7.1	沈線(横位平行、波状入組文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 3	20	ⅠY 40	Ⅰ層	鉢	口～胴			8.3	沈線(平行、楕円形文、波状入組文)、LR充填、無文部ミガキ	十腰内Ⅰ(新)	
36 4	20	ⅠZ 41	Ⅰ層	鉢	口	(11.6)		4.0	沈線(横位平行、曲線文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 5	20	ⅡE 42	Ⅰ層	深鉢	口～胴			8.1	波状口縁、沈線(横位、波状入組文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 6	20	ⅡA 38	撹乱	鉢	口～胴			5.4	沈線(横位平行)、RL充填、無文部ミガキ	十腰内Ⅰ(新)	
36 7			Ⅰ層	深鉢	口～胴			6.9	波状口縁、沈線(平行、方形文？)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 8		ⅠY 40	Ⅰ層	鉢	口～胴			3.6	口唇部刻み、沈線(横位平行)、細いLR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 9		ⅡC 42	Ⅰ層	鉢	口～胴			4.6	波状口縁、口唇部刻み、波頂部刺突、沈線(弧状文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 10	20	ⅡB 39	Ⅰ層	鉢	口～胴			4.5	波状口縁、口唇部刻み、沈線(横位平行、楕円形文？)、細いLR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 11		ⅠY 40	Ⅰ層	深鉢	口			4.8	沈線(横位平行、方形文？)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 12	20		Ⅰ層	深鉢	口～胴			6.8	沈線(横位、方形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 13		ⅠX 35	Ⅱ層	深鉢	口			4.8	沈線(平行、弧状文？)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器面調整・施文	時期	備考
36 14		ⅠX 35	Ⅲ層	鉢	口			3.9	沈線(楕円形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 15		ⅡA 38	Ⅲ層	深鉢	口			3.3	沈線(横位、方形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 16	21		Ⅰ層	鉢	口			3.6	口縁部肥厚、沈線(横位平行)、細いLR充填	十腰内Ⅱ	
36 17		ⅠY 39	Ⅰ層	鉢	口			6.0	平行沈線文、沈線間蛇行文	十腰内Ⅱ	
36 18	21	ⅡA 38	Ⅰ層	鉢	胴			6.4	波状口縁、沈線(平行、斜行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 19	21	ⅡA 38	Ⅰ層	鉢	口～胴			8.4	沈線(平行、斜行、方形文)、L充填、無文部ミガキ	十腰内Ⅰ(新)	
36 20	21	ⅡD 41	Ⅰ層	壺	口			4.7	沈線(入組文)、LR磨消	十腰内Ⅱ	
37 1	21		Ⅰ層	台付鉢	台			6.6	沈線(横位平行)、RL充填、透かし	十腰内Ⅰ(新)	
37 2	21	ⅠD 41	Ⅰ層	台付鉢	台			4.5	沈線(横位平行)、RL充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 3	21		Ⅰ層	台付鉢	台			3.2	沈線(横位平行)、RL充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
37 4	21	ⅡC 42	Ⅰ層	台付鉢	台			2.3	沈線(横位平行)、0段多条LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 5	21	ⅡD 41	Ⅰ層	台付鉢	台			4.3	沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
37 6	21	ⅡB 39	Ⅰ層	壺	口	(6.8)		5.5	沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 7	21	Ⅰ層		壺	口	(6.9)		3.9	横位区画沈線、口縁部LR横回	十腰内Ⅰ(新)	
37 8			Ⅰ層	壺	胴			6.6	隆沈線、隆線上RL、沈線(楕円形文)、RL充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 9		ⅠD 41	Ⅰ層	壺	胴			7.6	沈線(平行沈線、楕円形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 10		ⅡD 41	Ⅰ層	壺	胴			6.2	沈線(楕円形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 11		ⅡD 41 ⅡB 42	Ⅰ層 Ⅰ層	壺	胴			9.5	沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 12	21	ⅡD 41	Ⅰ層	壺	頸～胴			28.1	頸部隆沈線(横位)、隆線上LR、胴部沈線(楕円形文、波状入組文、三角形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(古)	
38 1	22	ⅡD 41	Ⅰ層	深鉢	口～底	(23.4)	(8.6)	32.9	R単絡5	後期初頭～前葉	二次被熱
38 2	22	ⅠY 40 ⅠZ 41	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	胴～底		(10.0)	14.3	単絡5	後期初頭～前葉	二次被熱
38 3		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	胴～底		(7.1)	5.7	R単絡5	後期初頭～前葉	二次被熱
38 4	22	ⅠY 40 ⅠZ 41	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	口	(21.7)		6.0	波状口縁、R単絡5	後期初頭～前葉	二次被熱
38 5	22	ⅡD 41	Ⅰ層	深鉢	口	(26.1)		5.5	折返し状口縁、R単絡5(口縁部横位、胴部縦位)	後期初頭～前葉	
38 6		ⅡD 42	Ⅰ層	深鉢	口			6.1	折返し状口縁、R単絡5(口縁部横位、胴部縦位)	後期初頭～前葉	
38 7	22	ⅡD 41	Ⅰ層	深鉢	胴			6.6	R単絡5	後期初頭～前葉	二次被熱
38 8	22	ⅡD 42	Ⅰ層	深鉢	口			6.1	折返し状口縁、R単絡5(口縁部横位、胴部縦位)	後期初頭～前葉	
38 9	22	ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口			5.8	折返し状口縁、R単絡5	後期初頭～前葉	
38 10	22	ⅠZ 37	Ⅲ層	深鉢	口			5.3	R単絡5	後期初頭～前葉	
39 1		ⅠY 39	Ⅰ層	深鉢	口～胴			6.5	折返し状口縁、L単絡5	後期初頭～前葉	
39 2		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口			6.1	R単絡5	後期初頭～前葉	
39 3			Ⅰ層	深鉢	口			4.6	R単絡5	後期初頭～前葉	
39 4		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	胴			4.4	R単絡5？	後期初頭～前葉	
39 5	23	ⅡD 42	Ⅰ層	深鉢	胴			4.3	R単絡1	後期初頭～前葉	
39 6	23	ⅡA 38	Ⅰ層	深鉢	胴			6.2	格子目状沈線	後期初頭～前葉	
39 7			Ⅰ層	深鉢	口			3.6	櫛歯状沈線(横位・縦位)	後期初頭～前葉	
39 8		ⅡA 38	Ⅰ層	深鉢	口			3.7	R単絡1	後期初頭～前葉	
39 9		ⅠX 38	Ⅲ層	深鉢	口			6.4	櫛歯状沈線(縦位)	後期初頭～前葉	
39 10		ⅠZ 41 ⅡA 38	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	胴			8.8	櫛歯状沈線(縦位)	後期初頭～前葉	
39 11	23	ⅠY 39 ⅡB 39	Ⅰ層 試掘Tr	深鉢	口	(21.0)		4.9	LR横回	後期初頭～前葉	
39 12	23	ⅠY 39 ⅡA 38	Ⅰ層 撹乱	深鉢	口～胴	(19.0)		26.7	折返し状口縁、口縁部L横回、胴部L縦回	後期初頭～前葉	

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器面調整・施文	時期	備考
39 13	23	ⅡB 39 ⅡB 39	Ⅰ層 Ⅱ層	深鉢	口 ～胴	(22.7)		28.3	LR縦回	後期初頭 ～前葉	
39 14		ⅠY 39	Ⅰ層	深鉢	胴～ 底		(7.6)	4.8	0段多条LR横回、底部笹葉状圧痕	後期初頭 ～前葉	
40 1	23	ⅡA 38	Ⅰ層	深鉢	口～ 胴	(16.5)		12.4	LR縦回	後期初頭 ～前葉	
40 2		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口			3.6	LR横回	後期初頭 ～前葉	
40 3		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口			4.7	LR横回	後期初頭 ～前葉	二次被熱
40 4			Ⅰ層	深鉢	口			5.0	LR縦回	後期初頭 ～前葉	
40 5		ⅠW 33	Ⅱ層	深鉢	口			5.0	波状口縁、L横回	後期初頭 ～前葉	
40 6			Ⅰ層	深鉢	口			5.2	L縦回	後期初頭 ～前葉	
40 7	23		Ⅰ層	深鉢	口～ 胴			7.3	L単節1	後期初頭 ～前葉	
40 8	23		Ⅰ層	深鉢	口			3.4	口縁部肥厚、LR(口縁部横位、胴部縦位)	後期初頭 ～前葉	
40 9	23	ⅡA 38	撹乱	深鉢	口			4.4	RL横回	後期初頭 ～前葉	
40 10		ⅠY 38	Ⅰ層	鉢	口			4.3	LR横回	後期初頭 ～前葉	
40 11		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口～ 胴			9.5	LR横回	後期初頭 ～前葉	
40 12		ⅠY 40	Ⅰ層	深鉢	口			4.2	LR縦回	後期初頭 ～前葉	
40 13		ⅡA 38 ⅠZ 37	Ⅲ層 Ⅲ層	壺	胴			6.9	L横回	後期初頭 ～前葉	
40 14	23	ⅠW 36	Ⅰ層	深鉢	口			5.3	沈線(横位平行)、口縁部LR横回、胴部LR縦回	後期初頭 ～前葉	二次被熱
40 15	24	ⅡA 39	撹乱	壺	口～ 頸	(16.0)		4.3	折返し状口縁、口縁部RL、頸部貫通孔	後期初頭 ～前葉	
40 16		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口			4.6	沈線、LR縦回	後期初頭 ～前葉	
40 17	23	ⅠY 36	Ⅲ層	壺	口			3.6	折返し状口縁、RL横回、頸部穿孔	後期初頭 ～前葉	
40 18		ⅠX 36	Ⅲ層	深鉢	口			2.7	横位沈線区画、LR横回	後期初頭 ～前葉	
40 19		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	口			4.7	折返し状口縁、口縁部LR横回	後期初頭 ～前葉	
40 20			Ⅰ層	深鉢	口			3.8	口唇部LR横回、沈線(横位)、細いLR充填	後期初頭 ～前葉	
40 21		ⅡB 42	Ⅰ層	深鉢	口			3.8	沈線(横位平行)、L充填	後期初頭 ～前葉	
40 22		ⅡB 41	Ⅰ層	深鉢	口			4.0	折返し状口縁、沈線(横位)、LR横回	後期初頭 ～前葉	
40 23		ⅠX 36	Ⅱ層	深鉢	口			4.2	口唇部RL横回、胴部RL横回	後期初頭 ～前葉	
40 24	24	ⅡA 41	Ⅰ層	深鉢	口			4.5	口唇部LR横回、口縁部LR横回	後期初頭 ～前葉	
40 25		ⅡB 39	Ⅰ層	深鉢	口			2.7	口唇部LR横回、口縁部LR横回	後期初頭 ～前葉	
40 26		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口			4.6	口唇部LR横回、胴部LR横回	後期初頭 ～前葉	
40 27			Ⅰ層	深鉢	口			5.0	口唇部LR横回、頸部補修孔	後期初頭 ～前葉	
40 28		ⅡC 41	Ⅰ層	深鉢	口			4.0	口唇部L横回、口縁部・頸部L押圧	後期初頭 ～前葉	
41 1		ⅡA 41	Ⅰ層	深鉢	胴			2.9	LR横回、刺突	十腰内Ⅰ	
41 2		ⅡD 41	Ⅰ層	深鉢？	口			1.9	沈線(横位)、竹管状刺突	十腰内Ⅰ	
41 3		ⅡD 41	Ⅰ層	壺	胴			2.7	沈線(横位)、刺突	十腰内Ⅰ	
41 4	24	ⅡD 41	Ⅰ層	深鉢	胴～ 底		6.7	7.9	沈線(横位)、RL横回	後期初頭 ～前葉	
41 5	24	ⅡC 41	Ⅰ層	深鉢	口～ 胴	(16.1)		12.8	無文	後期初頭 ～前葉	
41 6	24	ⅡB 41 ⅡC 42	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	口～ 胴	(11.3)		9.1	波状口縁、無文	後期初頭 ～前葉	
41 7	24	ⅡA 38 ⅡB 39	撹乱 Ⅱ層	深鉢	口～ 底	(12.4)	7.0	14.7	底部上げ底状、無文	後期初頭 ～前葉	
41 8	24	ⅡB 41 ⅡC 42	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	胴～ 底		(8.6)	8.2	無文	後期初頭 ～前葉	
41 9	24	ⅡA 38	撹乱	深鉢	口～ 胴	(20.5)		5.1	折返し状口縁、無文	後期初頭 ～前葉	
41 10		ⅠB 41	Ⅰ層	鉢	口～ 胴	(14.8)		7.0	無文	後期初頭 ～前葉	
41 11	24		Ⅰ層	鉢	口～ 胴	(12.5)		6.9	折返し状口縁、無文	後期初頭 ～前葉	

図版番号	写真図版	遺構名 / グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器面調整・施文	時期	備考
41 12	24		Ⅰ層	壺	口～胴	(10.0)		8.4	無文	後期初頭～前葉	二次被熱
41 13	25	ⅠZ 39	Ⅰ層	壺	口	(15.9)		6.8	無文	後期初頭～前葉	
42 1		ⅡD 41	Ⅰ層	鉢	口～胴	(9.6)		5.5	無文	後期初頭～前葉	
42 2	25	ⅡA 38	Ⅰ層	鉢	口～胴	(8.6)		5.5	波状口縁、無文	後期初頭～前葉	
42 3	25	ⅡC 42	Ⅰ層	台付鉢	口～底	(8.5)	3.7	3.6	無文	後期初頭～前葉	
42 4	25	ⅠY 37	覆土	台付鉢	底		(4.4)	4.3	無文	後期初頭～前葉	二次被熱
42 5		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	底		9.7	3.0	重複する笹葉状圧痕	後期初頭～前葉	
42 6		ⅠW 33	Ⅱ層	深鉢	底		(9.9)	2.5	底部笹葉状圧痕	後期初頭～前葉	
42 7		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	底		(9.8)	6.6	底部笹葉状圧痕	後期初頭～前葉	
42 8		ⅠY 36	Ⅲ層	深鉢	胴～底		(7.8)	4.5	底部網代痕	後期初頭～前葉	
42 9		ⅡA 38	Ⅰ層	深鉢	底		(7.1)	1.9	底部平行する線状圧痕	後期初頭～前葉	
42 10		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	底		(6.5)	2.6	底部網代痕(ござ目？)	後期初頭～前葉	二次被熱
42 11		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	底		(9.1)	1.6	底部網代痕	後期初頭～前葉	
42 12			Ⅰ層	深鉢	底		5.8	4.0	底部木葉痕	後期初頭～前葉	
42 13		ⅡC 42	Ⅰ層	深鉢	底		(6.6)	1.6	底部網代痕(ござ目？)	後期初頭～前葉	
42 14		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	底		(5.8)	1.8	網代痕(ござ目？)	後期初頭～前葉	
42 15	25	ⅠW 33	Ⅰ層	深鉢	底			1.4	網代痕(ござ目？)の上に化粧土	後期初頭～前葉	
42 16		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	底		(9.6)	4.3	無文	後期初頭～前葉	二次被熱
42 17		ⅠX 35	Ⅲ層	鉢	胴～底		(5.1)	2.8	無文	後期初頭～前葉	
42 18		ⅡD 41	Ⅰ層	鉢	底		(4.7)	1.7	無文	後期初頭～前葉	二次被熱
42 19		ⅠX 35	Ⅱ層	鉢	底		(2.4)	0.8	無文	後期初頭～前葉	ミニチュア土器の可能性あり
43 1	25		Ⅰ層	深鉢	口縁突起			5.1	突起上部刻み、側面沈線(Y字状)	十腰内Ⅱ	
43 2	25	ⅠX 36	Ⅱ層	深鉢	口			1.9	竹管状連続押し引き	前期前葉	繊維混入
43 3	25	ⅠX 35	Ⅱ層	深鉢	胴			2.6	竹管状連続押し引き	前期前葉	繊維混入
43 4	25		Ⅰ層	深鉢	胴			3.3	LR	前期前葉	繊維混入
43 5	25	ⅠV 33	Ⅰ層	深鉢	口			3.5	R押圧、R横回	前期中葉～後葉	繊維混入
43 6		ⅠX 36	Ⅱ層	深鉢	胴			6.1	L単節1	前期中葉～後葉	繊維混入
43 7	25	ⅠX 36	Ⅱ層	深鉢	胴			8.2	L単節1	前期中葉～後葉	繊維混入
43 8	25	ⅡB 39	Ⅰ層	深鉢	口			4.8	沈線(横位平行)、RL縦回	中期中葉～後期初頭	
43 9	25	ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	口			5.1	LR縦回	中期末葉～後期初頭	
	22 1	ⅠX 36	Ⅰ層	深鉢	口			4.7	無文	後期初頭～前葉	
	25 1	ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	口～胴			6.8	波状口縁、口唇部平坦、無文	後期初頭～前葉	
	25 2		Ⅰ層	片口	口			4.7	沈線(横位)	十腰内Ⅰ(新)	

表8　舘遺跡　石器·石製品観察表

図番号	遺構	グリッド	層位	器種	石材	備考	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
29-1	第1号堀跡		覆土	石鏃	珪質頁岩		2.1	1.1	0.4	0.7
29-2	第1号堀跡		覆土	石箆	珪質頁岩		4.9	2.4	1.2	15.4
29-3	第1号堀跡		覆土	石箆	珪質頁岩		5.7	2.3	1.1	15.8
29-4	第1号堀跡		覆土	剥片	玉髄	面により光沢異なる	2.0	1.7	1.0	3.5
29-5	第1号堀跡		覆土	磨製石斧	緑色片岩	アオトラ石	6.6	2.9	1.3	38
29-6	第1号堀跡		覆土	打製石斧	頁岩		6.6	3.5	1.4	37
29-7	第1号堀跡		覆土	敲石	チャート		5	4.8	2.1	72.1
29-8	第1号堀跡		覆土	凹石	凝灰岩	被熱、火ばね	16.5	5.8	3.1	(286.5)
29-9	第1号溝跡	ⅠX-34	覆土	石核	玉髄	両極打法、光沢？	2.1	1.7	1.0	2.6
29-10	第1号溝跡	ⅠY-36	覆土	石核	玉髄	両極打法	1.8	1.5	1.4	3.7
29-11	第1号溝跡	ⅠY-36	覆土	ピエス・エスキーユ	赤鉄鉱		3.3	2.8	1.6	16.1
29-12	第1号土坑		覆土	掻器	珪質頁岩	玉髄質、P-1の土器とともに取り上げ	5.6	4.4	1.6	32.2
29-13	第6号土坑		1層	石鏃	玉髄	正面側先端部に衝撃剥離痕	1.5	1.1	0.3	0.4
29-14	第6号土坑		1層	二次加工剥片	珪質頁岩	掻器？削器？	6.1	8.3	1.7	60.7
44-1			表採	石鏃	珪質頁岩		2.2	1.0	0.4	0.5
44-2		ⅡC-41	Ⅰ層	石鏃	珪質頁岩		2.9	1.7	0.3	1.2
44-3		ⅠY-36	Ⅰ層	石鏃	珪質頁岩		2.6	1.2	0.5	0.9
44-4			表採	石鏃	珪質頁岩		2.9	(1.4)	0.5	(1.3)
44-5		ⅡC-41	Ⅰ層	石鏃（未成品）	珪質頁岩		2.5	1.9	0.6	2.0
44-6			表採	石鏃	玉髄		2.3	1.3	0.3	0.5
44-7			表採	石鏃	玉髄		2.0	1.5	0.4	0.9
44-8		ⅠY-40	Ⅰ層	石鏃	玉髄		(2.1)	1.6	0.4	(0.9)
44-9		ⅠZ-41	Ⅰ層	石鏃（未成品）	玉髄		3.8	1.6	0.5	2.8
44-10			表採	石鏃（未成品）	玉髄		1.8	3.0	1.0	3.9
44-11		ⅠZ-41		石鏃（未成品）	玉髄		2.1	1.6	0.6	1.8
44-12		ⅠX-36	Ⅰ層	石錐	珪質頁岩		3.4	2.5	0.9	5.6
44-13		ⅡC-42	Ⅰ層	掻器	珪質頁岩	二次加工部分に光沢	2.5	4.1	1.2	10.3
44-14		ⅡB-41	Ⅰ層	掻器	玉髄		4.4	3.3	1.2	16.1
44-15		ⅡB-39	Ⅰ層	掻器	珪質頁岩		2.5	3.0	1.0	6.3
44-16		ⅡE-42	Ⅲ層	削器	珪質頁岩	玉髄質、掻器？	3.5	4.9	1.1	13.0
44-17			表採	削器	珪質頁岩		3.7	5.6	1.3	18.9
44-18			表採	削器	珪質頁岩	試掘報告書写真7	6.7	6.5	1.6	55.1
44-19		ⅠX-35	Ⅱ層	削器	珪質頁岩	性格不明の黒色付着物	5.3	6.1	1.3	36.1
44-20			表土	削器	珪質頁岩	石鏃未成品？	3.1	2.6	1.0	6.6
44-21			表採	削器	珪質頁岩	両極剥片素材	2.8	2.3	0.8	5.0
44-22			表土	削器	珪質頁岩		6.1	9.3	1.9	87.0
45-1		ⅡB-41	Ⅰ層	掻器	珪質頁岩	玉髄質	5.3	4.1	1.3	22.9
45-2		ⅡB-41	Ⅰ層	掻器	玉髄	二次加工部分わずかに光沢	3.4	2.4	0.9	6.8
45-3		ⅠZ-37	Ⅰ層	掻器	玉髄		1.9	2.3	0.9	3.9
45-4		ⅠX-39	Ⅰ層	削器	玉髄	二次加工部分に光沢、石鏃未成品？	2.6	1.9	0.4	1.9
45-5			表採	二次加工剥片	玉髄	石鏃未成品？二次加工部分に光沢	2.0	1.2	0.5	0.7

図番号	遺構	グリッド	層位	器種	石材	備考	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
45-6			表土	二次加工剝片	玉髄	石鏃未成品？二次加工部分に光沢	2.5	1.7	0.9	2.4
45-7			表土	二次加工剝片	玉髄	石槍？石鏃未成品？	5.1	2.5	1.2	11.7
45-8		ⅠZ-39	Ⅰ層	二次加工剝片	玉髄	剝離面で光沢異なる	3.0	2.4	0.7	3.7
45-9		ⅡC-41	Ⅰ層	二次加工剝片	玉髄	両極剝片素材、二次加工部分に光沢	3.0	1.5	0.6	2.2
45-10			表土	二次加工剝片	玉髄	掻器？	3.1	2.3	1.1	8.4
45-11		ⅠZ-39	Ⅰ層	二次加工剝片	玉髄	二次加工部分に光沢	4.5	3.1	1.7	16.9
45-12			表採	二次加工剝片	玉髄	二次加工部分に光沢、石鏃未成品？	2.8	1.8	0.6	2.4
45-13		ⅠW-36	Ⅰ層	二次加工剝片	玉髄	二次加工部分に光沢	3.0	2.1	0.4	2.9
45-14		ⅡA-38	Ⅰ層	二次加工剝片	玉髄	二次加工部分に光沢	2.6	2.0	1.0	6.1
45-15			表土	二次加工剝片	珪質頁岩	石鏃関係品？二次加工部分に光沢	1.7	1.8	0.5	1.1
45-16		ⅡA-38	Ⅰ層	二次加工剝片	珪質頁岩	二次加工部分に光沢	3.5	2	0.7	3.0
45-17		ⅠZ-41 斜面	Ⅰ層	二次加工剝片	赤鉄鉱	黒変、被熱	2.7	2.1	0.7	2.8
45-18		ⅠZ-41	Ⅰ層	剝片	赤鉄鉱	黒変、被熱	3.6	5.2	1.2	13.1
45-19		ⅠZ-41	Ⅰ層	石核	珪質頁岩	黒変、被熱、20と接合	2.1	4.1	1.4	10.4
45-20		ⅠZ-41	Ⅰ層	石核	珪質頁岩	黒変、被熱、19と接合	3.8	5.8	2.0	26.4
45-21			表土	石核	チャート	黒変？被熱？	5.5	5.9	3.5	120.6
46-1		ⅠY-40	Ⅰ層	剝片	珪化木	光沢？	3.3	4.2	1.2	12.8
46-2		ⅡB-41	Ⅰ層	剝片	玉髄	光沢	2.9	1.0	0.6	1.8
46-3		ⅡB-41	Ⅰ層	剝片	玉髄	光沢	2.1	1.0	0.5	0.6
46-4		ⅠX-35	Ⅱ層	剝片	玉髄	光沢	2.4	1.1	1.0	2.8
46-5		ⅠZ-39	Ⅰ層	剝片	玉髄		3.9	3.1	1.3	10.1
46-6		ⅠY-38	Ⅰ層	剝片	玉髄	両極打法、被熱、剝離面で光沢異なる	2.6	1.5	1.0	3.1
46-7		ⅠY-38	Ⅰ層	剝片	玉髄	両極打法	3.5	2.9	1.1	8.3
46-8		ⅠX-35	Ⅱ層	剝片	玉髄	両極打法、光沢？	2.0	1.9	0.9	2.9
46-9		ⅡB-39	試掘Tr9 埋土	剝片	玉髄	両極打法	3.3	1.8	1.0	4.6
46-10		ⅠX-35	Ⅱ層	剝片	玉髄	両極打法	3.0	1.5	0.8	3.6
46-11		ⅠZ-41	Ⅰ層	剝片	玉髄	黒変、被熱	2.8	2.2	1.1	7.6
46-12			表土	石核	玉髄	両極打法？光沢？	4.5	2.4	1.5	12.4
46-13		ⅠY-39	Ⅰ層	石核	玉髄	両極打法、光沢	3.3	2.6	1.3	8.8
46-14		ⅠZ-41	Ⅰ層	石核	玉髄	両極打法	2.9	2.0	1.0	5.4
46-15		ⅡB-41	Ⅰ層	石核	珪質頁岩	両極打法、光沢	3.0	2.2	1.2	7.1
46-16		ⅠZ-39	Ⅰ層	石核	珪質頁岩	両極打法、光沢	2.4	1.6	1.0	2.8
46-17		ⅡD-41	Ⅰ層	ピエス・エスキーユ	玉髄	縦横二方向の打撃	3.2	2.2	1.2	8.8
46-18			表採	ピエス・エスキーユ	珪質頁岩	玉髄質	5.1	4.1	1.5	34.5
46-19			表採	ピエス・エスキーユ	碧玉	赤褐色	5.5	3.1	2.6	44.4
46-20			表採	原石	石英		4.1	3.0	3.0	48.3
46-21		ⅠV-35	Ⅰ層	原石	玉髄		3.5	3.4	1.8	26.6
46-22			表採	打製石斧	粗粒玄武岩	刃部破片	(5.2)	(4.1)	(1.8)	(47.6)
46-23		ⅡD-41	Ⅰ層	打製石斧	粗粒玄武岩	磨製石斧未成品?	(11.6)	5.0	3.5	(277.7)
47-1		ⅡC-41	Ⅰ層	磨製石斧	閃緑岩		(8.8)	4.7	2.7	(184.0)
47-2		ⅠZ-41	Ⅰ層	磨製石斧	安山岩	基部折面再加工	7.3	4.4	2.8	144.4
47-3			表土	磨製石斧	安山岩	基部折面再加工	7.3	4.0	2.7	123.5
47-4		ⅠY-39	Ⅰ層	磨製石斧	閃緑岩		11.0	4.3	2.4	169.8
47-5			表採	磨製石斧	流紋岩		5.3	2.2	0.9	15.0
47-6			表採	磨製石斧	不明		(5.0)	(3.0)	1.2	(30.1)
47-7		ⅡB-41	Ⅰ層	磨製石斧	粗粒玄武岩		11.2	4.7	2.5	214.1
47-8		ⅠZ-37	Ⅰ層	磨製石斧	粗粒玄武岩	折面再加工	5.6	4.5	2.4	98.1

図番号	遺構	グリッド	層位	器種	石材	備考	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
47-9			表採	磨製石斧	閃緑岩		(5.0)	(4.8)	(2.5)	(73.6)
47-10		ⅡA-40	Ⅰ層	磨製石斧	粗粒玄武岩		(10.1)	(4.4)	(3.4)	(245.4)
48-1			表採	敲石	チャート		7.0	5.8	4.8	225.7
48-2		ⅠZ-41		敲石	デイサイト		13.9	9.7	4.5	1004.4
48-3		ⅠX-39	Ⅰ層	敲石	流紋岩	溝状の敲打痕、被熱、火ばね	8.6	7.9	2.5	188.1
48-4		ⅠY-38	Ⅰ層	敲石	チャート	石製円盤？	6.0	5.9	2.7	111.1
48-5		ⅡB-41	Ⅱ層	敲石	チャート		7.4	5.6	2.3	134.3
48-6		ⅠZ-41	Ⅰ層	敲石	粗粒玄武岩	被熱	9.3	4.9	2.9	143.5
48-7			表土	敲石	チャート		4.1	3.9	3.2	65.6
48-8		ⅡD-41	Ⅰ層	磨石	粗粒玄武岩	磨面+敲打痕	15.5	8.6	6.2	1167.8
48-9		ⅠY-38	Ⅰ層	磨石	花崗閃緑岩	石鹸形、磨面+凹痕、ひび割れ、被熱？	11.6	7.3	4.9	699.4
48-10		ⅠW-33	Ⅱ層	擦痕のある礫	デイサイト	砥石？	5.4	3.6	1.7	51.2
48-11			表採	砥石	凝灰岩		13.6	6.6	2.3	235
49-1			表土	石錘	デイサイト	敲石？	12.7	11.9	3.7	740.6
49-2		ⅠZ-41		石錘	粗粒玄武岩		7.9	4.4	1.0	59.4
49-3			表土	石錘	安山岩	被熱、火はね	6.3	4.2	1.8	83.8
49-4			表土	石錘	チャート	両極打法	7.7	4.7	1.5	74.1
49-5		ⅠZ-41		石錘	チャート	両極打法	10.3	6.6	2.8	300.8
49-6		ⅠY-40	Ⅰ層	石錘	デイサイト		5.8	5.0	1.3	65.8
49-7			表採	石錘	砂岩		5.4	3.8	1.0	34.1
49-8			表採	剥離のある礫	安山岩	石錘？敲石？	10.1	8.4	2.9	361.4
49-9		ⅡD-42	Ⅱ層	石皿	安山岩		36.6	18.3	16.1	11585
49-10		ⅡA-40	Ⅰ層	石皿	安山岩		40.1	17.4	7.8	7685
49-11			表土	石皿	安山岩		52.2	26.1	9.3	26185
写真図版29-A		ⅡB-41	Ⅰ層	石鏃	珪質頁岩	正面・裏面ともに火ばね	2.9	1.7	0.5	(1.2)
写真図版29-B		ⅡA-38	Ⅰ層	搬入自然礫	チャート	石棒類似形状、加工痕跡なし	32.5	12.3	11.2	8185
52-1			表土	石棒	粗粒玄武岩		6.7	2.6	2.4	67.6
52-2		ⅠW-33	Ⅰ層	石刀	粘板岩		7.7	3.4	1.2	36.7

表9　館遺跡 土製品観察表

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	文様	備考
50-1	30	第1号堀跡	覆土	土器片利用土製品	3.4	3.4	0.8	LR	
50-2	30	第1号堀跡	覆土	土器片利用土製品	2.3	4.3	0.7	R単絡5	
50-3	30	第1号堀跡	覆土	土器片利用土製品	4.9	4.6	0.8	無文	
50-4	30	第1号堀跡	覆土	ミニチュア土器	2.4	3.0		無文	
50-5	30	第1号堀跡	覆土	ミニチュア土器	1.6	2.9		無文	
50-6	30	第1号堀跡	覆土	ミニチュア土器	2.7	2.8		沈線(横位平行)、L	
50-7	30	SK06	1層	土器片利用土製品	3.0	3.1	0.7	無文	
50-8	30		Ⅰ層	土偶	3.8	3.2	1.4	表：乳房(円形粘土貼付)、裏：刺突	
50-9	30	ⅠY-40	Ⅰ層	土偶	3.0	3.6	2.0	表：臍(円形粘土貼付)、裏：無文	
50-10	30	ⅠZ-37	Ⅰ層	土偶？	4.1	4.6	1.7		脚部か
50-11	30		Ⅰ層	動物形土製品	3.8	2.6		耳・尾・四肢端部欠損、顔面剥落、背・側面刺突	
51-1	31	ⅡC-41	Ⅰ層	鐸形土製品	3.7	3.3		上部短軸に穿孔、刺突	
51-2	31	ⅠZ-37	撹乱	鐸形土製品	2.9	2.2		上部短軸に穿孔、沈線	
51-3	31	ⅡA-39	撹乱	棒状土製品	3.2	1.3	1.3	穿孔、刺突	
51-4	31	ⅡB-39	Ⅰ層	筒状土製品	3.6	2.4	0.6		
51-5	31	ⅡD-41	Ⅰ層	ミニチュア土器	4.8	3.0		波状口縁	
51-6	31	ⅡA-38	Ⅰ層	ミニチュア土器	3.5	3.4		沈線(横位平行、三角形文？)、刺突	
51-7	31	ⅡA-38	撹乱	ミニチュア土器	3.4	2.5		刺突	
51-8	31	ⅠD-41	Ⅰ層	ミニチュア土器	2.8	2.6			鐸形土製品の可能性あり
51-9	31	ⅡA-39	撹乱	ミニチュア土器	1.4	2.6			
51-10	31	ⅡA-38	Ⅲ層	ミニチュア土器	1.9	3.9		底部上げ底状	
51-11	31	ⅠW-35	Ⅰ層	ミニチュア土器	2.6	3.0			
51-12	31	ⅡA-39	撹乱	ミニチュア土器	1.7	2.4	0.4	波状口縁、波頂部下穿孔	
51-13	31		Ⅰ層	土器片利用土製品	3.7	4.2	0.9	隆沈線、隆線上LR	
51-14	31	ⅠZ-41	Ⅰ層	土器片利用土製品	3.8	3.7	0.6	沈線区画、LR	
51-15	31	ⅠY-39	Ⅰ層	土器片利用土製品	3.7	3.1	0.8	RL	
51-16	31		Ⅰ層	土器片利用土製品	2.7	3.6	0.7	RL	
51-17	31	ⅠZ-41	Ⅰ層	土器片利用土製品	3.2	3.5	0.9	R単絡5	
51-18	31		Ⅰ層	土器片利用土製品	3.7	3.7	0.8	R単絡5	
51-19	31	ⅡA-38	Ⅰ層	土器片利用土製品	3.5	3.7	0.8	沈線(波状入組文)	
51-20	31	ⅡA-38	撹乱	土器片利用土製品	3.5	3.6	0.6	沈線	
51-21	31	ⅡA-39	撹乱	土器片利用土製品	4.0	4.0	0.8	櫛歯状沈線	
51-22	31	ⅡC-41	Ⅰ層	土器片利用土製品	3.4	3.8	0.5	櫛引沈線文	
51-23	31	ⅠY-37	Ⅰ層	土器片利用土製品	3.4	3.4	0.8	櫛歯状沈線	
51-24	31	ⅡA-39	撹乱	土器片利用土製品	3.8	3.7	1.1	櫛歯状沈線	
51-25	31	ⅠY-40	Ⅰ層	土器片利用土製品	2.4	2.1	0.6	櫛歯状沈線	
51-26	31		Ⅰ層	土器片利用土製品	3.2	3.2	0.8	無文	
51-27	31	ⅡA-38	Ⅲ層	土器片利用土製品	3.7	3.3	1.0	無文	
51-28	31	表採		土器片利用土製品	5.0	4.4	0.7	無文	
51-29	31	ⅠW-37	Ⅰ層	土器片利用土製品	5.2	5.3	0.8	無文	
51-30	31	ⅡD-41	Ⅰ層	土器片利用土製品	1.8	3.8	1.2	無文	
51-31	31	ⅡA-39	撹乱	土器片利用土製品	1.9	3.1	0.6	無文	

写　真　図　版

調査区近景（南から）

調査区近景（北から）

写真図版１　西張（3）遺跡　近景

ⅢD～ⅢQ -72 ～ 80 付近 完掘（南から）

ⅢN～ⅢQ -74 ～ 77 付近 完掘（南から）

ⅢF～ⅢQ -72 ～ 80 付近 完掘（南西から）

ⅢS～ⅢU -76 ～ 80 付近 完掘（南から）

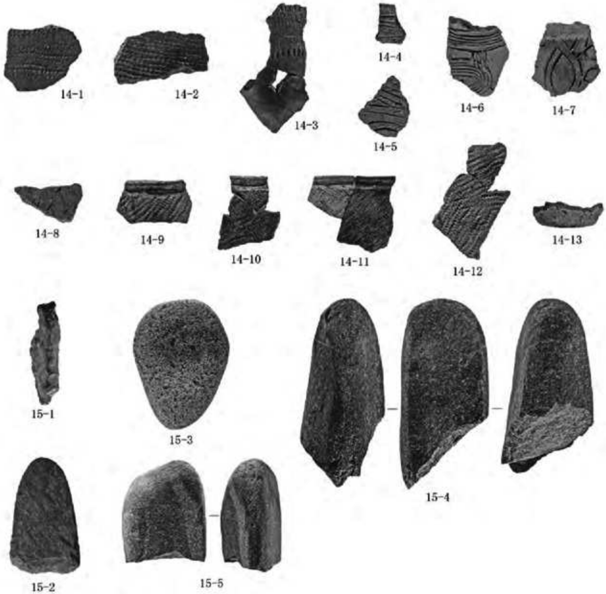
第１号溝状土坑 完掘（南から）

第１号溝状土坑 断面 （南から）

基本層序（南から）

作業風景（北東から）

写真図版２　西張（３）遺跡　調査区



写真図版３　西張（３）遺跡　出土遺物

調査区全景（上が南東）

第１号堀跡 南西屈曲部付近 完掘（上が南東）

写真図版４　舘遺跡　調査区

第１号堀跡 断面 A-A'（南西から）

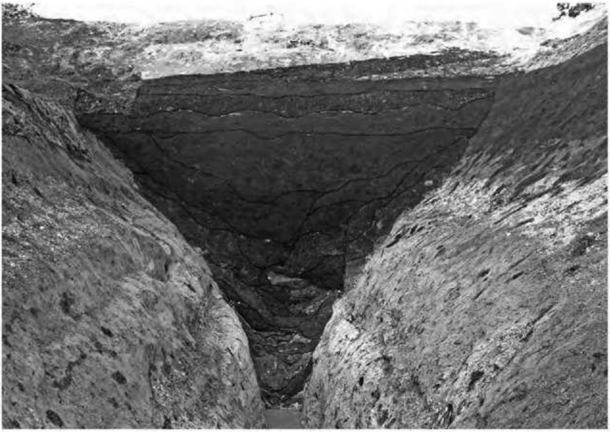
第１号堀跡 断面 B-B'（北東から）

写真図版５　館遺跡　遺構１

第１号堀跡 断面 C-C'（南西から）

第１号堀跡 断面 D-D'（南西から）

写真図版６　舘遺跡　遺構２



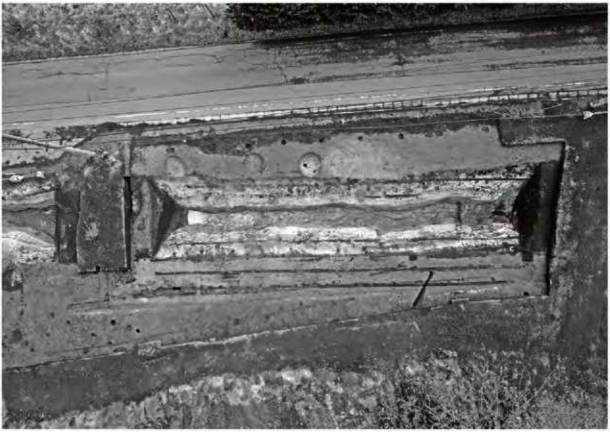
第１号堀跡 断面 E-E'（南西から）

第１号堀跡 断面 F-F'（南西から）

第１号堀跡 南西屈曲部 完掘（南から）

第１号堀跡 断面 G-G'（南東から）

写真図版７　舘遺跡　遺構３



第１号堀跡・第１号溝跡・第３～５号土坑 完掘（上が南東）

第１号溝跡 完掘（北東から）

写真図版８　舘遺跡　遺構４

第１号溝跡・第１号性格不明遺構 断面（北から）

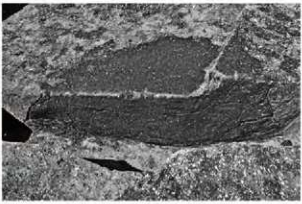
第１号溝跡 断面（北東から）

遺構検出作業（北東から）

第１号土坑 完掘（東から）

第１号土坑 断面（東から）

第２号土坑 完掘（東から）



第２号土坑 断面（東から）

写真図版９　館遺跡　遺構５

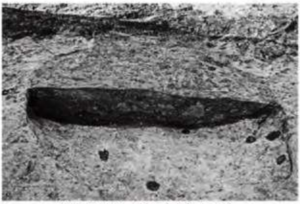
第３号土坑 完掘（南東から）

第３号土坑 断面（南東から）

第４号土坑 完掘（南東から）

第４号土坑 断面（南東から）

第５号土坑 完掘（南東から）


第５号土坑 断面（南東から）

第６号土坑 遺物出土状況（南東から）

第６号土坑 断面（南東から）

写真図版 10　舘遺跡　遺構６

第７号土坑 完掘（北東から）

第７号土坑 断面（北東から）

第８号土坑 完掘（北東から）

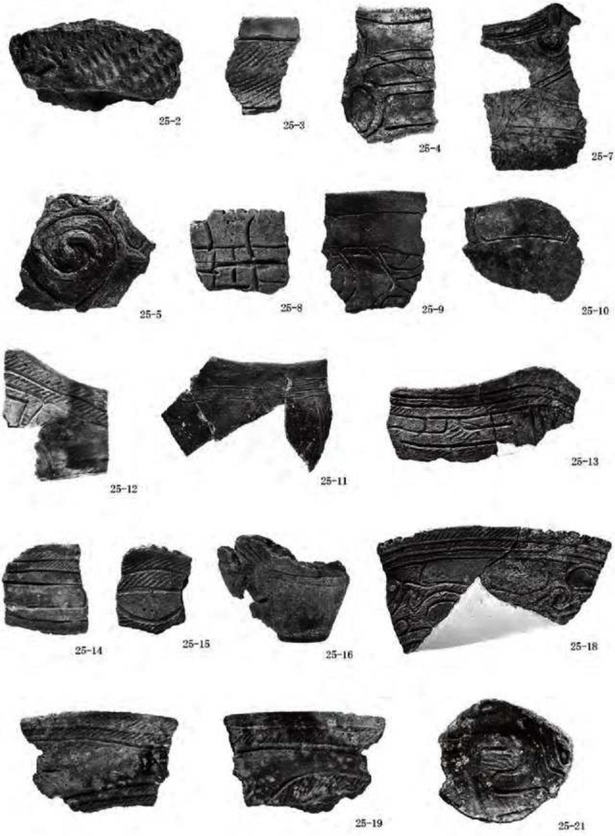
第８号土坑 断面（北東から）

第１号溝状土坑 完掘（南から）

第１号溝状土坑 断面（南から）

縄文時代後期の遺物 出土状況（東から）

写真図版 11 館遺跡 遺構７



写真図版 12　舘遺跡　遺構内出土土器 1

26-1

26-6

26-8

26-7

26-9

26-14

26-13

27-13

27-8

27-1

26-17

26-16

写真図版 13　舘遺跡　遺構内出土土器 2

27-16

28-6

28-3

28-14

28-12

28-11

28-18

28-17

写真図版 14　舘遺跡　遺構内出土土器 3

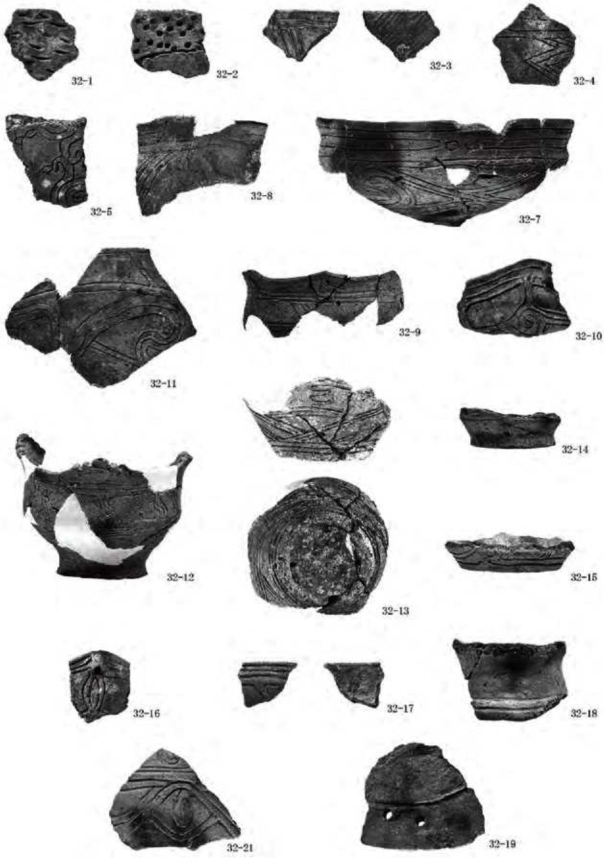
写真図版 15　舘遺跡　遺構外出土土器 1

31-1

31-3

31-4

写真図版 16　舘遺跡 遺構外出土土器 2



写真図版 17　舘遺跡　遺構外出土土器 3

33-1

33-2

33-5

33-6

33-13

33-12

33-7

33-8

33-9

33-10

写真図版 18　舘遺跡　遺構外出土土器 4

34-1

34-2

34-5

34-7

34-13

34-11

34-3

34-12

34-8

写真図版 19　舘遺跡 遺構外出土土器 5

35-1

35-4

35-6

36-3

35-16

35-24

36-4

36-5

36-1

36-2

36-6

36-12

36-10

写真図版 20　舘遺跡　遺構外出土土器 6

36-16

36-18

36-19

36-20

37-1

37-2

37-3

37-4

37-5

37-6

37-7

37-12

写真図版 21　館遺跡　遺構外出土土器 7

38-1

38-2

写真 22-1

38-9

38-7

38-4

38-8

38-6

38-10

写真図版 22　舘遺跡　遺構外出土土器 8

39-5

39-6

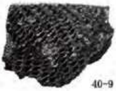
39-11

39-13

39-12

40-1

40-7



40-9

40-8

40-14

40-17

写真図版 23　舘遺跡　遺構外出土土器 9

40-24

41-4

40-15

41-6

41-9

41-11

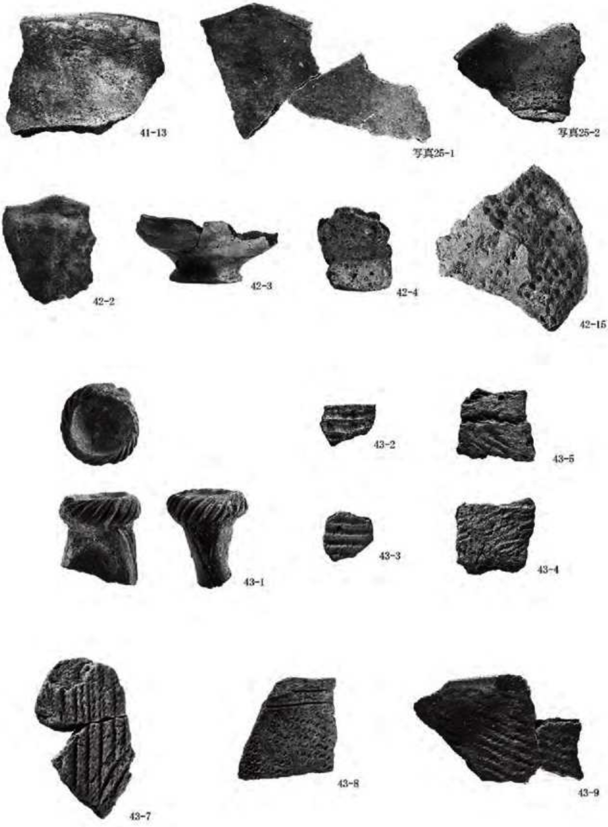
41-7

41-8

41-5

41-12

写真図版 24　舘遺跡　遺構外出土土器 10



写真図版 25　舘遺跡　遺構外出土土器 11

第１号堀跡

29-1

29-2

29-3

29-4

29-5

29-6

29-7

29-8

第１号溝跡

29-9

29-10

29-11

第１号土坑

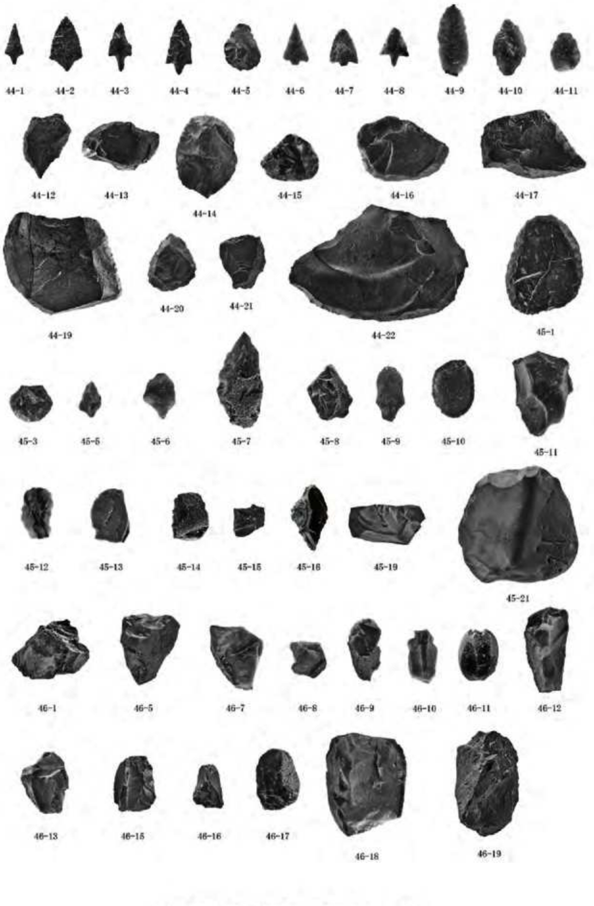
29-12

第６号土坑

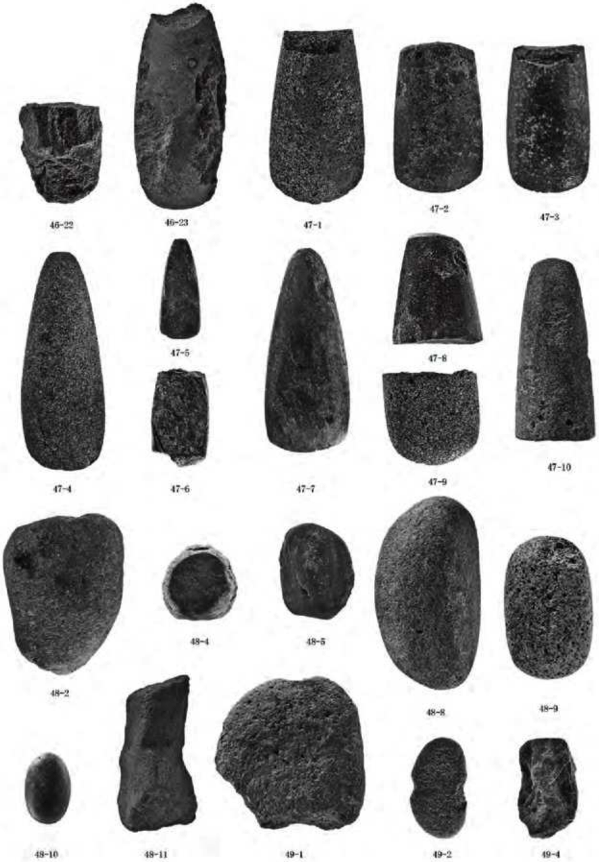
29-13

29-14

写真26　舘遺跡　遺構内出土石器



写真図版27　舘遺跡　遺構外出土石器１



写真図版28　舘遺跡　遺構外出土石器２

49-3

49-5

49-6

49-7

49-8

49-9

49-10

49-11

写真のみの報告石器

A

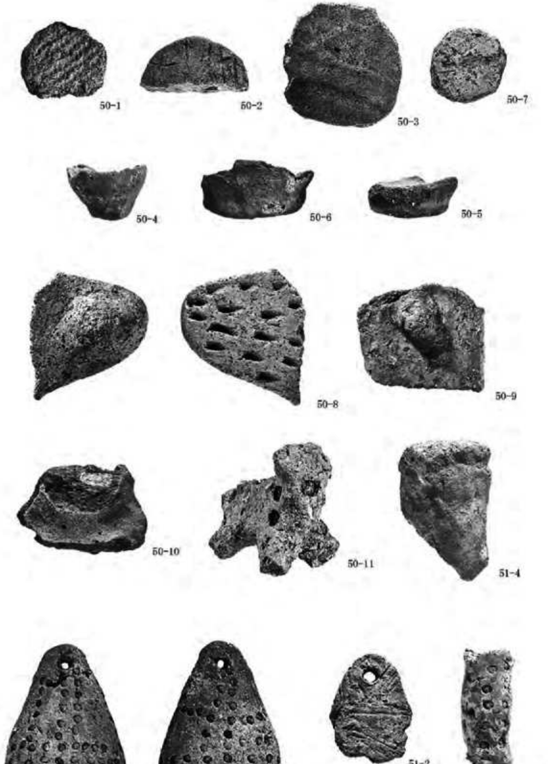
B

石製品

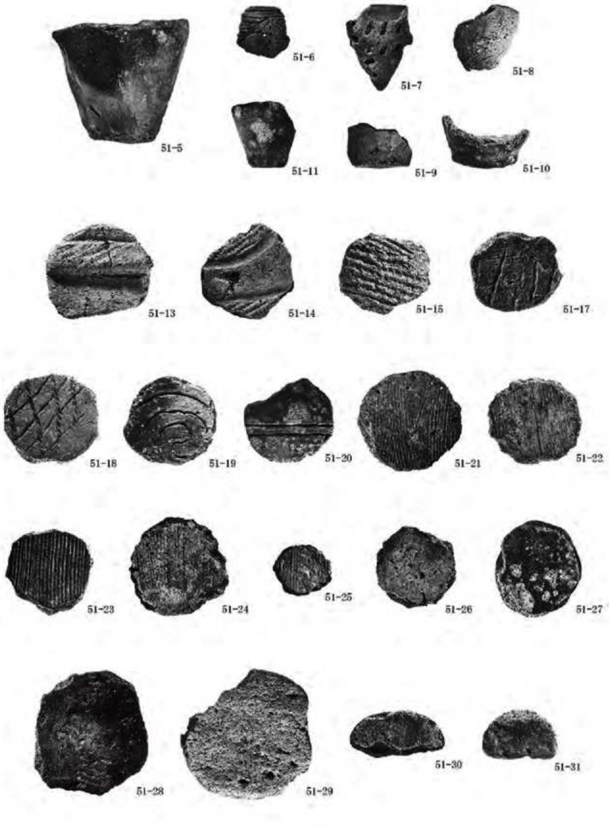
52-1

52-2

写真図版29　舘遺跡　遺構外出土石器3・石製品



写真図版 30　舘遺跡　土製品 1



写真図版31　舘遺跡　土製品2

報　告　書　抄　録

ふ り が な	にしはりかっこさんいせきさん・たていせき
書　　名	西張(3)遺跡Ⅲ・舘遺跡
副 書 名	県道櫛引上名久井三戸線道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第612集
編 著 者 名	齋藤　岳、齋藤　正、木村恵理
編 集 機 関	青森県埋蔵文化財調査センター
所 在 地	〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15　TEL 017-788-5701
発 行 機 関	青森県教育委員会
発行年月日	2020年3月11日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系(JGD2011)		調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
にしはりかっこさんいせき 西張(3)遺跡	あおもりけんさんのへぐん 青森県三戸郡 なんぶちょうおおあざほうしおか 南部町大字法師岡 あざだいどうのした 字大道ノ下	024445	445145	40° 27′ 52″	141° 24′ 16″	20180425 ～ 20180629	1,700	記録保存調査
たていせき 舘遺跡	あおもりけんさんのへぐん 青森県三戸郡 なんぶちょうおおあざごみわたり 南部町大字埖渡 あざたて 字舘	024445	445116	40° 27′ 48″	141° 24′ 00″	20180904 ～ 20181031	1,700	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
西張(3)遺跡	狩猟場	縄文時代	溝状土坑	1	縄文土器(早・後・晩期) 石器	
舘遺跡	散布地 狩猟場 城館	縄文時代 中世 中世以降	土坑 溝状土坑 堀跡 溝跡 性格不明遺構 ピット	8 1 1 1 1 19	縄文土器(早～後期) 石器 土製品 石製品	

要　約

西張(3)遺跡は、調査の結果、溝状土坑を検出した。これまで2度の調査結果と同様に、狩猟場として利用されていたと考えられる。遺物は縄文時代早期、後期、晩期の土器と石器が出土した。

舘遺跡は、調査の結果、縄文時代と中世に利用されていることがわかった。縄文時代は土坑や溝状土坑を検出した。遺物は縄文時代後期前葉を主体とする土器・石器・土製品(土偶、動物形土製品、鐸形土製品、ミニチュア土器、土器片利用土製品)・石製品が出土した。

中世は堀跡を検出した。断面形状は薬研状を呈しており、大規模である。堀跡から年代を示す遺物が出土していないため、時期決定の根拠に欠くが、このような堀跡は全国的に16世紀に見られることから16世紀頃の時期が想定される。

青森県埋蔵文化財調査報告書　第612集

西張（3）遺跡Ⅲ
舘遺跡

－県道櫛引上名久井三戸線道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告－

発行年月日　令和2年3月11日
発　　　行　青森県教育委員会
編　　　集　青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042　青森県青森市大字新城字天田内152-15
TEL 017-788-5701　FAX 017-788-5702
印　　　刷　川口印刷工業株式会社　青森営業所
〒030-0811　青森県青森市堤町2丁目1-7
堤町ファーストスクエアビル6F-C
TEL 017-721-6520　FAX 017-775-3510

この印刷物は300部作成し、印刷経費は1部当たり7,205円（うち県負担3,062円）です。

第7節　遺構外出土遺物

遺構外からは、縄文時代早期から後期までの土器・土製品・石器・石製品が出土した。遺物の出土位置は調査区北東側のⅠV-33グリッド以北に集中している。出土層位は第Ⅰ層が大半を占めており、層位ごとの時期差を捉えることはできなかった。

1　土器

遺構外出土土器の総量は約120kgである。復元できた個体は少なく、大部分は破片資料だが、特徴等を考慮した上で全体の器形がわかるもの、口縁部・底部資料を中心に掲載した。出土した土器は縄文時代早期後葉から後期中葉までみられるが、主体は縄文時代後期前葉に属するものである。以下、各時期の土器について記述するが、個々の遺物の詳細については遺物観察表を参照されたい。

縄文時代早期後葉から後期初頭以前の土器（図30-1・図43-2～9、写真図版15・25）

図30-1は深鉢口縁部である。波状口縁の波頂部突起は小さく、口唇部と口縁部内面にLRが回転施文され、外面は丁寧に磨かれる。特徴から中期中葉から後葉に属する可能性が高いが、判断材料が少ないため断定はできず、後期中葉の可能性もある。図43-2～4は縄文時代前期前葉に位置づけられるものである。2・3は竹管状工具による押し引きによって施文され、4はLRが回転施文される。いずれも胎土に繊維を含む。5～7は前期中葉から後葉に属すると考えられるものである。6・7は単軸絡条体第1類によって施文される。8・9は中期中葉から後期初頭に属するもので、縄文が縦位に回転施文される。

縄文時代後期初頭に属する土器（図30-2・3、写真図版15）

韮窪式（本間1987）、牛ヶ沢（3）式（成田1989）、第Ⅰ様式（榎本2008）などに相当する土器である。本遺跡からの出土量は少ない。器種は深鉢形と壺形がみられる。図30-2は波状口縁の深鉢であり、頸部が屈曲する。波頂部から頸部にかけて隆帯が付され、隆帯を含む内外面に無節Lが回転施文される。口唇部と隆帯には竹管状工具による連続した刺突が施される。図30-3は隆帯上にLRが施文される。

縄文時代後期前葉に属する土器

十腰内Ⅰ式古段階（図30-4～図33-11、図37-12、写真図版15～18・21）

十腰内ⅠA式（成田1989）、第Ⅳ様式（榎本2008）などに相当する土器である。器種は深鉢形、鉢形、壺形がみられ、台付鉢も一定数認められる。深鉢形・鉢形土器の口縁形は波状となるものと平坦口縁のものがあり、口唇部に刻みが施されるものもみられる。鉢形土器では口縁部が肥厚し、口唇部から口縁部外面にかけて穿孔されるもの（図32-10・16）や、上げ底状の底部から胴部にかけて穿孔されるもの（図32-13）も認められる。文様は沈線や隆沈線によって入組文や弧状文、楕円形文などが施される。鉢形土器や壺形土器の中には赤彩されるもの（図32-10・17、図33-11）が散見されるほか、漆と推測される黒色付着物が認められるもの（図30-17）も少量ある。

沈線によって施文されるものの中には、2条の沈線の両端をつないで文様を表現するもの（図31-1、図32-7・12・図33-2・7～9）と2～3条の平行沈線によって文様を表現するもの（図32-3～5・8・

9・11・13・20)がある。隆沈線によって施文されるものは、器面が丁寧に磨かれるものが多い。口縁部に限定して隆沈線が用いられるものと、全体に用いられるものがある。

図37-12は大型の壺である。楕円形文によって縦位・横位に区画された内側に三角形文や入組文が施文され、LRが充填される。十腰内Ⅰ式直前型式段階から十腰内Ⅰ式に比定されるものである。図31-3～5は同一個体とみられる壺である。頸部には小ぶりな把手が2段にわたって付く。把手は上段と下段で半単位ずらして付され、上段では把手が付されない部分に穿孔がなされる。口縁部から頸部には隆沈線による楕円形文が、胴部には弧状文や入組文が施される。図25-4と図30-11は同じ文様のモチーフをもつが、それぞれ沈線と隆沈線によって施されている。図32-3は外面に沈線文が施され、内面は無節Lが横位回転施文される。

十腰内Ⅰ式新段階（図33-14～図37、写真図版19～21）

十腰内ⅠB式(成田1989)、第Ⅴ～Ⅵ様式(榎本2008)などに相当する土器である。器種は深鉢形、鉢形、壺形がみられ、台付鉢も一定数認められる。深鉢形・鉢形土器の口縁形は波状となるものが多く、口唇部に刻みが施されるものも少量みられる。鉢形土器は頸部が屈曲して外反するもの、直線的に外反するもの、口縁部が内湾するものなど、十腰内Ⅰ式古段階に比べて多様である。文様は沈線によって入組文や方形文、クランク文などが施され、沈線間に櫛歯状沈線が充填（図33-14～図34-9）もしくは、縄文が充填（図34-10～図36-19）される。櫛歯状沈線が充填されるものは2条1組の沈線によって施文され、縄文が充填されるものは3条1組の沈線によって施文される傾向がある。縄文が充填されるものでは、口縁部に沿って横位の平行沈線が施され、胴部の方形文や入組文が縦位もしくは斜位の沈線によって口縁部の横位平行沈線と連携されるものが多い(図34-11～15、図35-2・3)。

粗製土器及び底部破片（図38～42、写真図版22～25）

無文あるいは地文のみ施文されるものである。出土状況から後期初頭から前葉に属すると考えられる。地文には絡条体や沈線によって格子目状あるいは条線状の文様が施されるもの、櫛歯状沈線や縄文のみが施されるものがある。器種は深鉢形、鉢形、壺形が認められる。絡条体による施文は、単軸絡条体第5類が大部分を占め、単軸絡条体第1類がわずかに認められる。口縁部は折返し状になるものや肥厚するものが多い。口縁部が折返し状となるものの中には、口縁部が無文のもの(図38-9)や、胴部と同じ絡条体が縦位施文されるもの、横位施文されるもの(図38-5～8)がある。沈線によって格子目状文を表出するものは図39-6の1点のみ確認された。櫛歯状沈線が施されるものには、縦位に施文されるもの(図39-7～10)と、格子目状の文様を表出するもの(図33-12・13)がある。図27-25は口縁部に横位施文、胴部に縦位施文される。

縄文のみ施文される土器は、口縁部が肥厚するもの(図40-8)や、口唇部に胴部と同じ縄文原体が回転施文されるもの(図40-20、23～28)が認められる。また、縄文原体の側面押圧(図26-9～11、図40-28)をもつものがあるが、これらは十腰内Ⅰ式の中でも新しい要素とされているものである。

無文のものは深鉢形、鉢形(台付鉢を含む)、壺形、片口形が認められる。深鉢形土器の中には波状口縁となるもの(図41-6、図42-2)、底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、底部が上げ底状となるもの(図41-7)がある。底部は網代痕や木葉痕、笹葉状木葉痕など、敷物の痕跡を残すものが

多い。図42-15は網代痕を覆い隠すように化粧土が貼り付けられている。

縄文時代後期中葉に属する土器

十腰内Ⅱ式（図35-23・24、図36-17・20、図43-1、写真図版20・21・25）

出土量は少ない。器種は深鉢形と壺形がみられる。図35-23は深鉢、図36-20は壺である。沈線によって縦位に展開する帯状の入組文が表出され、沈線間にLRが充填される。図36-17は口縁部が内傾する鉢である。平行沈線文が施され、沈線間に蛇行文が施される。図43-１は深鉢形土器の口縁部突起である。（木村）

２　石器（図44～49、写真図版27～29）

遺構外からは石鏃11点、石錐１点、削器18点、掻器６点、二次加工剥片49点、微細な剥離痕のある剥片６点、剥片210点、石核16点、ピエス・エスキーユ４点、原石３点、打製石斧２点、磨製石斧14点、石錘18点、凹石２点、敲石56点、磨石８点、砥石２点、石皿15点、台石４点、剥離のある礫６点、擦痕のある礫１点、搬入自然礫１点が出土した。

図44-１～11は石鏃である。１～５は珪質頁岩製であり、１は裏面中央に素材剥片の主要剥離面が残る。その部分は、にぶい光沢がある。有茎鏃で長さは2.2cmと小型である。他の石鏃も未成品を除いて有茎鏃で、長さは３cm未満と小型である。５は平坦な剥離が施されるが先端部の作り出しがなく、石鏃未成品と判断した。石鏃と形状と加工状況が類似するが、先端部が作りだされていないもの等は石鏃未成品とし、石鏃の中で扱う。６～11は玉髄製の石鏃である。９・11は先端部の作り出しがなく、10は表面左側縁に加工が認められないことから石鏃未成品と判断した。

図44-12は石錐で、図44-13～図45-４は掻器・削器である。図44-13は珪質頁岩製で、14は玉髄製である。図44-15～図45-１は珪質頁岩製で、裏面に素材剥片の主要剥離面が残る。素材剥片は、剥片剥離軸がねじれている幅広の縦長剥片や横長剥片である。図45-２～４は玉髄製であり、玉髄製の石器は２～３cm程度の小型品が多い。

図45-５～17は二次加工剥片である。５～14は玉髄製で、５・６は二次加工により器体の輪郭が、石鏃と共通性のある形状になっているが、本類に含めた。７は尖った先端部が作り出されているが、両側縁の加工が粗い。尖った部分を持つ削器や石槍の未成品の可能性がある。８は両極打法により生産された剥片を素材としている。９～12は、削器と認定するには加工が粗い。13は、両極打法により生産された剥片を素材とし、14も同様の可能性がある。15・16は珪質頁岩製であり、15の裏面中央には節理面が観察できる。正面左側には石鏃に多く認められる細長く平坦な剥離加工の痕跡が残る。石鏃の製作時に節理面により破損した石鏃関連資料の可能性がある。17は赤鉄鉱製で平坦な剥離がなされ、石鏃未成品もしくは小型削器未成品の可能性がある。

図45-18～図46-16は剥片と石核である。両極打法による剥片と石核は区別しがたいものを含むため、石材ごとに分けて両者をあわせて図示した。18は赤鉄鉱製の剥片である。19・20は珪質頁岩製の石核である。剥片素材の石核であり、双方の上面が図版完成後に接合しており、詳細は総括で記述した。21はチャート製の石核で、図46-１は珪化木製の剥片である。２～11は玉髄製の剥片で、６～11は対向する剥離痕とリングの密集など両極打法の痕跡が残る。２～４のように明瞭な光沢が残るものがあ

り、図に網掛けで表示したが、詳細については総括部分で記述する。４については断面が四角形となる形状であり、５はリングが密集する点で両極打法により生産された可能性がある。図46-12～14は玉髄製の、15・16は珪質頁製の両極打法による石核である。厚みがあり剥片と認定できず、石核とした。

図46-17～19はピエス・エスキーユである。17は玉髄製で、縦横二方向から両極打法で打撃されている。舘遺跡では両極打法による石核は、一方向から打撃されているためピエス・エスキーユとした。18は珪質頁岩製で、上下一方向からの打撃であるが、長さが5.1cmと他の両極打法による石核より大きい。19は碧玉製で、長さ5.5cm、厚さ2.6cm、重量44.4gである。上下一方向からの打撃であるが大きさと石材の点で、他の両極打法による石核と異なる。また、碧玉製の剥片は舘遺跡から出土しておらず、ピエス・エスキーユとした。

図46-20は石英の、図46-21は玉髄の原石である。

図46-22・23は粗粒玄武岩製の打製石斧である。22は、刃部側の破片であり、礫素材で刃部付近の厚みがない。23は基部付近を欠損するのみで、完形品に近い。刃部付近に素材礫の曲面を残している。両側面を中心に敲打加工の痕跡が残る。

図47-１～10は磨製石斧である。５は長さ5.3cm、重量15.0gの小型品で、６も残存長が5.0cm、残存重量30.1gとやや小型である。他は、欠損や再加工がなければ長さ10cm前後、重量150g以上の大きさと考えられる。１は閃緑岩製で、安山岩製の２・３は基部欠損後に折面を再加工している。４は閃緑岩製、５は流紋岩製、６は石材不明である。７・８は、粗粒玄武岩製で、８は先端部側を欠損した後に、折面から再加工している。９は閃緑岩製、10は粗粒玄武岩製である。

図48-１～７は敲石で、図48-８・９は磨石である。８・９のように複数の種類の使用痕を持つものに関しては、最も多くの表面積を占める使用痕もしくは最も新しい使用痕を観察し、その石器を代表する使用痕を勘案して、磨石や敲石に振り分けた。１は底面の敲打痕に稜が形成されており、多面体の敲石となっている。２は長さ13.9cmと大型の敲石で、敲打痕が、側面を一巡する。３は、側面と裏面に溝状の敲打痕が形成されている。４は長さが６cmと小型の敲石で、敲打痕が側面を一巡する。円盤状石製品の可能性もある。５は敲打痕が正面と側面に形成されている。６・７は敲打痕が上下両端部に形成されている。８は、磨面が側面に細長く形成されている。下端部などには敲打痕も形成されている。９は石鹸形の磨石であり、正裏面は器表面が滑らかな磨面で、左右の側面はざらざらした磨面となっている。正裏面の磨面の上に敲打痕が、正面には凹痕が形成されている。

図48-10は擦痕のある礫で、図48-11は砥石である。

図49-１～７は石錘である。１は楕円礫の長軸側に紐かけのための抉りがあるが、短軸側にも敲打痕がある。長さ12.7cm、重量740.6gと大型である。２～７は楕円礫の短軸側に紐かけのための抉りがある。４・５は石材がチャートのため、抉り部分の剥離痕の打点や剥離状況が観察できる。打点が線状であり、横幅の広い横長剥片が剥離された痕跡が残るため両極打法による打撃の痕跡と考えられる。他の石錘も、抉りの剥離痕が向かいあい、強打された痕跡が残るため、両極打法による可能性がある。図49-８は剥離のある礫とした。短軸側に素材礫の形状に由来する窪んだ部分があり、石錘と類似した形状となっている。

図49-９～11は石皿であり、９は機能面に敲打痕と凹痕が認められる。10は正面に平滑な磨面が形

成されている。裏面にも磨面が認められるが、器表面に凹凸があるため、凸の部分を中心に磨面が形成されている。11は正面に磨面が大きく広がり、正面左側に敲打痕が認められる。

敲石、磨石、石錘などの石材としては、チャート、デイサイト、粗粒玄武岩、凝灰岩などが多く用いられている。石皿については安山岩が多く用いられている。

なお、写真のみの掲載遺物が２点あり、うち１点（写真図版29-A）は正裏面ともに器体中央部に火ばねによる欠損がある珪質頁岩製の石鏃である。珪質頁岩は搬入石材であり、全体の形状等がわかる資料であるため、写真掲載とした。もう１点(写真図版29-B)は、石棒に形状が類似するチャートの搬入自然礫である。研磨等の明瞭な加工は見られない。両者は遺物写真のほか、遺物観察表に計測値を記載した。　（齋藤岳）

３　土製品 (図50・51、写真図版30・31)

土製品は土偶、動物形土製品、鐸形土製品、ミニチュア土器、土器片利用土製品などが出土した。

図50-８は土偶の腕部である。粘土粒貼付によって乳房が表現される。裏面には棒状工具による刺突がなされる。９は土偶胴部である。粘土粒貼付によって臍が表現される。10は欠損部が多く、全体形は不明だが、土偶脚部の可能性がある。11は動物形土製品である。本来耳と尾があったと推測される部分や顔面は剥落しており、口の表現のみ確認できる。四肢の端部が剥落していることから、動物形内蔵土器など、何らかの器面に貼り付けられていた可能性がある。背中と側面には円形の棒状工具による刺突が施される。形態からイヌを模したものである可能性が指摘できる。図51-１・２は鐸形土製品である。つまみ部に穿孔がなされる。１は円形の棒状工具によって刺突が施される。内面にはススが付着している。３は棒状の土製品である。長軸方向に穿孔され、表面には円形の棒状工具による刺突が施される。４は筒形の土製品である。５～12はミニチュア土器である。いずれも深鉢形であり、平坦口縁のもの(６～８・11)と波状口縁のもの(５・12)が認められる。12は波頂部に穿孔がなされる。文様は無文が主体だが、沈線文や刺突文を施すもの(６・７)も認められる。６は口縁部が内傾する器形で、沈線文と刺突文が施される。８は口縁部が内湾しており、鐸形土製品の可能性もある。13～31は土器片利用土製品で、すべて円形である。縁辺を打ち欠きによって成形したものと、打ち欠き後に磨りによって成形したものが認められる。いずれも十腰内Ⅰ式土器の胴部破片を用いたものとみられ、隆帯によって文様を表出するもの(13)、地文縄文のみのもの(15・16)、沈線間に縄文を充填するもの(14)、単軸絡条体による格子目状文が表出されるもの(17・18)、沈線で波状入組文などの文様を表出するもの(19・20)、櫛歯状沈線が施されるもの(21～25)、無文のもの(26～31)がある。　（木村）

４　石製品 (図52、写真図版29)

石棒の破片が１点、石刀の破片が２点出土している。図52-１の石棒は粗粒玄武岩製である。石刀については、より残存状況の良い粘板岩製の図52-２を図示した。　（齋藤岳）

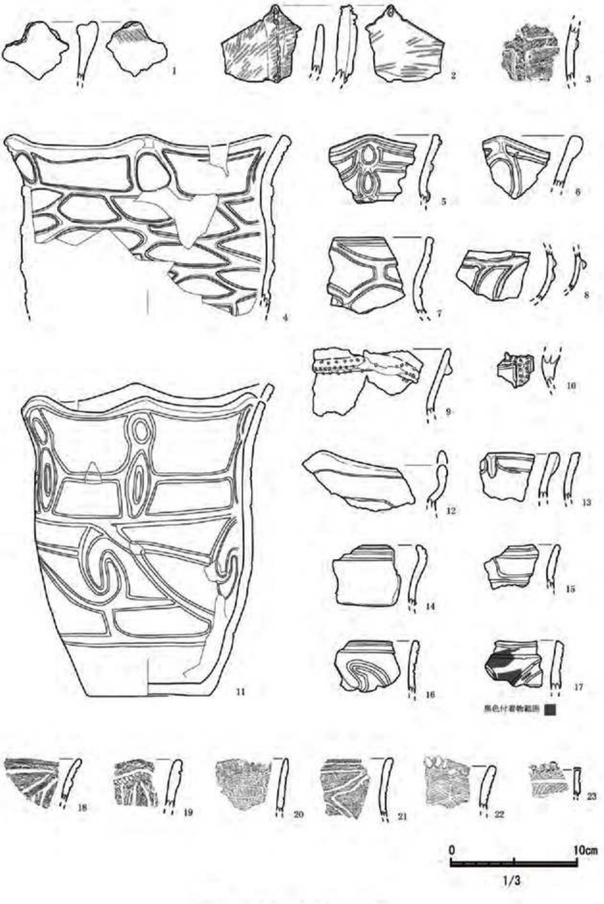


図30　舘遺跡　遺構外出土土器１

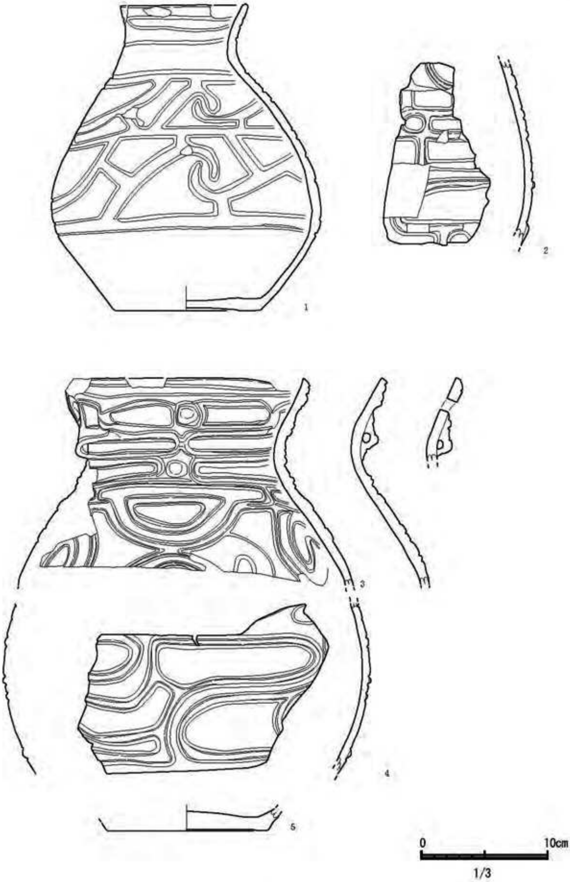


図31　舘遺跡　遺構外出土土器２

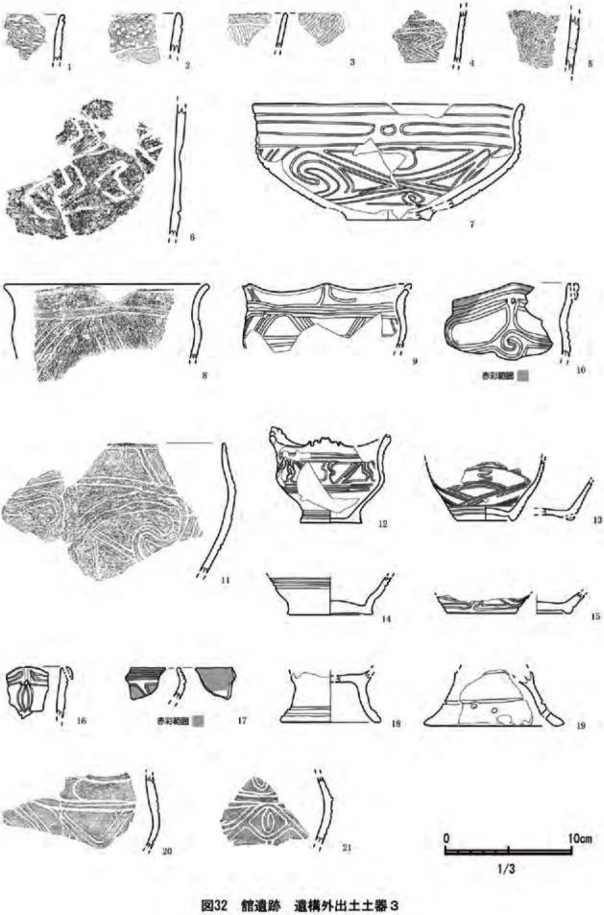


図32　舘遺跡　遺構外出土土器３

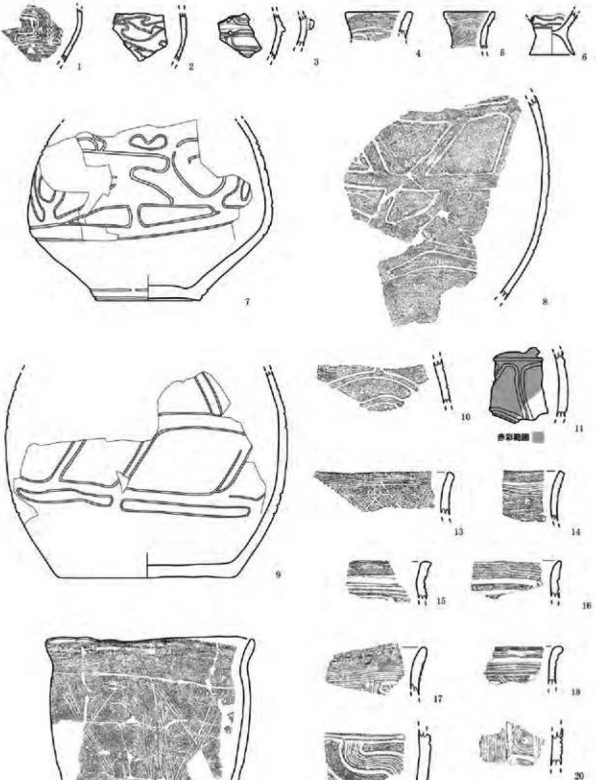


図33 館遺跡 遺構外出土土器4

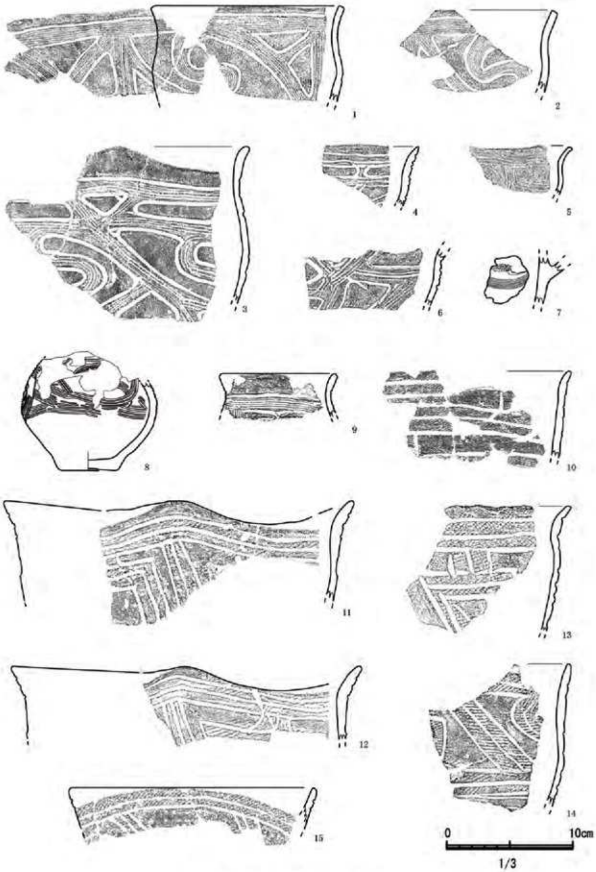


図34　舘遺跡　遺構外出土土器５

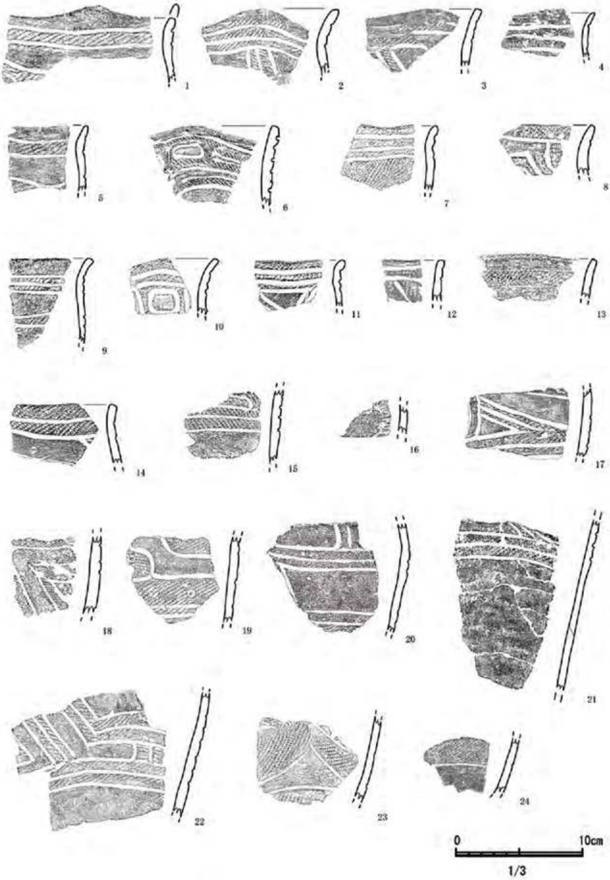


図35 館遺跡 遺構外出土土器6

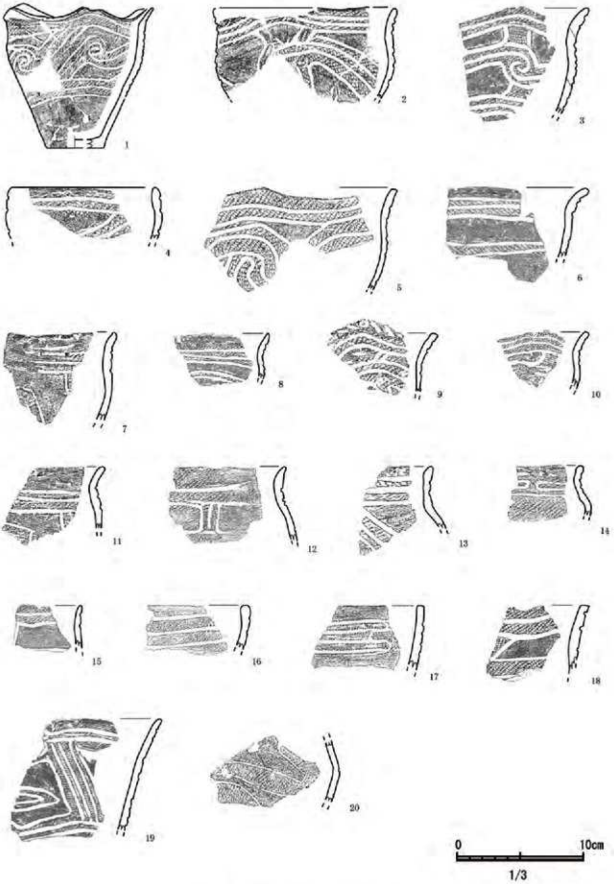


図36　舘遺跡　遺構外出土土器７

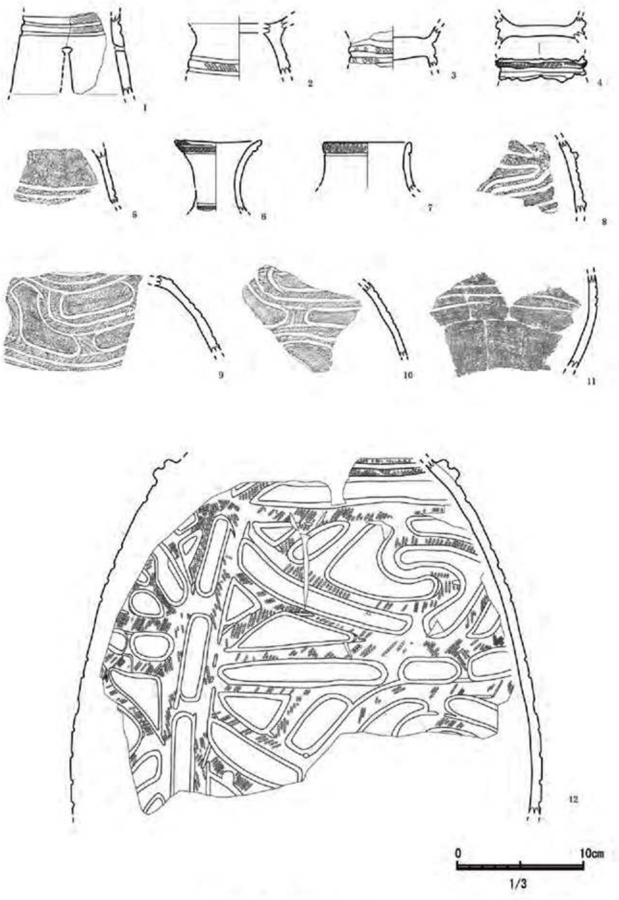


図37　舘遺跡　遺構外出土土器８

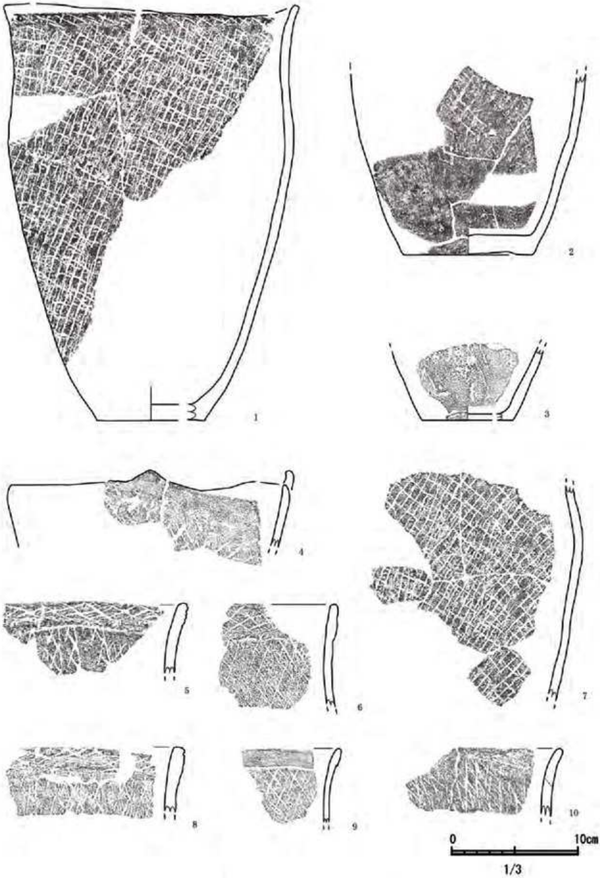


図38　舘遺跡　遺構外出土土器９

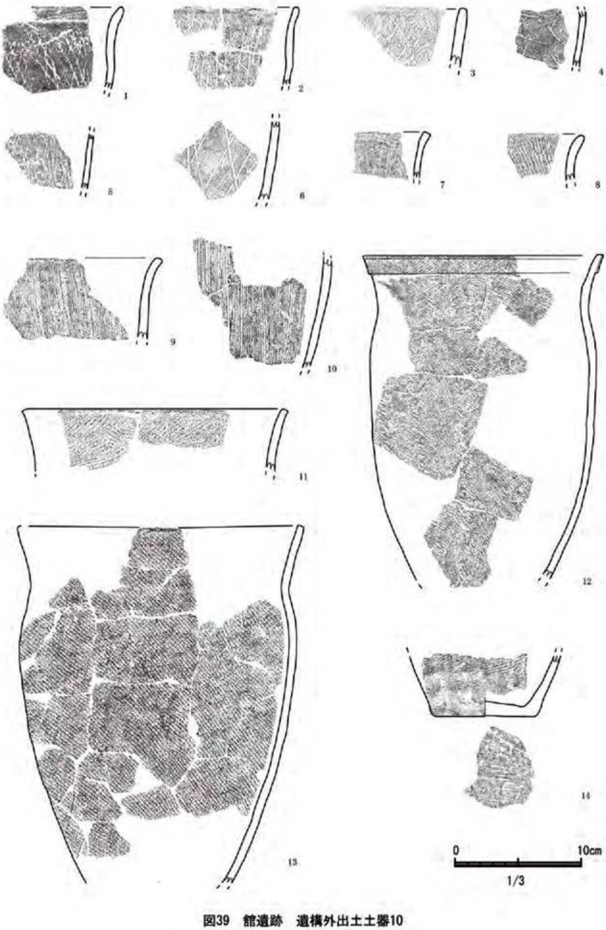


図39　館遺跡　遺構外出土土器10

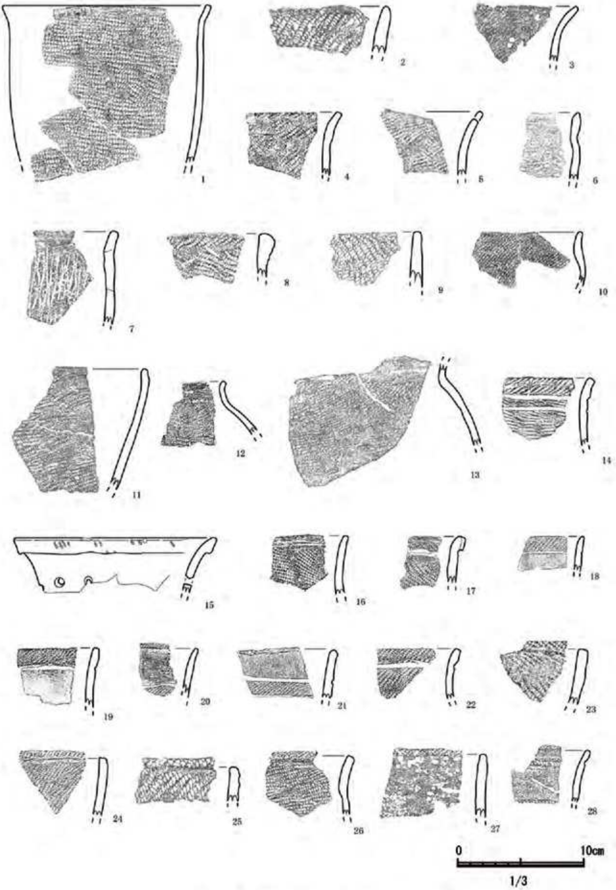


図40　館遺跡　遺構外出土土器11

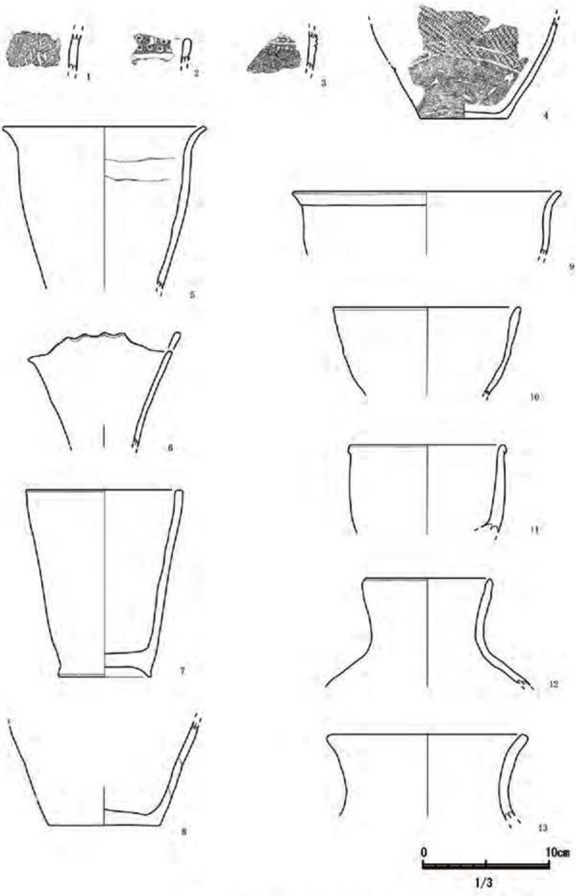


図41　舘遺跡　遺構外出土土器12

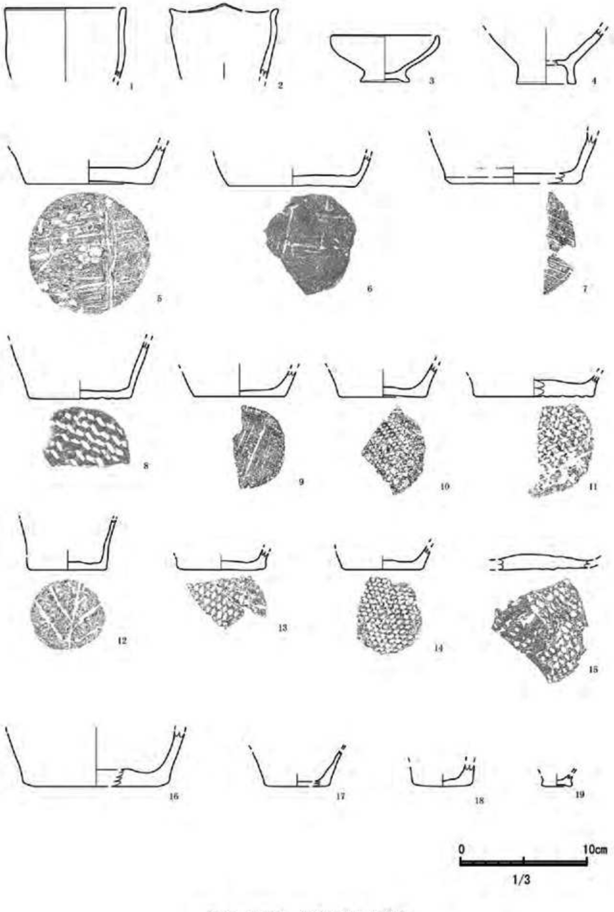


図42　館遺跡　遺構外出土土器13

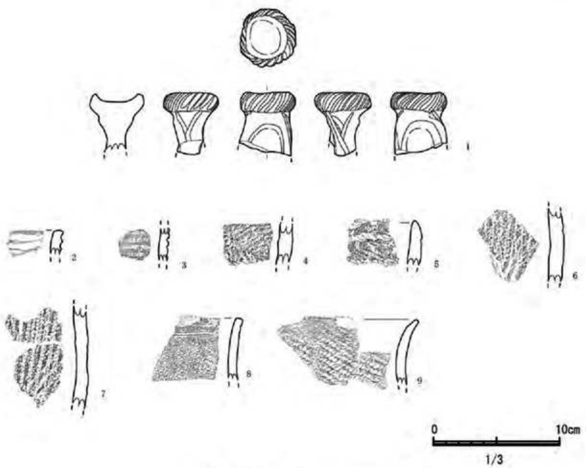


図43　舘遺跡　遺構外出土土器14

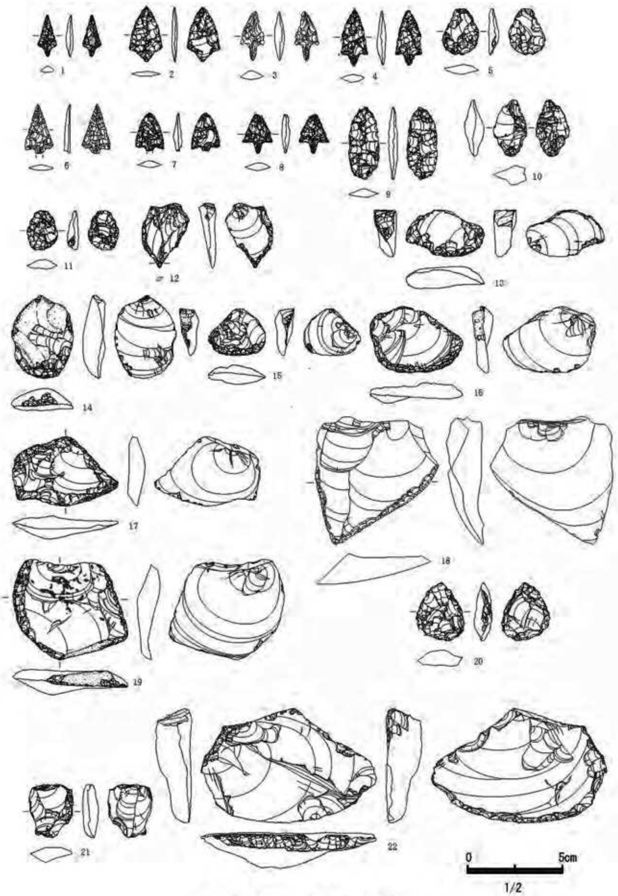


図44　舘遺跡　遺構外出土石器１

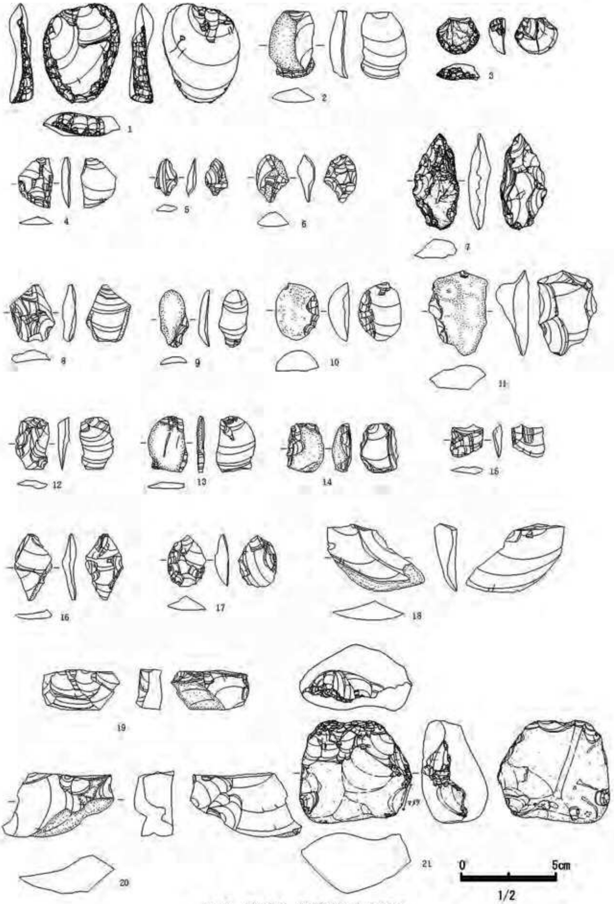


図 45　館遺跡　遺構外出土石器２

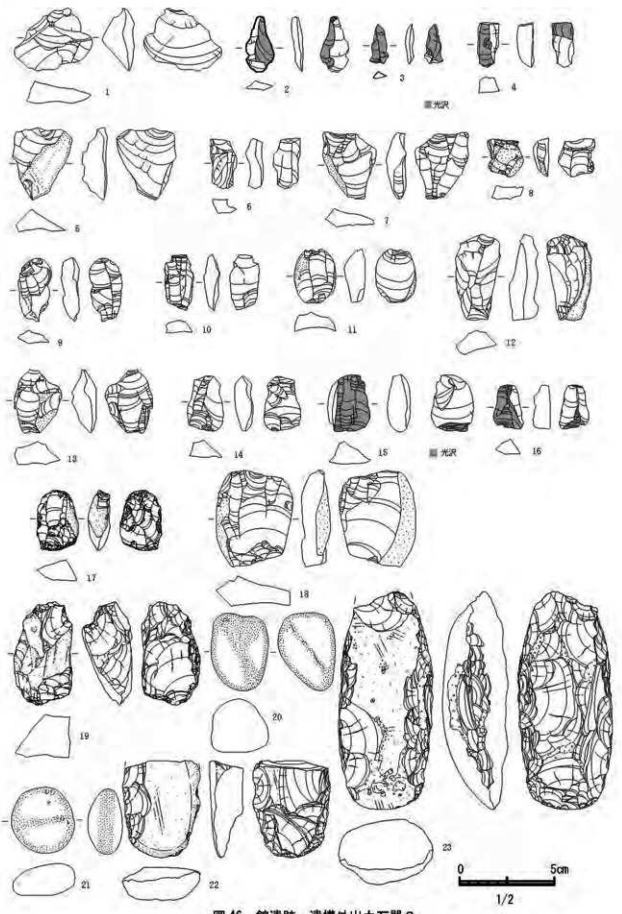


図46 館遺跡 遺構外出土石器3

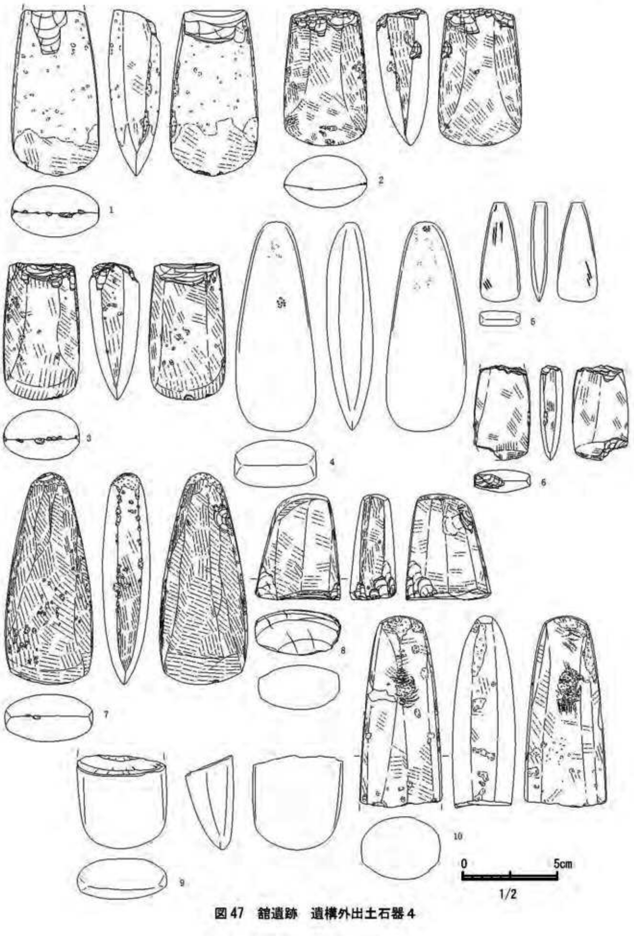


図47　館遺跡　遺構外出土石器4

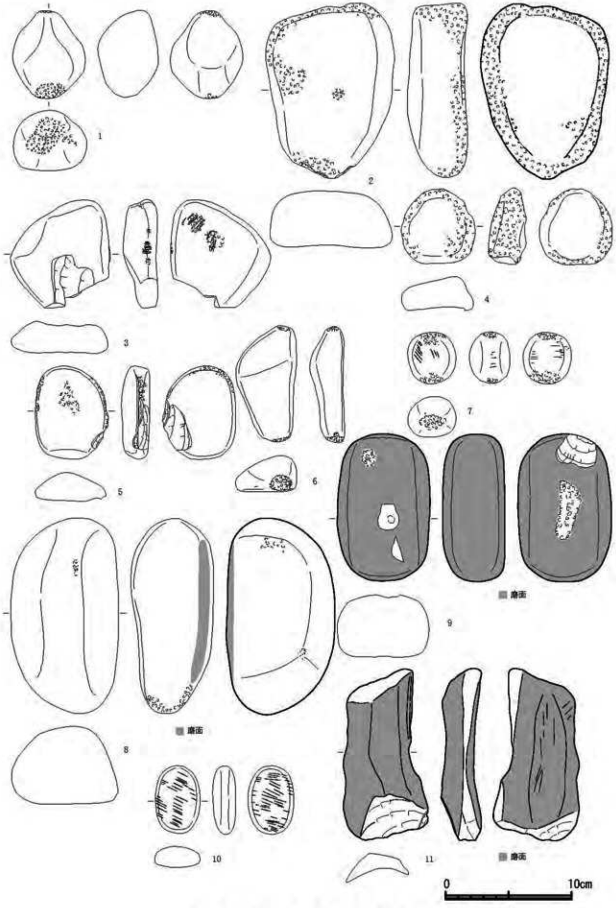


図48　舘遺跡　遺構外出土石器５

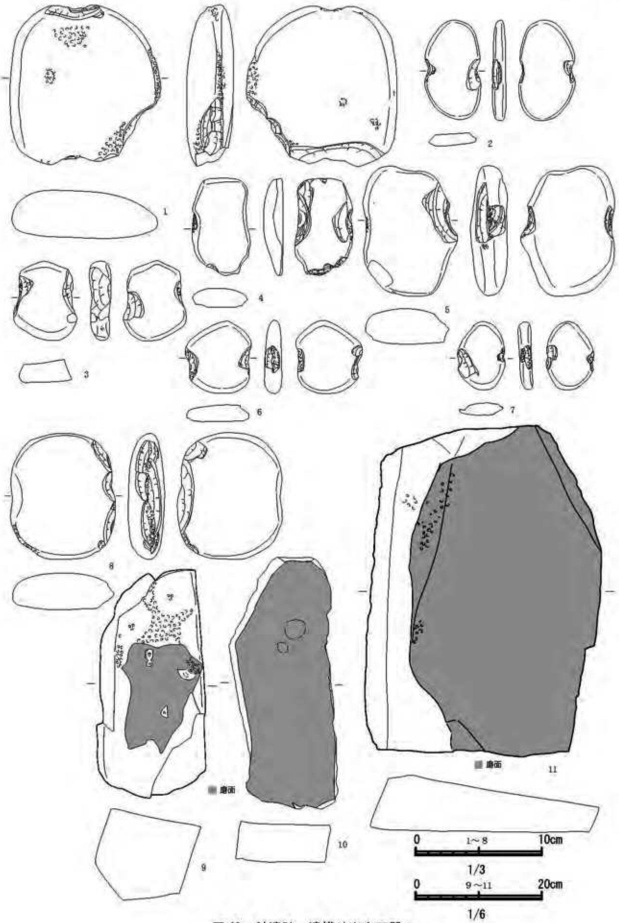


図49　館遺跡　遺構外出土石器６

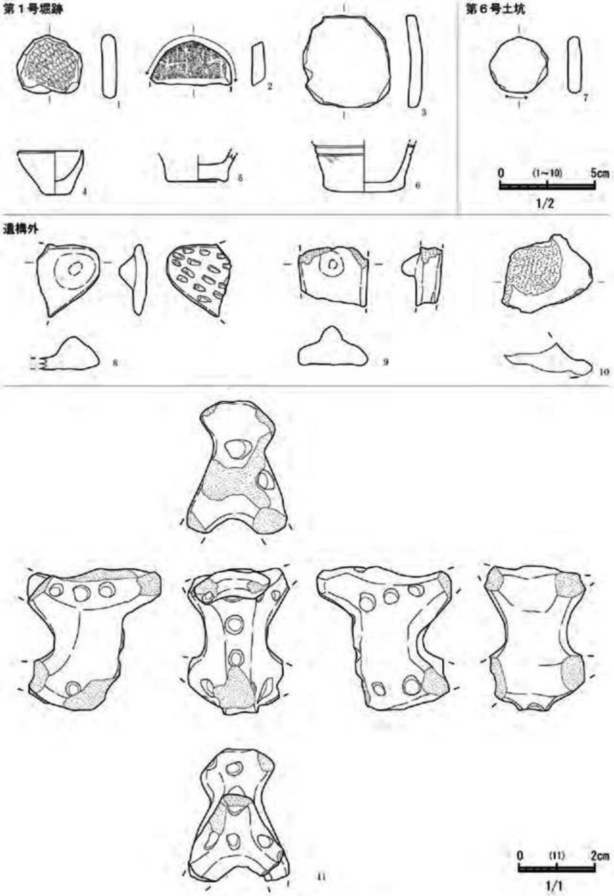


図50　舘遺跡　土製品1

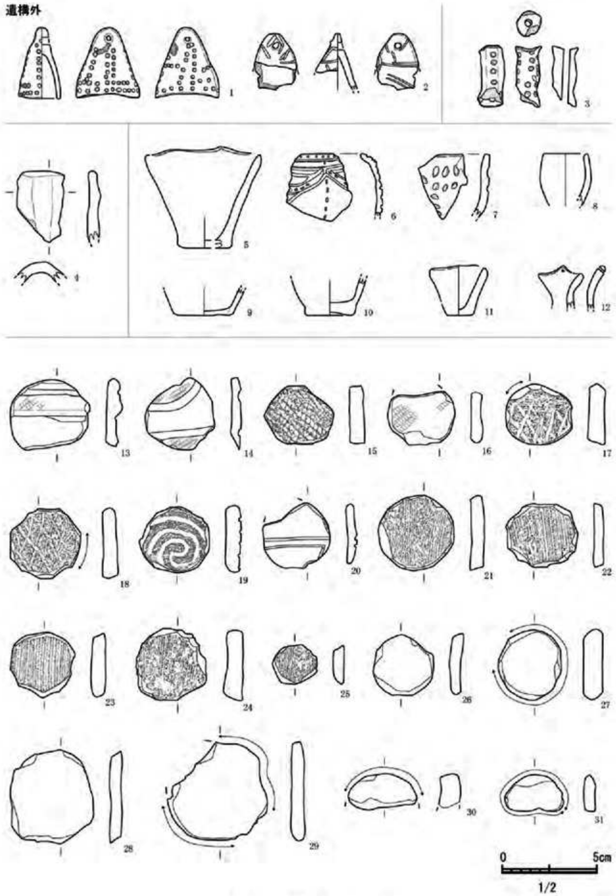

遺構外
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
0
5cm
1/2

図51　舘遺跡　土製品2

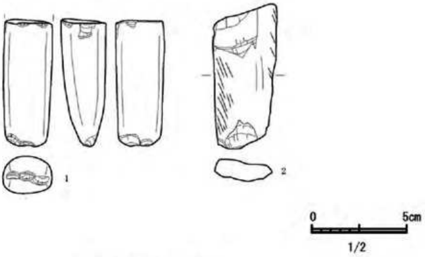


図52　舘遺跡　石製品

舘遺跡　第１号堀跡調査状況

第４編　自然科学分析

第１章　舘遺跡のプラント・オパール分析

㈱パレオ・ラボ

１．はじめに

青森県南部町に所在する舘遺跡において、中世の堀跡が検出された。この堀跡の埋土には、周囲からの流入土や投げ込み土と推測される層準が確認されており、これらの層準から堆積物が採取された。以下では、試料について行ったプラント・オパール分析の結果を示し、植物珪酸体の組成による堆積物の類似性について検討した。

２．分析試料および方法

分析試料は、第１号堀跡の土層断面B-B'から採取された３点である。試料一覧を表1に、試料採取層準を図1に示す。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約１g(秤量)をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが300個に達するまで行った。また、植物珪酸体の写真を撮り、図版１に載せた。

表１　分析試料一覧

試料No.	遺構	層位	時期	土質
A	第１号堀跡	6層	中世?	黒色（10YR2/1）シルト
B		8層		ローム粒混じり黒褐色（10YR3/2）シルト
C		44層		黒色（10YR1.7/1）シルト

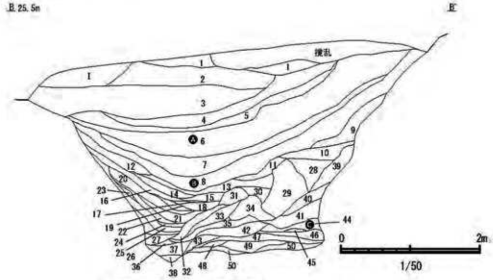


図１　分析試料採取層準

3．結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料１g当りの各プラント・オパール個数を求め（表２）、分布図に示した（図２）。

３試料の検鏡の結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、他のタケ亜科機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の８種類の機動細胞珪酸体の産出が確認できた。

表２　試料１g当りのプラント・オパール個数

	イネ（個/g）	ネザサ節型（個/g）	ササ属型（個/g）	他のタケ亜科（個/g）	ヨシ属（個/g）	シバ属（個/g）	キビ族（個/g）	ウシクサ族（個/g）	ポイント型珪酸体（個/g）
A	6,700	14,600	32,000	1,300	6,700	18,600	127,800	6,700	0
B	1,600	4,800	14,300	0	0	3,200	43,000	3,200	0
C	27,300	15,800	74,800	5,800	2,900	12,900	162,500	21,600	7,200

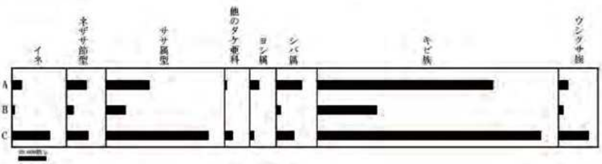


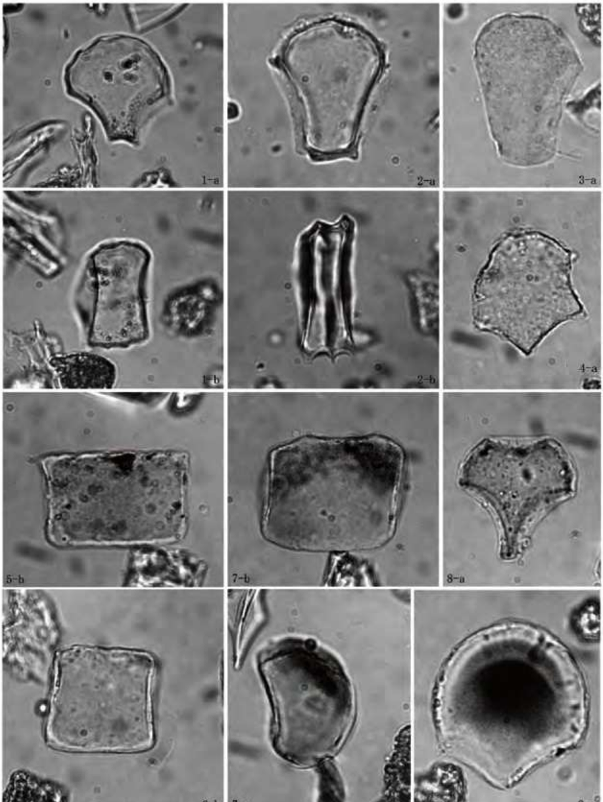
図２　植物珪酸体分布図

４．考察

３試料ともに産出が確認できたのが、イネとネザサ節型、ササ属型、シバ属、キビ族、ウシクサ族の機動細胞珪酸体である。これら分類群の産出量に注目すると、ＡとＣは産出量が比較的多く、Ｂは産出量が少ない傾向にある。また、Ｂにはローム粒も含まれており、Ｂの堆積物は堆積速度が比較的速かったと推測される。すなわち、Ｂの堆積物は人為的あるいは自然発生的にローム粒が混じるような堆積をしており、堆積速度が速かったため、イネ科植物の葉身や植物珪酸体が取り込まれにくかったと考えられる。

ＡとＣについては比較的多くの機動細胞珪酸体が含まれているが、Ｃにより多くの機動細胞珪酸体が含まれていた。このような植物珪酸体の相違は、堆積速度の違いか、植生の違いを反映していると思われる。

（森　将志）



0.02mm

図版1　産出した植物珪酸体

1. イネ機動細胞珪酸体 (C)
2. ネザサ節型機動細胞珪酸体 (A)
3. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (C)
4. ササ属型機動細胞珪酸体 (A)
5. キビ族機動細胞珪酸体 (C)
6. キビ族機動細胞珪酸体 (C)
7. キビ族機動細胞珪酸体 (C)
8. シバ属機動細胞珪酸体 (A)
9. ヨシ属機動細胞珪酸体 (A)

a: 断面　b: 側面

第5編　総括

第１章　西張（3）遺跡

西張（３）遺跡は南部町東部に位置し、馬淵川右岸の標高約20～30mの段丘上に所在している。今回の発掘調査において遺構は溝状土坑、遺物は縄文時代早期・後期・晩期の土器や石器が確認された。

本遺跡は平成６・７年度に東北新幹線建設事業に伴い発掘調査が実施されていることから、過去の調査結果もふまえて時代ごとにまとめを行う。

[縄文時代] 竪穴建物跡、集石遺構、配石遺構、土坑、溝状土坑を検出した。

竪穴建物跡は平成６年度の調査で縄文時代早期の竪穴建物跡を１棟検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸４m、短軸3.1mである。柱穴は両端の壁際に２基検出された。

配石遺構は平成６年度の調査で１基検出した。安山岩の７個の礫がＶ字状に配置されているように出土している。四角い扁平な礫が多く、割れているものも数個見られ接合することができる。台石として使用された可能性のものもある。配石遺構の周辺からは、石器が出土しており、作業場の可能性も考えられている。時期は検出層位や周辺の出土遺物から縄文時代早期と考えられている。

集石遺構は平成７年度の調査で１基検出した。東西140cm、南北70cmの範囲に安山岩の角礫が10個検出されている。周辺の出土遺物から縄文時代後期から晩期に構築されたと考えられる。

土坑は平成６・７年度の調査で15基検出されている。検出層位から13基が中期～後期と考えられる。時期が分かる例として、縄文時代早期の平面形が円形で底部に逆茂木痕を持つ土坑１基と縄文時代後期の遺物が出土して後期と考えられる土坑１基がある。

溝状土坑は平成６年度の調査で３基、平成７年度の調査で５基、平成30年度の調査で１基の合計９基が検出されている。等高線に沿って検出したものがあり、台地から馬淵川へ下る斜面に構築されたと考えられる。配置については、平成７年度の調査区では北西側に３基まとまって検出された。その他の溝状土坑はそれぞれ離れて検出しており、散漫な配置となっている。いずれも規則性を見いだすことはできない。時期は縄文時代中期～後期と思われる。

逆茂木痕を持つ円形土坑や溝状土坑が検出されたことから縄文時代は断続的に狩猟場としても使われたことがわかった。

遺物は縄文土器と石器、土製品が出土している。縄文土器は縄文時代早期～前期・後期・晩期が確認されたが、早期と後期が大半を占める。石器は剥片石器（石鏃、石匙、不定形石器等）、礫石器（磨製石斧、石錘、凹石、磨石等）が出土している。土製品は円盤状土製品、キノコ形土製品が出土している。

[弥生時代] 遺構は検出されていないが、平成７年度の調査で砂沢式の浅鉢形土器が出土している。

[古代以降] 濠跡を検出した。平成６・７年度の調査で検出した第１号濠跡は段丘平坦面から段丘崖にかけて、ほぼ東西方向に構築され、両端とも調査区外に延びている。全長95m、幅2.8～11m、深さ1.9～6.5mと大規模である。断面形状はＶ字状及び逆台形を呈している。時期については、時期決定できる遺物が出土していないため不明であるが、規模と形状から古代以降と推定されている。濠跡の配置からは、館跡主体部は段丘平坦面に存在したと思われるが、削平により不明である。舘遺跡の第１号堀跡と断面形状で類似点はあるものの、対岸にあることから関係性は無いと思われる。　（齋藤正）

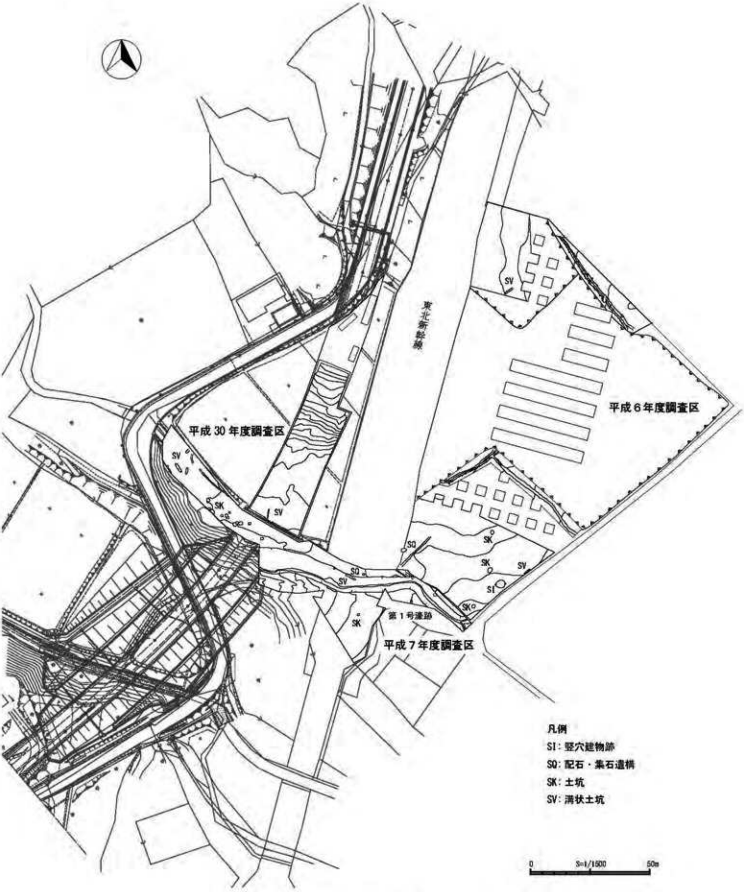


図53　西張（3）遺跡　遺構配置図（平成６・７・30年度調査）

第2章 舘遺跡

第1節 縄文時代の遺構と遺物について

(1)縄文時代の遺構(図54)

舘遺跡では、縄文時代の土坑8基、溝状土坑1基が検出された。いずれも近現代の耕地開発による地形改変の影響を受けており、遺存状態は良くない。第1・2・8号土坑と第3・5号土坑は、それぞれ東西方向に並んで構築されている。第1～3・8号土坑は断面形がフラスコ状を呈する土坑である。第3号土坑は他の3基とやや離れたⅠU-35・ⅠV-35グリッドに位置する。遺物は第2号土坑堆積土から縄文時代後期初頭から前葉の土器が、第3号土坑堆積土から十腰内Ⅰ式に比定される土器が出土した。

第4～7号土坑は断面形が皿状を呈する土坑である。第6・7号土坑は遺物の出土量が比較的多い。第7号土坑堆積土からは十腰内Ⅰ式古段階に比定される土器が出土した。第6号土坑は上部が大きく削平されていたが、本来堆積土の最下層であったとみられる1層から十腰内Ⅰ式新段階に比定される深鉢形土器や土器片利用土製品、石鏃や削器の可能性がある二次加工剥片が出土した。

第4号土坑からは縄文時代前期前葉の土器が出土しており、構築時期も前期前葉以前に遡る可能性があるが、これを除くすべての土坑は後期前葉を主体とした時期に属するものと考えられる。

調査区では土坑が2～3基のまとまりで並列する様相がうかがえる。フラスコ状土坑からは遺物が少なく、皿状となる土坑からは比較的まとまって遺物が出土した。フラスコ状土坑は貯蔵穴としての機能が想定されており、2種類の土坑のなかに利用方法の違いが存在した可能性がある。

溝状土坑は形態などから落とし穴としての機能が想定されており、時期は縄文時代中期後半から後期前葉と指摘されている(福田2018)。溝状土坑内からは遺物が出土していないため断定はできないが、本遺跡では後期初頭以前の人々の活動の痕跡は乏しく、後期前葉に属する可能性がある。

上記の遺構・遺物の出土地点はⅠV-33グリッド以北に集中していることから、調査区北東部に縄文時代後期の活動の中心があったと推測される。調査区内から出土した遺物量に対して遺構数が圧倒的に少ないことから、遺構は調査範囲外に分布するか、竪穴建物跡などの掘り込みが比較的浅い遺構は地形改変によって削平されている可能性が高い。舘遺跡から100mほど北東には、縄文時代後期前葉の遺物が出土した西張(3)遺跡がある。西張(3)遺跡でも同時期の竪穴建物跡などは検出されていないが、本遺跡周辺は縄文時代後期前葉の人々の活動の場が広がっていたと考えられる。

(2)縄文時代後期の土器・土製品

舘遺跡では縄文時代早期後葉から後期中葉の土器が出土した。その中でも主体となるのは、後期前葉に属するものである。

縄文時代後期に属する粗製土器には、縄文原体の側面圧痕を施文するものが一定数認められる(図26-9～11、図40-28)。これらの土器は十腰内Ⅰ式から十腰内Ⅱ式をつなぐ時期の土器として位置付けられているもので、秋田県居熊井遺跡や岩手県上野B遺跡などで確認されている。同様にこの時期以降に特徴的な器形とされている、片口壺の口縁部も出土した(写真25-2)。舘遺跡において十腰内Ⅱ式期の遺構は検出されていないが、沢を挟んで500mほど北東に位置する西張(2)遺跡では、後期中葉(十腰内Ⅱ～Ⅲ式期)の竪穴建物跡が検出されており、舘遺跡との関わりが指摘できる。

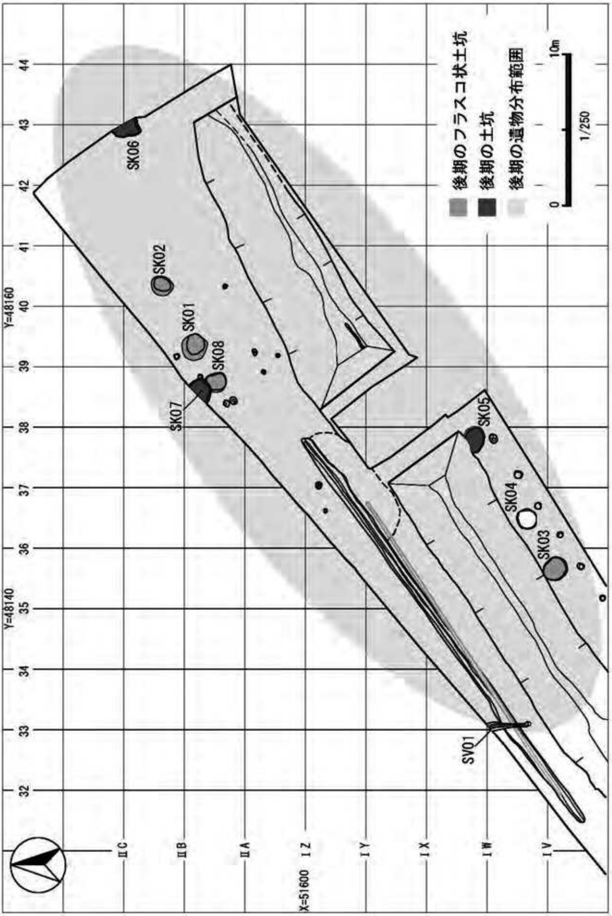


図54　館遺跡　縄文時代の土坑・溝状土坑配置図

土製品は土偶や動物形土製品、鐸形土製品やミニチュア土器、土器片利用土製品などが出土した。動物形土製品は四肢の端部が剥落していることから、動物形内蔵土器など、何らかの器面に貼り付けられていた可能性がある。本来耳と尾があったと推測される部分や顔面は剥落しており、全体形は明らかでない。動物形内蔵土器は縄文時代後期前葉にみられ、動物形土製品は青森県においては縄文時代後期初頭～晩期にみられる。種類が判別できるものではクマやイノシシが主体であり、イヌらしきものも含まれると指摘されている(福田2019)。クマやイノシシとされる土製品は頭部が背中よりも低い位置に付く傾向にあるが、舘遺跡で出土したものは頭部が背中よりも高い位置にあり、その形態からイヌを模したものである可能性が指摘できる。同様のものは西目屋村砂子瀬遺跡で出土している(青森県教育委員会2014)。

以上のように、出土した土製品は、動物形土製品や鐸形土製品など、十腰内Ⅰ式に伴うものが主体である。

(3)縄文時代の石器・石製品

石器・石製品の出土地点別、器種別、石材別数量は表3・4に記載し、グラフ化して図55に示した。そして、剥片石器の多数を占める珪質頁岩製石器と玉髄製石器の数量についてもグラフ化して図56に示した。

ほとんどが縄文時代後期前葉の十腰内Ⅰ式に属する物と考えられるため、本稿及びグラフ等の数量は遺構内外を合算した数量を記載している。その他の時期としては、縄文時代前期前葉などのものを少量含んでいると考えられる。

(1)剥片石器

表4に示したように、剥片石器全体の409点のうちで、珪質頁岩製のものは230点(56.2%)、玉髄製のものは157点(38.4%)である。両者で剥片石器全体の94.6%をしめる。石材の鑑定では「玉髄質珪質頁岩」といった細分を行っていないため、珪質頁岩には、玉髄質のものを含んでいる。その一部は、肉眼的に見て玉髄に見えるくらいに珪化が良い。他に赤鉄鉱(鉄石英)が18点(4.4%)、チャートが3点(0.7%)、珪化木が1点(0.2%)、碧玉が1点(0.2%)となっている。

器種に関しては 14点出土した石鏃を除くと、定形石器は少ない。石錐は1点、石篦は2点の出土であり、いずれも珪質頁岩製である。石匙が出土していないことが注目される。

図56に示したように珪質頁岩製の石器では、二次加工剥片が34点(計320.1g)、削器が14点(計275g)と多い。削器は1点あたりの平均重量が19.6gと比較的大型であり、いずれも刃部の加工は丁寧である。

玉髄製石器は、小型であり、多くが両極打法で剥片を生産している。玉髄製剥片は石鏃7点の素材となっているほか、小型の削器・掻器の素材となっている。

石核は、珪質頁岩製のものは、両極打法が多用される玉髄質のものを含んでおり、剥片素材の石核もあるため、計9点のうち1点あたりの平均重量は13gと小型である。玉髄製のものは、ほとんどが両極打法に伴うものであり、10点のうち1点あたりの平均重量は5.6gと、さらに小型である。剥片は、珪質頁岩製のものは、計148点のうち1点あたりの平均重量は5.3gである。玉髄製のものは、多くが両極打法に伴うものであり、109点のうち1点あたりの平均重量は4.2gと、小型である。

玉髄は原石が2点出土しており、在地の石材と考えられる。珪質頁岩の原石は出土していない。珪質頁岩は遺跡周辺に産しないので、産地のある津軽地方や下北地方西部などからの搬入品と考えられる。西張(3)遺跡では、平成6年度調査区の北区で両極打法による「玉髄質珪質頁岩」製の剥片等が十

腰内Ⅰ式土器に伴って出土しており、玉髄質の珪質頁岩は、在地石材の可能性がある。

なお、黒曜石は全く出土していない。

また、石器の一部には明確な光沢が確認できるため、図に網掛けを行った。光沢は特に二次加工部分にみられ、加熱処理による光沢（御堂島1993）の可能性がある。しかし、弱い光沢の物については光沢の認定自体が難しい。さらには埋没後の表面変化による光沢（岡沢1995）その他の要因による光沢の発生の可能性、加熱処理を意図していない被熱（受熱）との区分など、慎重に検討する必要があり、弱い光沢は図示せず、観察表にのみ記載している。

図45-19・20の２点の石核は珪質頁岩製の大型剥片の折面を打面とした石核である。打面となった折面をはじめ、被熱のため黒色や赤褐色に色調が変化している。図版等の完成後に双方の上面が接合したため、下に写真を掲載した。

図 45-19（写真上側）と20（写真下側）の接合状況

（２）打製石斧・磨製石斧

第１号堀跡から出土した図29-６は、剥片素材の打製石斧であり、刃部付近の厚みがない。類例は縄文時代前期初頭に多いことが知られている（齋藤2012）。図46-23は刃部付近に素材礫の曲面を残す粗粒玄武岩製の打製石斧である。両側面を中心に敲打痕がみられ、厚さ3.5cmと厚みがある。磨製石斧の加工初期の打製石斧形状のものに類似する。舘遺跡からは、石斧成形段階で発生する調整剥片が全く出土していない。そのため、この形状のまま搬入されたものと考えておきたい。

磨製石斧については、多様な石材が使用されている。石斧石材のうち石斧に適した先第三紀の安山岩や粗粒玄武岩は、八戸市から階上町にかけての海岸沿いで採取できる。八戸市沢堀込遺跡（青森県教育委員会1992）、階上町道仏鹿糠遺跡（青森県教育委員会2011）などで、それらの石材を用いた磨製石斧製作が行われている。閃緑岩を含む花崗岩類は、階上町から岩手県久慈市にかけての遺跡で磨製石斧石材として使用されているほか、下北半島北東端の尻屋崎産のものが下北半島部で磨製石斧に加工されている。図47-９は肉眼的に尻屋崎産のものに類似している。十腰内Ⅰ式期では、六ヶ所村上尾駮（２）遺跡で、閃緑岩製磨製石斧の未成品等が数多く出土しており（青森県教育委員会1988）、製作遺跡の一つと考えられる。緑色片岩と鑑定されたものは北海道日高地方のアオトラ石（緑色片岩相の緑色岩）と考えられる。不明とされた石斧は、筆者が以前、資料を観察したことのある盛岡市手代森

遺跡や川目A遺跡の「蛇紋岩製」と報告されたものに肉眼的に類似している。

(3)礫石器

舘遺跡は馬淵川に近く、段丘を開析する小河川からも段丘礫が得られるため、馬淵川で採取可能なチャートなどの石材については獲得が容易と考えられる。

器種では、敲石が73点と多く、磨石は10点、凹石は3点と少ない。石皿は17点、台石は4点であるが、多くは欠損品である。他に石錘が23点、剥離のある礫が10点、擦痕のある礫が2点、砥石が2点、くびれ石や石棒状の礫など搬入自然礫が5点出土した。

特筆されるのは23点出土した石錘である。小型楕円礫の短軸方向に抉りが入るものがほとんどである。紐かけの抉りは、両極打法による加工痕跡の残るものがある。抉りを作り出す剥離が向かい合うため、多くが両極打法により作り出されているものと考えられる。

石錘は、舘遺跡周辺では、馬淵川右岸の南部町西久根遺跡(青森県教育委員会2006)から縄文時代前期末から中期初頭のものが11点図化されている。礫の短軸側に抉りのあるものが多く、長短の両軸に抉りのあるものも出土している。

南部町の南に隣接する三戸町では、馬淵川右岸の中野(2)遺跡(縄文時代前期末～中期)のSI-02竪穴住居跡(縄文時代中期:円筒上層a～b式期)から19点出土し、遺構外から28点出土している。礫の短軸側に抉りのあるものが多い(三戸町教育委員会2001)。また、馬淵川左岸の三戸町沖中(1)遺跡(縄文時代後期前葉～後葉主体)では、57点の石錘が出土しており、楕円礫の短軸方向に抉りが入るものが54点で約95%を占める(三戸町教育委員会2002)。

以上から馬淵川中流域の三戸郡南部町と三戸町では、縄文時代前期末から後期には楕円礫の短軸方向に抉りが入るものが多数を占めるといえる。

舘遺跡の石器群のほとんどが帰属する縄文時代後期前葉の十腰内Ⅰ式期には、青森県内では石錘の出土数量が多い。六ヶ所村上尾駮(2)遺跡B・C地区では226点出土した(青森県教育委員会1988)。青森市近野遺跡第二次調査で石器総数の30.8%にあたる173点が(青森県教育委員会1975)、近野遺跡第三・四次調査では石器総数の約22%にあたる216点が出土した(青森県教育委員会1977)。岩木川上流域の砂子瀬遺跡A・B区は、縄文時代後期前葉の十腰内Ⅰ式期の遺物が主体をなす。石錘は159点が出土している(青森県教育委員会2012・2014)。各遺跡ともに楕円礫の短軸方向に抉りが入るものが多数を占め、十腰内Ⅰ式期の時代性を表している。

なお、縄文時代早期中葉の石錘は南部町の位置する三戸郡内では新井田川支流の松館川に近い階上町小板橋(2)遺跡で、267点出土している。礫の長軸側に抉りを持つものが88%と多数を占める(階上町教育委員会2002)。礫の長軸側に抉りを持つ石錘は青森県内では、太平洋岸の六ヶ所村から三沢市、八戸市、階上町にかけての早期中葉の遺跡で多数出土している。

両極打法による敲石としては、溝状の敲打痕が観察できる図48-3があげられる。溝状の敲打痕は御堂島正による実験で、両極打法で剥片を割り取る敲石に典型的なものであることが追試されている(御堂島2005)。玉髄製の両極打法の石器群に対応する溝状の敲打痕が観察できる台石は舘遺跡から出土していないものの、同様の台石の出土例は青森県内では縄文時代後期前半の今別町二ッ石遺跡第5号土坑例(青森県教育委員会1989)を除きほとんど知られていない。そのため、舘遺跡内で両極打法による剥片生産が行われていたものと考えておきたい。 (齋藤岳)

表3　舘遺跡　出土地点別　石器・石製品出土点数

出土地点	石鏃	石錐	石匙	削器	掻器	二次加工剥片	微細な剥離痕のある剥片	剥片	石核	ピエス・エスキーユ	磨石	敲石	凹石	砥石	剥離のある礫	擦痕のある礫	石錘	打製石斧	磨製石斧	石皿	台石	搬入自然礫	原石	石棒	石刀
第1号堀跡	1		2				1	33	3	1	2	10	1		3	1	2	1	1	2		3			
第1号溝跡						3	1	14	3	1		4			1		2					1			
第1号土坑					1																				
第3号土坑	1							1																	
第4号土坑						1																			
第6号土坑	1					2		15				1													
第7号土坑						1						2					1								
第1号性格不明遺構								1																	
遺構外	11	1		18	6	48	6	210	16	4	8	56	2	2	6	1	18	2	14	15	4	1	3	1	2
遺構内外合計	14	1	2	18	7	55	8	274	22	6	10	73	3	2	10	2	23	3	15	17	4	5	3	1	2

表4　舘遺跡　遺構内外合計　石器・石製品石材別出土数量

石材	数量	石鏃	石錐	石匙	削器	掻器	二次加工剥片	微細な剥離痕のある剥片	剥片	石核	ピエス・エスキーユ	磨石	敲石	凹石	砥石	剥離のある礫	擦痕のある礫	石錘	打製石斧	磨製石斧	石皿	台石	搬入自然礫	原石	石棒	石刀
珪質頁岩	点数	7	1	2	14	3	34	7	148	9	4									1						
珪質頁岩	重量(g)	7.8	5.6	31.4	275	65.4	320.1	78.1	778.7	117.2	76.1									23.9						
玉髄	点数	7			4	3	20	1	109	10	1													2		
玉髄	重量(g)	7.4			52.5	29.3	167.7	6.5	453.8	56.3	8.9													121.4		
珪化木	点数								1																	
珪化木	重量(g)								21.8																	
赤鉄鉱	点数						1		16	1																
赤鉄鉱	重量(g)						2.8		97.4	26.4																
碧玉	点数										1															
碧玉	重量(g)										44.6															
チャート	点数					1				2		1	27			1		6					4			
チャート	重量(g)					3.9				127.5		482.3	6252.2			204.2		821					8428.7			
粘板岩	点数															1				1						2
粘板岩	重量(g)															166.3				3.6						55.9
頁岩	点数																		1							
頁岩	重量(g)																		37.2							
凝灰岩	点数												6	3	2	1		1		2	4					
凝灰岩	重量(g)												1143.4	1213.8	286.3	22.1		161.7		77.5	285.3					
砂岩	点数												1					1								
砂岩	重量(g)												16.9					34.1								
玄武岩	点数																				1					
玄武岩	重量(g)																				1256.7					
粗粒玄武岩	点数											2	3					1	2	3					1	
粗粒玄武岩	重量(g)											1389.9	1658.4					54.1	326.7	560.5					67.6	
安山岩	点数											3	23			3		10		2	11	4				
安山岩	重量(g)											1629.1	8614.4			633.8		936.7		269.2	53637	18917				
デイサイト	点数											2	7			4	1	4			1					
デイサイト	重量(g)											1171.1	2909.8			314.8	51.2	978.4			1187.2					
流紋岩	点数											1	6							1			1			
流紋岩	重量(g)											1471.2	736.3							15			47.5			
閃緑岩	点数																			3						
閃緑岩	重量(g)																			428.2						
花崗閃緑岩	点数											1														
花崗閃緑岩	重量(g)											699.4														
ホルンフェルス	点数																1									
ホルンフェルス	重量(g)																290.3									
緑色片岩	点数																			1						
緑色片岩	重量(g)																			38.2						
石英	点数																							1		
石英	重量(g)																							48.3		
不明	点数																			1						
不明	重量(g)																			30.2						

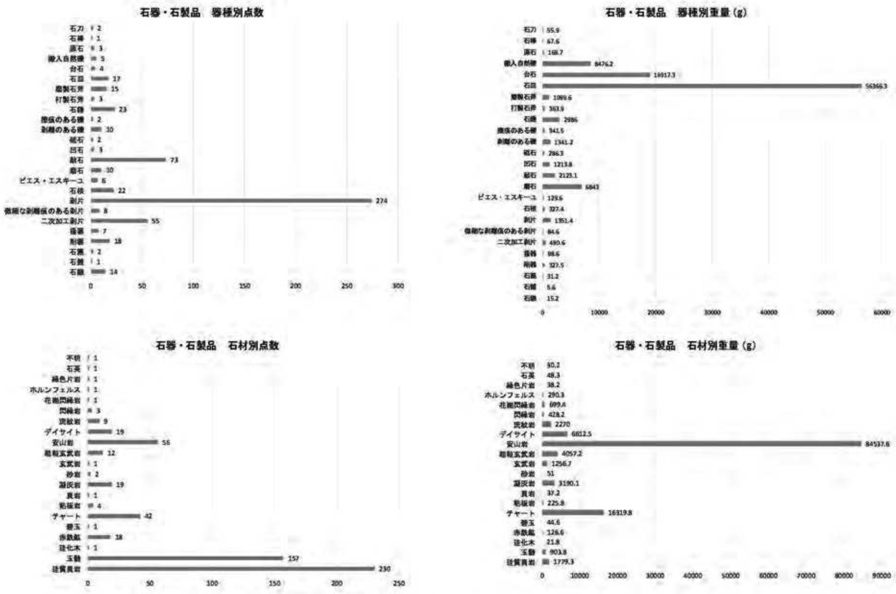


図55　舘遺跡　石器・石製品　器種別・石材別数量

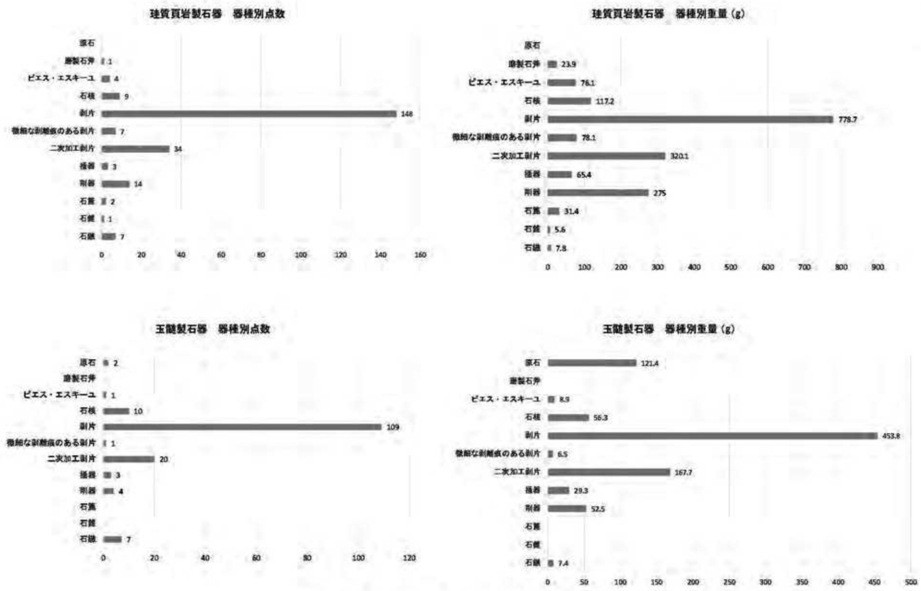


図56　舘遺跡　珪質頁岩・玉髄製石器　器種別数量

第２節　城館の構造と規模について

縄張り調査で判明している城館の構造(第１編第２章第３節参照)

舘遺跡は過去の縄張り調査などにより、二重のL字状の堀と曲輪をもつ城館であることが知られていた。今回の調査区外にあたる部分では、２条の堀跡の一部が完全に埋没しておらず、現在でも窪みとして確認できる箇所がある。

発掘調査で判明した堀の規模と構造(図57)

調査では、二重の堀のうち外側の堀(堀２)の一部を検出した(第１号堀跡)。第１号堀跡は北東から南西にかけて延び、南西端で北西方向に屈曲する。図57は縄張り図に第１号堀跡を合成したものである。堀２の南東辺の一部は耕作地となっており、現況でその痕跡を確認することはできない。しかし、堀跡が窪みとして確認できる部分と第１号堀跡の方向が合致することから、これらは一連のものと考えられる。第１号堀跡の北東端は調査区外へ続いており、調査区外の部分は表土直下が十和田-八戸火山灰層まで削平されていることからその延長は判然としない。しかし、本来は堀がさらに北東側まで続き、沢に合流していたと推測される。

第１号堀跡と縄張り調査によって判明している堀跡のプランを合わせると、堀２の規模は南北約150m、東西約160mとなる。第１号堀跡の最大幅は6.15m、深さは最大で確認面から3.08mである。縄張り調査では、堀跡の幅８～10mとされている。第１号堀跡の上部が削平されていることを考慮すると、構築当時は幅10m程度であった可能性が高い。

第１号堀跡の断面形は主に薬研状を呈する。底面付近からは湧水があり、堆積土の状況から機能時は底面付近に水が溜まっている状態だったと考えられる。

曲輪内の構築物について

第１号堀跡の北西側に広がる平坦面は曲輪と想定される部分だが、掘立柱建物跡や土塁などの城館に関わる遺構は検出されなかった。削平を受けて遺構が破壊されている可能性もあるが、当該期の遺物がいっさい出土していないことから、構築物があった可能性は低いと推測される。また、第１号溝跡は第１号堀跡に並行して検出されたが、堀跡が埋没した後に構築された第１号性格不明遺構よりも新しく、直接的な関わりはないと考えられる。第１号堀跡は近現代まで完全には埋没していなかったことから、第１号溝跡・第１号性格不明遺構は現代に近い時期に構築されたものである可能性が高い。また、ⅠS-33グリッドからⅠV-37グリッドにかけて第１号堀跡に並行するピット列が検出されたが、柱痕や遺物は確認されておらず、性格や時期は不明である。

通路について(図５)

曲輪内への通路に関して、『南部諸城の研究』や『青森県の中世城館』では県道櫛引上名久井三戸線から曲輪内にある墓地へ続く道を「大手」と指摘している(沼館1976、青森県教育委員会1982)。沼館氏が調査をおこなった昭和20年代には、第１号堀跡にあたる部分は完全に埋没しておらず、土橋がかけられていたようである。一方で『福地村史 上巻』では聞き取り調査の結果、上記の土橋は近現代にかけられたものであるとして、大手という指摘には疑問を呈している(福地村2005)。今回の調査においても土橋や木橋といった遺構は確認されず、大手の位置は不明である。大手以外の通路については、『南部諸城の研究』で城館北東側に出口と記述されている部分があり、現況は沢へ下る急勾配の傾斜となっている。通路の痕跡を確認することはできなかったが、存在するとすれば、最短距離で本郭に至る事

が可能な道となる。

城館の存続期間と機能

調査区内からは、堀跡及び城館の年代を示す遺物が出土しなかった。しかし、堀跡の規模や形状から16世紀代に機能し廃絶しているものと思われる。第1号堀跡には改築・改修の痕跡が認められないことから、短期間の存続だった可能性が高い。また、近現代に埋め立てられたと考えられる層以外は自然堆積であることから、城館は破却されたものではないと推測される。

城館の機能として『南部諸城の研究』では、堀以外の防備がないことから「屋敷型」の城館であるとし、「河岸交通路に接するので土豪の居館に適する。伝えの城か或いは監視哨的任務を有するに過ぎない。」としている（沼館1976）。『福地村史　上巻』では、内部を区画する堀が小規模であることなどから、上級武士の屋敷と指摘している（福地村2005）。今回の調査では主たる曲輪部分の調査を行っていないため推測の域を出ないが、居住の痕跡は見出しがたく、居住空間以外の機能を担っていた可能性を指摘しておきたい。

（木村）

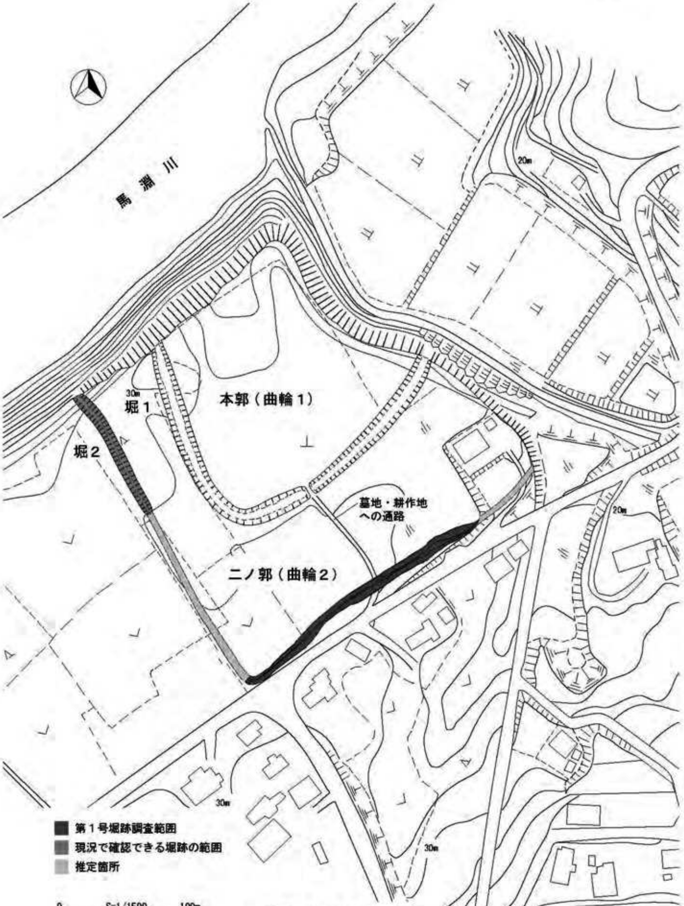


図 57　舘遺跡　堀跡復元図

引用・参考文献

青森県 2003『青森県史　資料編　考古4　中世・近世』

青森県 2004『青森県史　資料編　中世1　南部氏関係資料』

青森県 2005『青森県史　資料編　考古3　弥生～古代』

青森県 2013『青森県史　資料編　考古2　縄文後期・晩期』

青森県 2017『青森県史　資料編　考古1　旧石器　縄文草創期～中期』

青森県教育委員会 1975『近野遺跡発掘調査報告書（Ⅱ）』青森県埋蔵文化財調査報告書第 22 集

青森県教育委員会 1977『近野遺跡発掘調査報告書（Ⅲ）　三内丸山（Ⅱ）遺跡発掘調査報告書』
青森県埋蔵文化財調査報告書第 33 集

青森県教育委員会 1981『新納屋（2）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 62 集

青森県教育委員会 1983『青森県の中世城館』

青森県教育委員会 1988『上尾駮（2）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 115 集

青森県教育委員会 1989『二ッ石遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 117 集

青森県教育委員会 1989『館野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 119 集

青森県教育委員会 1991『雷・西山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 136 集

青森県教育委員会 1996『西張（3）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 197 集

青森県教育委員会 1997『石焼沢・西張（3）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 213 集

青森県教育委員会 1998『西張（2）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 233 集

青森県教育委員会 1999『櫛引遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 263 集

青森県教育委員会 1999『高岩（1）遺跡・高岩（2）遺跡・白蛇（1）遺跡・鳥河岸遺跡』
青森県埋蔵文化財調査報告書第 266 集

青森県教育委員会 2000『櫛引遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 272 集

青森県教育委員会 2000『岩ノ沢平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 287 集

青森県教育委員会 2001『上野平（3）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 296 集

青森県教育委員会 2001『岩ノ沢平遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 301 集

青森県教育委員会 2004『中野館跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 375 集

青森県教育委員会 2004『法師岡遺跡外』青森県埋蔵文化財調査報告書第 378 集

青森県教育委員会 2005『法師岡館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 387 集

青森県教育委員会 2006『西久根遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 407 集

青森県教育委員会 2011『堀端（1）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 503 集

青森県教育委員会 2012『砂子瀬遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 513 集

青森県教育委員会 2012『堀端（1）遺跡Ⅱ・上明戸遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 517 集

青森県教育委員会 2014『砂子瀬遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 543 集

青森県教育委員会 2017『鳥舌内館』青森県埋蔵文化財調査報告書第 584 集

青森県立郷土館 1997『馬淵川流域の遺跡調査報告書』青森県立郷土館調査報告書第 40 集

秋田県教育委員会 1981『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅰ』秋田県文化財調査報告書第 78 集

三戸町教育委員会 2001『中野（2）遺跡』三戸町埋蔵文化財調査報告書第 2 集

三戸町教育委員会 2002『沖中（1）遺跡』三戸町埋蔵文化財調査報告書第3集
三戸町教育委員会 2005『三戸城跡　平成16年度発掘調査概報』三戸町埋蔵文化財調査報告書第5集
三戸町教育委員会 2006『三戸城跡　平成17年度発掘調査概報』三戸町埋蔵文化財調査報告書第6集
三戸町教育委員会 2019『三戸お城講座－甦る三戸城の歴史－』町制施行三十周年記念事業資料集
名川町教育委員会 1999『森ノ越館遺跡』名川町埋蔵文化財調査報告書第4集
南部町教育委員会 2000『本三戸城跡　沖田面幹2号線道路改良に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書』
　南部町埋蔵文化財調査報告書第8集
南部町教育委員会 2001『佐藤館跡発掘調査報告書』南部町埋蔵文化財調査報告書第10集
南部町教育委員会 2003『聖寿寺館跡発掘調査報告書Ⅷ』
南部町教育委員会 2004『聖寿寺館跡発掘調査報告書Ⅸ』
南部町教育委員会 2010『町内遺跡発掘調査報告書1』南部町埋蔵文化財調査報告書第4集
南部町教育委員会 2011『平良ヶ崎城跡発掘調査報告書』南部町埋蔵文化財調査報告書第6集
南部町教育委員会 2013『国史跡聖寿寺館跡発掘調査報告書』南部町埋蔵文化財調査報告書第7集
南部町教育委員会 2014『国史跡聖寿寺館跡発掘調査報告書』南部町埋蔵文化財調査報告書第8集
南部町教育委員会 2014『史跡聖寿寺館跡整備基本計画書』
南部町教育委員会 2016『国史跡聖寿寺館跡発掘調査報告書』南部町埋蔵文化財調査報告書第9集
南部町教育委員会 2019『令和元年度史跡聖寿寺館跡発掘調査現地説明会資料』
二戸市教育委員会 1991『九戸の戦　関係文書集』
二戸市教育委員会 1991『九戸の戦　関係軍記・記録集』
階上町教育委員会 2002『青森県階上町小板橋（2）遺跡』
八戸市 2009『新編八戸市史　考古資料編』
八戸市 2014『新編八戸市史　中世資料編　別冊　写真／系図・由緒書』
八戸市 2015『新編八戸市史　通史編Ⅰ　原始・古代・中世』
八戸市教育委員会 1988『八幡遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第26集
八戸市教育委員会 1992『岩ノ沢平遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第46集
八戸市教育委員会 1992『八幡遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第47集
八戸市教育委員会 1993『殿見遺跡Ⅰ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第49集
八戸市教育委員会 1993『岩ノ沢平遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第50集
八戸市教育委員会 1994『殿見遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第57集
八戸市教育委員会 1999『昼場遺跡・根岸山添遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第78集
八戸市教育委員会 2000『人首沢遺跡・毛合清水（3）遺跡・大仏遺跡』
　八戸市埋蔵文化財調査報告書第84集
八戸市教育委員会 2006『八戸市内遺跡発掘調査報告書22』「八幡遺跡第3次」
　八戸市埋蔵文化財調査報告書第109集
八戸市教育委員会 2007『八幡遺跡Ⅳ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第115集
福地村 2005『福地村史　上巻』
福地村教育委員会 1997『苫米地館遺跡　試掘調査報告書』

榎本剛治 2008「十腰内Ⅰ式土器」『総覧縄文土器』株式会社アム・プロモーション
岡沢祥子 1995「遺跡出土の頁岩製石器にみられる「光沢」」『お仲間林遺跡の研究 -1992年発掘調査 -』慶應義塾大学民族学・考古学研究室小報 11
上條信彦 2007「石皿と磨石」『縄文時代の考古学5　なりわい－食料生産の技術－』同成社
齋藤岳 2012「本州北東端の磨製石斧製作－三陸の石材環境への適応と石斧製作の解明にむけて－」『研究紀要』第 17 号　青森県埋蔵文化財調査センター
鈴木克彦 2001『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣
沼舘愛三 1976『南部諸城の研究（草稿）』みちのく双書第 33 集　青森県文化財保護協会
福田友之 2018『東北北部先史文化の考古学』同成社
福田友之 2019「狩猟文土器と動物形土製品」『季刊考古学』第 148 号
御堂島正 2005『石器の使用痕』同成社
御堂島正 1993「加熱処理による石器製作；日本の事例と実験的研究」『考古学雑誌』第 79 巻第 1 号
御堂島正 2017「石器の加熱処理と小瀬ヶ沢洞穴の石器」『山本暉久先生古希記念論集 二十一世紀考古学の現在』六一書房

表5　西張(3)遺跡 土器観察表

図番号	出土位置	層位	器種	部位	文様・調整等	胎土	時期
14-1	表採		深鉢	胴部	(外面)貝殻押引き文 (内面)ナデ	海綿骨針、砂粒	縄文時代早期中葉
14-2	ⅢQ-78	Ⅴ層	深鉢	胴部	(外面)貝殻押引き文 (内面)ミガキ	海綿骨針、砂粒	縄文時代早期中葉
14-3	ⅢN-77 ⅢO-78	Ⅳ層	深鉢	胴部	(外面)爪形状刺突、 貝殻腹縁文 (内面)ミガキ	砂粒	縄文時代早期中葉
14-4	ⅢP-75	Ⅲ層	深鉢	口縁部	(外面)沈線、無節L (内面)ナデ	砂粒	縄文時代後期前葉
14-5	ⅢO-74	Ⅱ層	深鉢	頸部	(外面)沈線、LR (内面)ナデ	砂粒	縄文時代後期前葉
14-6	ⅢN-76	試掘トレンチ 埋め戻し土	深鉢	胴部	(外面)沈線 (内面)ナデ	砂粒	縄文時代後期前葉
14-7	ⅢQ-77	Ⅱ層	深鉢	胴部	(外面)沈線 (内面)ミガキ	砂粒	縄文時代後期前葉
14-8	ⅢR-77	Ⅱ層	深鉢	胴部	(外面)単軸絡条体(R) (内面)ナデ	砂粒	縄文時代後期前葉
14-9	ⅢO-75	試掘トレンチ 埋め戻し土	深鉢	口縁部	(外面)LR横 (内面)ナデ	砂粒	縄文時代晩期後葉
14-10	ⅢO-75 ⅢP-75	Ⅱ層	深鉢	口縁部	(外面)LR横 (内面)ナデ	砂粒	縄文時代晩期後葉
14-11	ⅢO-76	試掘トレンチ 埋め戻し土	深鉢	口縁部	(外面)LR横 (内面)ナデ	砂粒	縄文時代晩期後葉
14-12	ⅢP-75	Ⅱ層	深鉢	胴部	(外面)LR横 (内面)ナデ	砂粒	縄文時代晩期後葉
14-13	ⅢN-77	Ⅲ層	深鉢	底部	(外面)ナデ (内面)ナデ 底径(4.8)cm	砂粒	時期不明

表6　西張(3)遺跡 石器観察表

図番号	出土位置	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
15-1	ⅢR-77	Ⅳ層	石匙	5.4	1.6	0.5	4.4	珪質頁岩	縦型
15-2	ⅢU-77	Ⅳ層	打製石斧	9.2	5.3	1.3	82.8	粗粒玄武岩	
15-3	ⅢM-75	Ⅱ層	磨石	10.1	7.9	4.2	515.5	安山岩	片面使用
15-4	ⅢN-77	Ⅴ層	磨石	14.2	6.7	6.2	740.1	デイサイト	両側縁使用
15-5	ⅢN-76	試掘トレンチ 埋め戻し土	磨石	8.2	6.7	4.9	385.3	凝灰岩	両側縁使用

表7　館遺跡 土器観察表

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器面調整・施文	時期	備考
25-1		第1号堀跡	覆土	深鉢	胴			4.7	0段多条LR横回	前期前葉	繊維混入
25-2	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	胴			3.9	LR横回	早期後葉	
25-3	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口			4.9	沈線(横位平行)、LR充填	後期初頭	
25-4	12	第1号堀跡 ⅠY-39	覆土 Ⅰ層	深鉢	口～胴			9.7	隆沈線(縦位楕円形文、方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
25-5	12	第1号堀跡	覆土	鉢	胴			5.9	隆沈線(渦巻文)	十腰内Ⅰ(古)	
25-6		第1号堀跡	覆土	深鉢	口			4.5	口縁部隆沈線(横位平行)、胴部沈線	十腰内Ⅰ(古)	
25-7	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口～胴			12.7	波状口縁、口唇波頂部刺突、口縁波頂部下貼付(楕円形)、隆沈線(横位、円形文)、胴部沈線(長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
25-8	12	第1号堀跡 ⅠZ-41	覆土 Ⅰ層	深鉢	口			4.2	沈線(横位平行、括弧状区切文、縦位区切文)	十腰内Ⅰ(古)	
25-9	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口～胴			5.8	沈線(横位、弧状文、楕円形文)	十腰内Ⅰ(古)	
25-10	12	第1号堀跡	覆土	鉢	胴			4.4	沈線(長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	外面赤彩
25-11	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口			8.4	波状口縁、櫛歯状沈線(横位、格子目文)	十腰内Ⅰ	
25-12	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口～胴			9.1	波状口縁、沈線(横位平行、方形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
25-13	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口	(27.7)		5.6	波状口縁、沈線(横位平行、方形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
25-14	12	第1号堀跡	覆土	深鉢	口～胴			6.8	沈線(横位平行、長方形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
25-15	12	第1号堀跡	覆土	鉢	口			4.6	波状口縁、口唇部刻み、沈線(横位平行、弧状)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
25-16	12	第1号堀跡 ⅠY-39 ⅠZ-41	覆土 Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	胴～底		(6.9)	8.4	沈線(横位)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
25-17		第1号堀跡	覆土	深鉢	胴			9.5	沈線(横位平行、長方形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	外面黒色付着物
25-18	12	第1号堀跡 ⅠZ-41	覆土 Ⅰ層	鉢	口～胴			5.6	口唇部刻み、沈線(横位平行、波状入組文、楕円形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
25-19	12	第1号堀跡	覆土	鉢	口～胴			4.5	口唇部刻み 外面：沈線(横位平行)、L充填、 内面：沈線(横位平行)、L充填、無文部ミガキ	十腰内Ⅰ(新)	補修孔
25-20		第1号堀跡	覆土	壺	胴			6.0	沈線(平行、楕円形文)、細いLR充填	十腰内Ⅰ(新)	
25-21	12	第1号堀跡	覆土	鉢	底		(5.2)	1.7	内面沈線(波状入組文)、LR充填、無文部ミガキ、底部網代痕(ござ目？)	十腰内Ⅰ(新)	
26-1	13	第1号堀跡	覆土	壺	頸			4.6	隆帯(断面三角形)、沈線(横位)、L充填、橋状把手	十腰内Ⅰ(古)	
26-2		第1号堀跡	覆土	壺	頸～胴			4.7	隆帯(断面方形、横位)、楕円形貼付、LR	十腰内Ⅰ(古)	
26-3		第1号堀跡	覆土	壺	頸～胴			3.7	沈線(平行、波状入組文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
26-4		第1号堀跡	検出面	深鉢	口			6.0	口縁部平行沈線、L	後期初頭	
26-5		第1号堀跡	覆土	深鉢	口			4.0	頸部LR横回	後期初頭	
26-6	13	第1号堀跡	覆土	深鉢	口			3.2	口縁部肥厚、沈線(横位)、L充填	十腰内Ⅰ	
26-7	13	第1号堀跡 ⅡA-41	覆土 Ⅰ層	深鉢	頸			2.5	内面刺突、LR横回	十腰内Ⅰ	
26-8	13	第1号堀跡	覆土	深鉢	頸			1.8	内面刺突、LR横回	十腰内Ⅰ	
26-9	13	第1号堀跡	覆土	深鉢	口～胴			9.4	口唇部LR横回、頸部LR押圧、胴部LR縦回	十腰内Ⅰ(新)	
26-10		第1号堀跡	覆土	深鉢	口			6.1	頸部LR押圧	十腰内Ⅰ(新)	
26-11		第1号堀跡	覆土	鉢	胴			4.9	頸部RL押圧、胴部RL横回	十腰内Ⅰ(新)	
26-12		第1号堀跡	覆土	深鉢	胴			6.6	RLR横回	後期初頭	
26-13	13	第1号堀跡 ⅠZ-41	覆土 Ⅰ層	深鉢	口	(21.5)		4.8	R単絡1	十腰内Ⅰ	破損後に二次被熱
26-14	13	第1号堀跡	覆土	深鉢	口			5.7	櫛歯状沈線(縦位)	十腰内Ⅰ	
26-15		第1号堀跡	覆土	深鉢	胴			4.1	櫛歯状沈線(横位→縦位)	十腰内Ⅰ	
26-16	13	第1号堀跡 ⅡB-39 ⅡB-39	覆土 Ⅰ層 Ⅱ層	深鉢	口～底	(28.8)	(10.8)	26.5	折返し状口縁、R単絡6？(口縁部横位、胴部縦位)	十腰内Ⅰ	口縁～胴部上半スス付着
26-17	13	第1号堀跡	覆土	鉢	口～胴	(11.8)		9.8	LR横回	十腰内Ⅰ	

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器面調整・施文	時期	備考
27-1	13	第1号堰跡	覆土	深鉢	口～胴	(18.1)		8.0	無文	後期初頭～前葉	
27-2		第1号堰跡	覆土	深鉢	底		(9.5)	5.0	底部張り出し	後期初頭～前葉	
27-3		第1号堰跡	覆土	深鉢	底		(5.6)	5.2	無文	後期初頭～前葉	
27-4		第1号堰跡	覆土	深鉢	底		(9.9)	2.3	底部上げ底状	後期初頭～前葉	
27-5		第1号堰跡	覆土	深鉢	底			1.4	重複する笹葉状圧痕	後期初頭～前葉	
27-6		第1号堰跡 I Z-41	覆土 I層	鉢	底		5.0	2.6	底部木葉痕	後期初頭～前葉	
27-7		第1号堰跡	覆土	鉢	底		3.7	2.0	無文	後期初頭～前葉	
27-8	13	SD01	覆土	深鉢	口～胴			6.6	波状口縁、沈線(横位平行)	十腰内I	
27-9		SD01	覆土	深鉢	口			4.2	波状口縁、口唇部刻み、櫛歯状沈線(横位平行、弧状文？)	十腰内I(新)	
27-10		SD01	覆土	深鉢	口			4.6	沈線(横位平行、クランク文？)、L充填	十腰内I(新)	
27-11		SD01	覆土	深鉢	口			5.0	沈線(横位平行、クランク文？)、L充填	十腰内I(新)	
27-12		SD01	覆土	深鉢	口			5.3	沈線(横位平行、曲線)、細いLR充填	十腰内I(新)	
27-13	13	SD01	覆土	深鉢	口			2.9	折返し状口縁、櫛歯状沈線(口縁部横位、胴部縦位)	後期初頭～前葉	
27-14		SD01	覆土	深鉢	胴			11.9	沈線(三角形文、長方形文)、RL充填	十腰内I(新)	
27-15		SD01	覆土		底			0.6	網代痕(ござ目？)	後期初頭～前葉	
27-16	14	SD01 I X-56 I Y-57	覆土 II層	深鉢	胴			15.0	隆帯(断面三角形)、沈線(横位)、磨消状沈線（横位)	十腰内I	27-17と同一個体
27-17		SD01	覆土	深鉢	胴			12.4	隆帯(断面三角形)、沈線(横位)、磨消状沈線（横位)	十腰内I	27-16と同一個体
28-1		SK02	1層		胴			6.0	R単節5	後期初頭～前葉	
28-2		SK03	覆土	鉢	底		(6.2)	2.4	無文	十腰内I	
28-3	14	SK04	覆土	深鉢	胴			3.1	結束1羽状(LR・RL)	前期前葉	繊維混入
28-4		SK05	覆土	深鉢	口			1.7	口唇部刻目、沈線(横位)	十腰内I	
28-5		SK05	覆土	深鉢	口			3.6	隆沈線(横位、弧状文？)	十腰内I(古)	
28-6	14	SK06 第1号堰跡 II E-42	1層 覆土 III層 I層	深鉢	口～底	(23.0)	8.9	28.5	波状口縁、沈線(口頸部平行、胴部斜位区画、方形文)、櫛歯状沈線充填、底部網代痕(ござ目？)	十腰内I(新)	二次被熱、胴下部スス付着
28-7		SK06 II C-42	1層 II層	深鉢	口			1.8	波状口縁、櫛歯状沈線(横位)	十腰内I(新)	
28-8		SK06	1層	深鉢	胴			3.4	沈線(横位)、LR充填	十腰内I(新)	
28-9		SK06	1層	深鉢	胴			7.0	沈線(クランク文？)、LR充填	十腰内I(新)	
28-10		SK06	1層	深鉢	胴			4.8	R単節5	後期初頭～前葉	
28-11	14	SK06	検出面	深鉢	胴～底		6.8	14.1	沈線(平行、三角形文)、L充填	十腰内I(新)	
28-12	14	SK07 II A-58 II B-58 I Y-56	覆土 撹乱 III層 III層	深鉢	口	(30.0)		6.8	隆沈線(弧状文)	十腰内I(古)	
28-13		SK07	覆土	深鉢	口			5.5	口唇部沈線、隆沈線(横位平行)	十腰内I(古)	
28-14	14	SK07	覆土		口			2.8	隆沈線(横位平行、弧状文？)	十腰内I(古)	内面剥落、外面赤彩
28-15		SK07	覆土	深鉢	口			4.7	櫛歯状沈線(縦位)	後期初頭～前葉	
28-16		SK07	覆土	深鉢	口			3.5	折返し状口縁、口縁部LR(横位)、胴部LR(縦位)	後期初頭～前葉	
28-17	14	SK07	覆土	深鉢	胴			9.5	櫛歯状沈線(縦位)	後期初頭～前葉	
28-18	14	SK07	2層	鉢	口～胴	(11.0)		6.2	沈線(横位平行、弧状文、波状入組文(縦位))	十腰内I(古)	
28-19		SK07	覆土	鉢	口			3.3	沈線(横位平行)	十腰内I(古)	
30-1	15	I Z-41	I層	深鉢	口			4.6	口縁部肥厚、口唇部、口縁部内面LR	中期中葉～後葉	後期中葉の可能性あり
30-2	15	I Z-39	I層	深鉢	口			6.2	波状口縁、波頂部口唇連続刺突 外面：隆帯(断面三角形)、隆帯上刺突、頸部刺突、L横回 内面：波頂部刺突、L縦回	後期初頭	

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器面調整・施文	時期	備考
30 3			Ⅰ層	深鉢	胴			4.5	隆沈線(長方形文)、隆線上LR	後期初頭	
30 4	15	ⅡA 38	撹乱	深鉢	口～胴	22.7		14.0	波状口縁、隆沈線(縦位楕円形文、横位波状文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 5	15	ⅠW 36	Ⅰ層	深鉢	口			5.3	隆沈線(縦位に連続する楕円形文、長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 6		ⅡA 38	撹乱	深鉢	口			4.0	波状口縁、口縁部肥厚、隆沈線(縦位楕円形文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 7	15	ⅡA 38	Ⅰ層	壺	口～頸			6.0	隆沈線(弧状文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 8			Ⅰ層	鉢	胴			3.9	隆沈線(隆線下部に刺突)	十腰内Ⅰ(古)	
30 9	15	ⅡD 41	Ⅰ層	壺	口～頸			5.0	隆帯(断面三角形)、隆帯頂部・下端部に刺突	十腰内Ⅰ(古)	
30 10	15		Ⅰ層	壺	頸			2.6	隆沈線、隆線上刺突	十腰内Ⅰ(古)	
30 11	15	ⅡA 38 ⅡA 38 ⅡA 39	Ⅱ層 撹乱 撹乱	深鉢	口～底	20.0	9.3	24.6	波状口縁(6単位)、沈線(横位平行、縦位に連続する弧状文、方形文、波状入組文)	十腰内Ⅰ(古)	二次被熱
30 12	15		Ⅰ層	鉢	口			4.5	波状口縁、口縁部肥厚、沈線(横位)	十腰内Ⅰ(古)	
30 13	15	ⅡB 40	撹乱	深鉢	口			3.7	口縁部楕円形貼付、沈線(長楕円形文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 14	15	ⅡA 38	撹乱	壺	口			4.7	沈線(横位平行)	十腰内Ⅰ(古)	
30 15		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口			3.6	沈線(横位、長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 16	15	ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	口			4.1	沈線(横位平行、波状文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 17			Ⅰ層	深鉢	口			3.8	沈線(平行、曲線)	十腰内Ⅰ(古)	外面黒色付着物(漆か)
30 18		ⅡD 41	Ⅰ層	深鉢	口			3.4	隆沈線(横位、斜位)	十腰内Ⅰ(古)	
30 19		ⅡA 38	Ⅰ層	深鉢	口			3.7	波状口縁、沈線(横位、縦位)、R充填	十腰内Ⅰ(古)	二次被熱
30 20	15	ⅡB 39	Ⅰ層	深鉢	口			4.1	沈線(弧状文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 21		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口			4.6	沈線(横位、曲線文)	十腰内Ⅰ(古)	
30 22	15	ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口			3.4	口唇部刻み、沈線(格子目状文)	後期初頭～前葉	
30 23	15		Ⅰ層	深鉢	口			2.2	口唇部刺突、沈線(横位平行)、L充填	十腰内Ⅰ(古)	
31 1	16	ⅡA 38	Ⅱ層	壺	口～底	10.1	11.5	24.2	沈線(横位平行、長方形文、波状入組文)、底部木葉痕	十腰内Ⅰ(古)	
31 2		ⅡA 38 ⅡB 39	Ⅰ層 撹乱	壺	胴			14.6	隆沈線(長方形、円形文)	十腰内Ⅰ(古)	
31 3	16	ⅡA 38	撹乱	壺	口～胴	(19.3)		16.3	口縁部沈線(横位平行)、頸部2段の橋状把手、穿孔、隆沈線(楕円形、円形文、弧状文、波状入組文)	十腰内Ⅰ(古)	31 4・5と同一個体
31 4	16	ⅡA 38	撹乱	壺	胴			13.5	隆沈線(楕円形)	十腰内Ⅰ(古)	31 3・5と同一個体
31 5		ⅡA 38	撹乱	壺	底		12.5	1.7		十腰内Ⅰ(古)	31 3・4と同一個体
32 1	17	ⅡB 39	Ⅱ層	深鉢	口			3.7	刺突	十腰内Ⅰ	
32 2	17	ⅠY 39	Ⅰ層	深鉢	口			3.1	口縁部刺突、沈線	十腰内Ⅰ	
32 3	17		Ⅰ層	深鉢	口			2.6	外面：平行沈線 内面：L横回	十腰内Ⅰ(古)	
32 4	17	ⅡB 39	Ⅰ層	深鉢	胴			4.0	沈線(横位平行、稲妻状文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 5	17	ⅠY 39	Ⅰ層	深鉢	胴			4.7	沈線(波状入組文、波状文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 6		ⅡA 38	撹乱	深鉢	胴			10.4	沈線(弧状文)	十腰内Ⅰ(古)	二次被熱
32 7	17	ⅡD 41	Ⅰ層	台付鉢	口～底	(21.1)	(6.5)	9.1	沈線(横位、長楕円形文、円形文、波状入組文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 8	17	ⅡB 41	Ⅰ層	鉢	口～胴	(16.2)		5.8	波状口縁、沈線(横位平行、斜行)	十腰内Ⅰ(古)	
32 9	17	ⅡC 42 ⅡC 43	Ⅰ層 Ⅰ層	鉢	口～胴	(13.3)		5.0	波状口縁、沈線(横位平行、波頂部から垂下する括弧状文、三角形文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 10	17		Ⅰ層	鉢	口～胴			5.8	波状口縁、波頂部口唇肥厚、波頂部穿孔、沈線(横位平行、方形文、波状入組文)	十腰内Ⅰ(古)	外面赤彩
32 11	17	ⅠY 38	Ⅰ層	鉢	口～胴			10.2	沈線(長方形文、波状入組文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 12	17	ⅡB 41 ⅡC 41 ⅡC 42	Ⅰ層 Ⅰ層 Ⅰ層	台付鉢	口～底	(9.4)	4.7	7.5	波状口縁（4単位？）、波頂部刺突・刻み、沈線（横位平行、三角形文、蛇行文)	十腰内Ⅰ(古)	内面黒色付着物
32 13	17	ⅡA 38	撹乱	鉢	胴～底		4.4	4.8	沈線(横位平行、弧状文、蛇行文)、底部上げ底状、底端部穿孔2単位	十腰内Ⅰ(古)	

図版番号	写真図版	遺構名／グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器面調整・施文	時期	備考
32 14	17		Ⅰ層	鉢	胴～底		6.4	2.9	沈線(横位平行)	十腰内Ⅰ(古)	
32 15	17		Ⅰ層	鉢	底		5.2	1.6	沈線(楕円形文、弧状文？)、底部上げ底状	十腰内Ⅰ(古)	
32 16	17		Ⅰ層	鉢	口			3.9	波状口縁、波頂部突起穿孔、沈線(長方形文、縦位弧状文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 17	17		Ⅰ層	鉢				2.6	沈線(横位平行、方形文？)	十腰内Ⅰ(古)	内外面赤彩
32 18	17	ⅡC 42	Ⅰ層	台付鉢	台		(7.6)	4.0	沈線(横位平行)	十腰内Ⅰ(古)	
32 19	17		Ⅰ層	台付鉢	台		(11.0)	4.3	沈線(横位)、穿孔	十腰内Ⅰ(古)	
32 20		ⅠY 39 ⅡB 41	Ⅰ層 Ⅰ層	鉢	胴			5.8	沈線(横位平行、三角形文、楕円形文)	十腰内Ⅰ(古)	
32 21	17	ⅡC 42	Ⅰ層	鉢	胴			5.2	隆沈線(横位)、沈線(三角形文、三角形文内に渦巻文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 1	18	ⅠY 39	Ⅰ層	鉢	胴			4.2	沈線(横位、クランク文、逆への字状文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 2	18		Ⅰ層	鉢	胴			3.7	沈線(波状入組文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 3			Ⅰ層	鉢	胴			3.6	隆沈線(横位)、隆線上貫通孔、沈線(長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 4		ⅡD 42	Ⅰ層	壺	口	(6.3)		2.1	沈線(横位、楕円形文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 5	18	ⅡE 42	Ⅲ層	壺	口	(4.1)		2.9	櫛歯状沈線(横位)	十腰内Ⅰ(古)	
33 6	18	ⅡA 39	Ⅰ層	台付鉢	底		(3.4)	3.5	沈線(横位平行、弧状文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 7	18	ⅡD 41 ⅡE 42	Ⅰ層 Ⅰ層	壺	胴～底		8.0	14.3	沈線(平行、長楕円形文、波状文、弧状文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 8	18	ⅡA 38 ⅡA 38	Ⅰ層 Ⅰ層	壺	胴			16.2	沈線(方形文、長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 9	18	ⅡA 38 ⅡA 38 ⅡA 38	Ⅰ層 Ⅰ層 Ⅲ層	壺	胴～底		13.4	16.3	沈線(方形文、長方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 10	18		Ⅰ層	壺	胴			3.4	沈線(方形文)	十腰内Ⅰ(古)	
33 11			Ⅰ層	壺	胴			6.2	沈線(横位、方形文)	十腰内Ⅰ(古)	外面赤彩
33 12	18	ⅠZ 39 ⅡB 41 ⅡC 42	Ⅰ層 Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	口～胴	(17.0)		14.8	櫛歯状沈線(三角形文)	後期初頭～前葉	二次被熱
33 13	18	ⅡD 41 ⅡE 42	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	口			3.3	櫛歯状沈線(横位、格子目状文)	後期初頭～前葉	
33 14			Ⅰ層	深鉢	口			3.9	沈線(横位)、櫛歯状沈線(横位)	十腰内Ⅰ(新)	
33 15		ⅡC 42	Ⅰ層	深鉢	口			2.9	沈線(横位)、櫛歯状沈線(横位)	十腰内Ⅰ(新)	
33 16		ⅡE 42	Ⅰ層	深鉢	口			2.9	沈線(横位平行)、櫛歯状沈線(横位)	十腰内Ⅰ(新)	
33 17		ⅡA 38	撹乱	深鉢	口			3.8	櫛歯状沈線(横位、縦位)	十腰内Ⅰ(新)	
33 18		ⅡB 41	Ⅰ層	深鉢	口			2.9	沈線(横位)、櫛歯状沈線(横位、斜位)	十腰内Ⅰ(新)	
33 19		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	胴			6.7	沈線(横位平行、波状文)、櫛歯状沈線充填	十腰内Ⅰ(新)	
33 20		ⅡA 38	撹乱	深鉢	胴			2.9	沈線(方形文)、櫛歯状沈線、方形文中心に竹管状刺突	十腰内Ⅰ(新)	
34 1	19	ⅡC 41 ⅡC 42 ⅡD 42	Ⅰ層 Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	口～胴	(15.3)		7.5	沈線(横位平行、波状入組文)、櫛歯状沈線充填	十腰内Ⅰ(新)	
34 2	19	ⅡC 42	Ⅰ層	深鉢	口～胴			6.4	沈線(横位平行、波状入組文)、櫛歯状沈線充填	十腰内Ⅰ(新)	
34 3	19	ⅡB 41 ⅡB 41 ⅡC 42	Ⅰ層 Ⅲ層 Ⅰ層	深鉢	口～胴			12.4	波状口縁、沈線(波状入組文)、櫛歯状沈線充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
34 4		ⅡA 38	撹乱	鉢	口			4.6	沈線(横位平行、楕円形文)	十腰内Ⅰ(新)	
34 5	19	ⅡE 42	Ⅰ層	鉢	口～胴			3.7	波状口縁、沈線(横位平行、方形文)	十腰内Ⅰ(新)	
34 6		ⅡB 41	Ⅰ層	深鉢	胴			4.8	沈線(波状入組文)、櫛歯状沈線充填	十腰内Ⅰ(新)	
34 7	19	ⅠV 36	Ⅲ層	壺	頸			3.7	櫛歯状沈線、橋状把手	十腰内Ⅰ(新)	
34 8	19	ⅡC 42	Ⅰ層	壺	胴～底		4.2	9.4	櫛歯状沈線(横位平行、波状入組文)	十腰内Ⅰ(新)	
34 9		ⅡB 39	Ⅱ層	壺	口	(9.3)		3.4	沈線(横位)、櫛歯状沈線充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
34 10		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口			6.8	沈線(横位平行、区切文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
34 11	19	ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口	(27.7)		7.9	波状口縁、沈線(横位平行、方形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	34 12と同一個体

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器面調整・施文	時期	備考
34 12	19	ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口	(27.8)		5.8	波状口縁、沈線(口縁部平行、胴部方形文？)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	34 11と同一個体
34 13	19	ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	口～胴			9.9	沈線(横位平行、区切文、方形文？)、LR充填、無文部ミガキ	十腰内Ⅰ(新)	
34 14		ⅡA 38	撹乱		口～胴			11.3	沈線(横位、斜位、曲線)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
34 15			Ⅰ層	深鉢	口	(19.6)		3.2	波状口縁、沈線(横位平行、斜位)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
35 1	20	ⅡC 42 ⅡD 42	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	口			6.2	波状口縁、沈線(横位平行)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 2			Ⅰ層	深鉢	口			4.7	波状口縁、沈線(横位平行、縦位)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 3	20	ⅡA 38	撹乱	深鉢	口			4.5	沈線(横位平行、斜位)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 4	20		Ⅰ層	深鉢	口			5.5	波状口縁、口唇部刻み、沈線(横位平行)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
35 5		ⅡD 42	Ⅰ層	深鉢	口			5.1	沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 6	20		Ⅰ層	深鉢	口～胴			6.3	波状口縁、沈線(平行、楕円形文)、R充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 7		ⅡB 39	Ⅰ層	深鉢	口			5.0	波状口縁、沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 8		ⅠV 36	Ⅲ層	深鉢	口			3.9	沈線(クランク文？)、RL充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 9			Ⅰ層	深鉢	口～胴			5.7	沈線(横位平行)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 10		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	口			4.4	波状口縁、沈線(平行、方形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 11		ⅡA 41	Ⅰ層	深鉢	口			5.6	波状口縁、沈線(平行、三角形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 12		ⅠY 36	Ⅲ層	深鉢	口			3.2	沈線(横位平行)、RL充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 13		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口			3.1	口唇部LR横回、沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 14			Ⅰ層	深鉢	口			4.6	沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 15		ⅠY 36	Ⅲ層	深鉢	胴			5.8	沈線(横位平行、楕円形文)、RL充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 16	20	ⅡB 41	Ⅰ層	深鉢？	胴			2.2	沈線(楕円形文？、平行)、L充填、無文部刺突	十腰内Ⅰ(新)	
35 17			Ⅰ層	深鉢	胴			5.4	沈線(横位、三角形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	外面スス付着
35 18		ⅠW 36	Ⅰ層	深鉢	胴			6.1	沈線(方形文？)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 19			Ⅰ層	深鉢	胴			6.7	沈線(横位平行、波状入組文？)、LR充填、充填部に竹管状刺突	十腰内Ⅰ(新)	
35 20		ⅠY 40	Ⅰ層	深鉢	胴			8.6	沈線(横位平行、長方形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	外部黒色付着物
35 21		ⅡC 42 ⅡD 42	Ⅰ層 Ⅰ層		胴			13.5	沈線(横位平行、三角形文？)、LR充填、充填部分に刺突	十腰内Ⅰ(新)	
35 22			Ⅰ層	深鉢	胴			9.9	沈線(横位平行、方形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
35 23		ⅠX 36	Ⅱ層		胴			6.8	沈線(入組文)、LR充填	十腰内Ⅱ	
35 24	20	ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	胴			4.4	沈線(横位)、細いLR充填	十腰内Ⅱ	
36 1	20	ⅡD 41 ⅡE 42	Ⅰ層 Ⅰ層	鉢	口～底	11.8	(4.4)	11.1	波状口縁(5単位)、沈線(横位平行、波状入組文、三角形文)LR充填、無文部ミガキ	十腰内Ⅰ(新)	
36 2	20	ⅡB 41 ⅡC 42	Ⅰ層 Ⅰ層	鉢	口～胴	(14.5)		7.1	沈線(横位平行、波状入組文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 3	20	ⅠY 40	Ⅰ層	鉢	口～胴			8.3	沈線(平行、楕円形文、波状入組文)、LR充填、無文部ミガキ	十腰内Ⅰ(新)	
36 4	20	ⅠZ 41	Ⅰ層	鉢	口	(11.6)		4.0	沈線(横位平行、曲線文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 5	20	ⅡE 42	Ⅰ層	深鉢	口～胴			8.1	波状口縁、沈線(横位、波状入組文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 6	20	ⅡA 38	撹乱	鉢	口～胴			5.4	沈線(横位平行)、RL充填、無文部ミガキ	十腰内Ⅰ(新)	
36 7			Ⅰ層	深鉢	口～胴			6.9	波状口縁、沈線(平行、方形文？)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 8		ⅠY 40	Ⅰ層	鉢	口～胴			3.6	口唇部刻み、沈線(横位平行)、細いLR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 9		ⅡC 42	Ⅰ層	鉢	口～胴			4.6	波状口縁、口唇部刻み、波頂部刺突、沈線(弧状文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 10	20	ⅡB 39	Ⅰ層	鉢	口～胴			4.5	波状口縁、口唇部刻み、沈線(横位平行、楕円形文？)、細いLR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 11		ⅠY 40	Ⅰ層	深鉢	口			4.8	沈線(横位平行、方形文？)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 12	20		Ⅰ層	深鉢	口～胴			6.8	沈線(横位、方形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 13		ⅠX 35	Ⅱ層	深鉢	口			4.8	沈線(平行、弧状文？)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	

図版番号	写真図版	遺構名／グリッド	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	器面調整・施文	時期	備考
36 14		ⅠX 35	Ⅲ層	鉢	口			3.9	沈線(楕円形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 15		ⅡA 38	Ⅲ層	深鉢	口			3.3	沈線(横位、方形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 16	21		Ⅰ層	鉢	口			3.6	口縁部肥厚、沈線(横位平行)、細いLR充填	十腰内Ⅱ	
36 17		ⅠY 39	Ⅰ層	鉢	口			6.0	平行沈線文、沈線間蛇行文	十腰内Ⅱ	
36 18	21	ⅡA 38	Ⅰ層	鉢	胴			5.4	波状口縁、沈線(平行、斜行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
36 19	21	ⅡA 38	Ⅰ層	鉢	口～胴			8.4	沈線(平行、斜行、方形文)、L充填、無文部ミガキ	十腰内Ⅰ(新)	
36 20	21	ⅡD 41	Ⅰ層	壺	口			4.7	沈線(入組文)、LR磨消	十腰内Ⅱ	
37 1	21		Ⅰ層	台付鉢	台			6.5	沈線(横位平行)、RL充填、透かし	十腰内Ⅰ(新)	
37 2	21	ⅠD 41	Ⅰ層	台付鉢	台			4.5	沈線(横位平行)、RL充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 3	21		Ⅰ層	台付鉢	台			3.2	沈線(横位平行)、RL充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
37 4	21	ⅡC 42	Ⅰ層	台付鉢	台			2.3	沈線(横位平行)、0段多条LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 5	21	ⅡD 41	Ⅰ層	台付鉢	台			4.3	沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	二次被熱
37 6	21	ⅡB 39	Ⅰ層	壺	口	(6.8)		5.5	沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 7	21	Ⅰ層		壺	口	(6.9)		3.9	横位区画沈線、口縁部LR横回	十腰内Ⅰ(新)	
37 8			Ⅰ層	壺	胴			6.6	隆沈線、隆線上RL、沈線(楕円形文)、RL充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 9		ⅠD 41	Ⅰ層	壺	胴			7.6	沈線(平行沈線、楕円形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 10		ⅡD 41	Ⅰ層	壺	胴			6.2	沈線(楕円形文)、L充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 11		ⅡD 41 ⅡE 42	Ⅰ層 Ⅰ層	壺	胴			9.5	沈線(横位平行)、LR充填	十腰内Ⅰ(新)	
37 12	21	ⅡD 41	Ⅰ層	壺	頸～胴			28.1	頸部隆沈線(横位)、隆線上LR、胴部沈線(楕円形文、波状入組文、三角形文)、LR充填	十腰内Ⅰ(古)	
38 1	22	ⅡD 41	Ⅰ層	深鉢	口～底	(23.4)	(8.6)	32.9	R単節5	後期初頭～前葉	二次被熱
38 2	22	ⅠY 40 ⅠZ 41	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	胴～底		(10.0)	14.3	単節5	後期初頭～前葉	二次被熱
38 3		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	胴～底		(7.1)	5.7	R単節5	後期初頭～前葉	二次被熱
38 4	22	ⅠY 40 ⅠZ 41	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	口	(21.7)		6.0	波状口縁、R単節5	後期初頭～前葉	二次被熱
38 5	22	ⅡD 41	Ⅰ層	深鉢	口	(26.1)		5.5	折返し状口縁、R単節5(口縁部横位、胴部縦位)	後期初頭～前葉	
38 6		ⅡD 42	Ⅰ層	深鉢	口			8.1	折返し状口縁、R単節5(口縁部横位、胴部縦位)	後期初頭～前葉	
38 7	22	ⅡD 41	Ⅰ層	深鉢	胴			6.6	R単節5	後期初頭～前葉	二次被熱
38 8	22	ⅡD 42	Ⅰ層	深鉢	口			6.1	折返し状口縁、R単節5(口縁部横位、胴部縦位)	後期初頭～前葉	
38 9	22	ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口			5.8	折返し状口縁、R単節5	後期初頭～前葉	
38 10	22	ⅠZ 37	Ⅲ層	深鉢	口			5.3	R単節5	後期初頭～前葉	
39 1		ⅠY 39	Ⅰ層	深鉢	口～胴			6.5	折返し状口縁、L単節5	後期初頭～前葉	
39 2		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口			6.1	R単節5	後期初頭～前葉	
39 3			Ⅰ層	深鉢	口			4.6	R単節5	後期初頭～前葉	
39 4		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	胴			4.4	R単節5?	後期初頭～前葉	
39 5	23	ⅡD 42	Ⅰ層	深鉢	胴			4.3	R単節1	後期初頭～前葉	
39 6	23	ⅡA 38	Ⅰ層	深鉢	胴			6.2	格子目状沈線	後期初頭～前葉	
39 7			Ⅰ層	深鉢	口			3.6	櫛歯状沈線(横位・縦位)	後期初頭～前葉	
39 8		ⅡA 38	Ⅰ層	深鉢	口			3.7	R単節1	後期初頭～前葉	
39 9		ⅠX 38	Ⅲ層	深鉢	口			6.4	櫛歯状沈線(縦位)	後期初頭～前葉	
39 10		ⅠZ 41 ⅡA 38	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	胴			8.8	櫛歯状沈線(縦位)	後期初頭～前葉	
39 11	23	ⅠY 39 ⅡB 39	Ⅰ層 試掘Tr	深鉢	口	(21.0)		4.9	LR横回	後期初頭～前葉	
39 12	23	ⅠY 39 ⅡA 38	Ⅰ層 撹乱	深鉢	口～胴	(19.0)		26.7	折返し状口縁、口縁部L横回、胴部L縦回	後期初頭～前葉	

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器面調整・施文	時期	備考
39 13	23	ⅡB 39 ⅡB 39	Ⅰ層 Ⅱ層	深鉢	口～胴	(22.7)		28.3	LR縦回	後期初頭～前葉	
39 14		ⅠY 39	Ⅰ層	深鉢	胴～底		(7.6)	4.8	0段多条LR横回、底部笹葉状圧痕	後期初頭～前葉	
40 1	23	ⅡA 38	Ⅰ層	深鉢	口～胴	(16.5)		12.4	LR縦回	後期初頭～前葉	
40 2		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口			3.6	LR横回	後期初頭～前葉	
40 3		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口			4.7	LR横回	後期初頭～前葉	二次被熱
40 4			Ⅰ層	深鉢	口			5.0	LR縦回	後期初頭～前葉	
40 5		ⅠW 33	Ⅱ層	深鉢	口			5.0	波状口縁、L横回	後期初頭～前葉	
40 6			Ⅰ層	深鉢	口			5.2	L縦回	後期初頭～前葉	
40 7	23		Ⅰ層	深鉢	口～胴			7.3	L単節1	後期初頭～前葉	
40 8	23		Ⅰ層	深鉢	口			3.4	口縁部肥厚、LR(口縁部横位、胴部縦位)	後期初頭～前葉	
40 9	23	ⅡA 38	撹乱	深鉢	口			4.4	RL横回	後期初頭～前葉	
40 10		ⅠY 38	Ⅰ層	鉢	口			4.3	LR横回	後期初頭～前葉	
40 11		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	口～胴			9.5	LR横回	後期初頭～前葉	
40 12		ⅠY 40	Ⅰ層	深鉢	口			4.2	LR縦回	後期初頭～前葉	
40 13		ⅡA 38 ⅠZ 37	Ⅲ層 Ⅲ層	壺	胴			6.9	L横回	後期初頭～前葉	
40 14	23	ⅠW 36	Ⅰ層	深鉢	口			5.3	沈線(横位平行)、口縁部LR横回、胴部LR縦回	後期初頭～前葉	二次被熱
40 15	24	ⅡA 39	撹乱	壺	口～頸	(16.0)		4.3	折返し状口縁、口縁部RL、頸部貫通孔	後期初頭～前葉	
40 16		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口			4.6	沈線、LR縦回	後期初頭～前葉	
40 17	23	ⅠY 36	Ⅲ層	壺	口			3.6	折返し状口縁、RL横回、頸部穿孔	後期初頭～前葉	
40 18		ⅠX 36	Ⅲ層	深鉢	口			2.7	横位沈線区画、LR横回	後期初頭～前葉	
40 19		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	口			4.7	折返し状口縁、口縁部LR横回	後期初頭～前葉	
40 20			Ⅰ層	深鉢	口			3.8	口唇部LR横回、沈線(横位)、細いLR充填	後期初頭～前葉	
40 21		ⅡB 42	Ⅰ層	深鉢	口			3.8	沈線(横位平行)、L充填	後期初頭～前葉	
40 22		ⅡB 41	Ⅰ層	深鉢	口			4.0	折返し状口縁、沈線(横位)、LR横回	後期初頭～前葉	
40 23		ⅠX 36	Ⅱ層	深鉢	口			4.2	口唇部RL横回、胴部RL横回	後期初頭～前葉	
40 24	24	ⅡA 41	Ⅰ層	深鉢	口			4.5	口唇部LR横回、口縁部LR横回	後期初頭～前葉	
40 26		ⅡB 39	Ⅰ層	深鉢	口			2.7	口唇部LR横回、口縁部LR横回	後期初頭～前葉	
40 26		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	口			4.6	口唇部LR横回、胴部LR横回	後期初頭～前葉	
40 27			Ⅰ層	深鉢	口			5.0	口唇部LR横回、頸部補修孔	後期初頭～前葉	
40 28		ⅡC 41	Ⅰ層	深鉢	口			4.0	口唇部L横回、口縁部・頸部L押圧	後期初頭～前葉	
41 1		ⅡA 41	Ⅰ層	深鉢	胴			2.9	LR横回、刺突	十腰内Ⅰ	
41 2		ⅡD 41	Ⅰ層	深鉢？	口			1.9	沈線(横位)、竹管状刺突	十腰内Ⅰ	
41 3		ⅡD 41	Ⅰ層	壺	胴			2.7	沈線(横位)、刺突	十腰内Ⅰ	
41 4	24	ⅡD 41	Ⅰ層	深鉢	胴～底		6.7	7.9	沈線(横位)、RL横回	後期初頭～前葉	
41 6	24	ⅡC 41	Ⅰ層	深鉢	口～胴	(16.1)		12.8	無文	後期初頭～前葉	
41 6	24	ⅡB 41 ⅡC 42	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	口～胴	(11.3)		9.1	波状口縁、無文	後期初頭～前葉	
41 7	24	ⅡA 38 ⅡB 39	撹乱 Ⅱ層	深鉢	口～底	(12.4)	7.0	14.7	底部上げ底状、無文	後期初頭～前葉	
41 8	24	ⅡB 41 ⅡC 42	Ⅰ層 Ⅰ層	深鉢	胴～底		(8.6)	8.2	無文	後期初頭～前葉	
41 9	24	ⅡA 38	撹乱	深鉢	口～胴	(20.5)		5.1	折返し状口縁、無文	後期初頭～前葉	
41 10		ⅠB 41	Ⅰ層	鉢	口～胴	(14.8)		7.0	無文	後期初頭～前葉	
41 11	24		Ⅰ層	鉢	口～胴	(12.5)		6.9	折返し状口縁、無文	後期初頭～前葉	

図版番号	写真図版	遺構名 / グリッド	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	器面調整・施文	時期	備考
41 12	24		Ⅰ層	壺	口～胴	(10.0)		8.4	無文	後期初頭～前葉	二次被熱
41 13	25	ⅠZ 39	Ⅰ層	壺	口	(15.9)		6.8	無文	後期初頭～前葉	
42 1		ⅡD 41	Ⅰ層	鉢	口～胴	(9.6)		5.5	無文	後期初頭～前葉	
42 2	25	ⅡA 38	Ⅰ層	鉢	口～胴	(8.6)		5.5	波状口縁、無文	後期初頭～前葉	
42 3	25	ⅡC 42	Ⅰ層	台付鉢	口～底	(6.5)	3.7	3.6	無文	後期初頭～前葉	
42 4	25	ⅠY 37	覆土	台付鉢	底		(4.4)	4.3	無文	後期初頭～前葉	二次被熱
42 5		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	底		9.7	3.0	重複する笹葉状圧痕	後期初頭～前葉	
42 6		ⅠW 33	Ⅱ層	深鉢	底		(9.9)	2.5	底部笹葉状圧痕	後期初頭～前葉	
42 7		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	底		(9.8)	6.6	底部笹葉状圧痕	後期初頭～前葉	
42 8		ⅠY 36	Ⅲ層	深鉢	胴～底		(7.8)	4.5	底部網代痕	後期初頭～前葉	
42 9		ⅡA 38	Ⅰ層	深鉢	底		(7.1)	1.9	底部平行する線状圧痕	後期初頭～前葉	
42 10		ⅠZ 41	Ⅰ層	深鉢	底		(6.5)	2.6	底部網代痕(ござ目？)	後期初頭～前葉	二次被熱
42 11		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	底		(9.1)	1.6	底部網代痕	後期初頭～前葉	
42 12			Ⅰ層	深鉢	底		5.8	4.0	底部木葉痕	後期初頭～前葉	
42 13		ⅡC 42	Ⅰ層	深鉢	底		(6.6)	1.6	底部網代痕(ござ目？)	後期初頭～前葉	
42 14		ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	底		(5.8)	1.8	網代痕(ござ目？)	後期初頭～前葉	
42 15	25	ⅠW 33	Ⅰ層	深鉢	底			1.4	網代痕(ござ目？)の上に化粧土	後期初頭～前葉	
42 16		ⅠY 38	Ⅰ層	深鉢	底		(9.6)	4.3	無文	後期初頭～前葉	二次被熱
42 17		ⅠX 35	Ⅲ層	鉢	胴～底		(5.1)	2.8	無文	後期初頭～前葉	
42 18		ⅡD 41	Ⅰ層	鉢	底		(4.7)	1.7	無文	後期初頭～前葉	二次被熱
42 19		ⅠX 35	Ⅱ層	鉢	底		(2.4)	0.8	無文	後期初頭～前葉	ミニチュア土器の可能性あり
43 1	25		Ⅰ層	深鉢	口縁突起			5.1	突起上部刻み、側面沈線(Y字状)	十腰内Ⅱ	
43 2	25	ⅠX 36	Ⅱ層	深鉢	口			1.9	竹管状連続押し引き	前期前葉	繊維混入
43 3	25	ⅠX 35	Ⅱ層	深鉢	胴			2.5	竹管状連続押し引き	前期前葉	繊維混入
43 4	25		Ⅰ層	深鉢	胴			3.3	LR	前期前葉	繊維混入
43 5	25	ⅠV 33	Ⅰ層	深鉢	口			3.5	R押圧、R横回	前期中葉～後葉	繊維混入
43 6		ⅠX 36	Ⅱ層	深鉢	胴			6.1	L単絡1	前期中葉～後葉	繊維混入
43 7	25	ⅠX 36	Ⅱ層	深鉢	胴			8.2	L単絡1	前期中葉～後葉	繊維混入
43 8	25	ⅡB 39	Ⅰ層	深鉢	口			4.8	沈線(横位平行)、RL縦回	中期中葉～後期初頭	
43 9	25	ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	口			5.1	LR縦回	中期末葉～後期初頭	
	22 1	ⅠX 36	Ⅰ層	深鉢	口			4.7	無文	後期初頭～前葉	
	25 1	ⅠZ 39	Ⅰ層	深鉢	口～胴			6.8	波状口縁、口唇部平坦、無文	後期初頭～前葉	
	25 2		Ⅰ層	片口	口			4.7	沈線(横位)	十腰内Ⅰ(新)	

表8　館遺跡　石器･石製品観察表

図番号	遺構	グリッド	層位	器種	石材	備考	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
29-1	第1号堀跡		覆土	石鏃	珪質頁岩		2.1	1.1	0.4	0.7
29-2	第1号堀跡		覆土	石箆	珪質頁岩		4.9	2.4	1.2	15.4
29-3	第1号堀跡		覆土	石箆	珪質頁岩		5.7	2.3	1.1	15.8
29-4	第1号堀跡		覆土	剥片	玉髄	面により光沢異なる	2.0	1.7	1.0	3.5
29-5	第1号堀跡		覆土	磨製石斧	緑色片岩	アオトラ石	6.6	2.9	1.3	38
29-6	第1号堀跡		覆土	打製石斧	頁岩		6.6	3.5	1.4	37
29-7	第1号堀跡		覆土	敲石	チャート		5	4.8	2.1	72.1
29-8	第1号堀跡		覆土	凹石	凝灰岩	被熱、火ばね	16.5	5.8	3.1	(286.5)
29-9	第1号溝跡	ⅠX-34	覆土	石核	玉髄	両極打法、光沢？	2.1	1.7	1.0	2.6
29-10	第1号溝跡	ⅠY-36	覆土	石核	玉髄	両極打法	1.8	1.5	1.4	3.7
29-11	第1号溝跡	ⅠY-36	覆土	ピエス・エスキーユ	赤鉄鉱		3.3	2.8	1.6	16.1
29-12	第1号土坑		覆土	掻器	珪質頁岩	玉髄質、P-1の土器とともに取り上げ	5.6	4.4	1.6	32.2
29-13	第6号土坑		1層	石鏃	玉髄	正面側先端部に衝撃剥離痕	1.5	1.1	0.3	0.4
29-14	第6号土坑		1層	二次加工剥片	珪質頁岩	掻器？削器？	6.1	8.3	1.7	60.7
44-1			表採	石鏃	珪質頁岩		2.2	1.0	0.4	0.5
44-2		ⅡC-41	Ⅰ層	石鏃	珪質頁岩		2.9	1.7	0.3	1.2
44-3		ⅠY-36	Ⅰ層	石鏃	珪質頁岩		2.6	1.2	0.5	0.9
44-4			表採	石鏃	珪質頁岩		2.9	(1.4)	0.5	(1.3)
44-5		ⅡC-41	Ⅰ層	石鏃（未成品）	珪質頁岩		2.5	1.9	0.6	2.0
44-6			表採	石鏃	玉髄		2.3	1.3	0.3	0.5
44-7			表採	石鏃	玉髄		2.0	1.5	0.4	0.9
44-8		ⅠY-40	Ⅰ層	石鏃	玉髄		(2.1)	1.6	0.4	(0.9)
44-9		ⅠZ-41	Ⅰ層	石鏃（未成品）	玉髄		3.8	1.6	0.5	2.8
44-10			表採	石鏃（未成品）	玉髄		1.8	3.0	1.0	3.9
44-11		ⅠZ-41		石鏃（未成品）	玉髄		2.1	1.6	0.6	1.8
44-12		ⅠX-36	Ⅰ層	石錐	珪質頁岩		3.4	2.5	0.9	5.6
44-13		ⅡC-42	Ⅰ層	掻器	珪質頁岩	二次加工部分に光沢	2.5	4.1	1.2	10.3
44-14		ⅡB-41	Ⅰ層	掻器	玉髄		4.4	3.3	1.2	16.1
44-15		ⅡB-39	Ⅰ層	掻器	珪質頁岩		2.5	3.0	1.0	6.3
44-16		ⅡE-42	Ⅲ層	削器	珪質頁岩	玉髄質、掻器？	3.5	4.9	1.1	13.0
44-17			表採	削器	珪質頁岩		3.7	5.6	1.3	18.9
44-18			表採	削器	珪質頁岩	試掘報告書写真7	6.7	6.5	1.6	55.1
44-19		ⅠX-35	Ⅱ層	削器	珪質頁岩	性格不明の黒色付着物	5.3	6.1	1.3	36.1
44-20			表土	削器	珪質頁岩	石鏃未成品？	3.1	2.6	1.0	6.6
44-21			表採	削器	珪質頁岩	両極剥片素材	2.8	2.3	0.8	5.0
44-22			表土	削器	珪質頁岩		6.1	9.3	1.9	87.0
45-1		ⅡB-41	Ⅰ層	掻器	珪質頁岩	玉髄質	5.3	4.1	1.3	22.9
45-2		ⅡB-41	Ⅰ層	掻器	玉髄	二次加工部分わずかに光沢	3.4	2.4	0.9	6.8
45-3		ⅠZ-37	Ⅰ層	掻器	玉髄		1.9	2.3	0.9	3.9
45-4		ⅠX-39	Ⅰ層	削器	玉髄	二次加工部分に光沢、石鏃未成品？	2.6	1.9	0.4	1.9
45-5			表採	二次加工剥片	玉髄	石鏃未成品？二次加工部分に光沢	2.0	1.2	0.5	0.7

図番号	遺構	グリッド	層位	器種	石材	備考	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
45-6			表土	二次加工剥片	玉髄	石鏃未成品？二次加工部分に光沢	2.5	1.7	0.9	2.4
45-7			表土	二次加工剥片	玉髄	石槍？石鏃未成品？	5.1	2.5	1.2	11.7
45-8		I Z-39	I層	二次加工剥片	玉髄	剥離面で光沢異なる	3.0	2.4	0.7	3.7
45-9		II C-41	I層	二次加工剥片	玉髄	両極剥片素材、二次加工部分に光沢	3.0	1.5	0.6	2.2
45-10			表土	二次加工剥片	玉髄	掻器？	3.1	2.3	1.1	8.4
45-11		I Z-39	I層	二次加工剥片	玉髄	二次加工部分に光沢	4.5	3.1	1.7	16.9
45-12			表採	二次加工剥片	玉髄	二次加工部分に光沢、石鏃未成品？	2.8	1.8	0.6	2.4
45-13		I W-36	I層	二次加工剥片	玉髄	二次加工部分に光沢	3.0	2.1	0.4	2.9
45-14		II A-38	I層	二次加工剥片	玉髄	二次加工部分に光沢	2.6	2.0	1.0	6.1
45-15			表土	二次加工剥片	珪質頁岩	石鏃関係品？二次加工部分に光沢	1.7	1.8	0.5	1.1
45-16		II A-38	I層	二次加工剥片	珪質頁岩	二次加工部分に光沢	3.5	2	0.7	3.0
45-17		I Z-41 斜面	I層	二次加工剥片	赤鉄鉱	黒変、被熱	2.7	2.1	0.7	2.8
45-18		I Z-41	I層	剥片	赤鉄鉱	黒変、被熱	3.6	5.2	1.2	13.1
45-19		I Z-41	I層	石核	珪質頁岩	黒変、被熱、20と接合	2.1	4.1	1.4	10.4
45-20		I Z-41	I層	石核	珪質頁岩	黒変、被熱、19と接合	3.8	5.8	2.0	26.4
45-21			表土	石核	チャート	黒変？被熱？	5.5	5.9	3.5	120.6
46-1		I Y-40	I層	剥片	珪化木	光沢？	3.3	4.2	1.2	12.8
46-2		II B-41	I層	剥片	玉髄	光沢	2.9	1.0	0.6	1.8
46-3		II B-41	I層	剥片	玉髄	光沢	2.1	1.0	0.5	0.6
46-4		I X-35	II層	剥片	玉髄	光沢	2.4	1.1	1.0	2.8
46-5		I Z-39	I層	剥片	玉髄		3.9	3.1	1.3	10.1
46-6		I Y-38	I層	剥片	玉髄	両極打法、被熱、剥離面で光沢異なる	2.6	1.5	1.0	3.1
46-7		I Y-38	I層	剥片	玉髄	両極打法	3.5	2.9	1.1	8.3
46-8		I X-35	II層	剥片	玉髄	両極打法、光沢？	2.0	1.9	0.9	2.9
46-9		II B-39	試掘Tr9 埋土	剥片	玉髄	両極打法	3.3	1.8	1.0	4.6
46-10		I X-35	II層	剥片	玉髄	両極打法	3.0	1.5	0.8	3.6
46-11		I Z-41	I層	剥片	玉髄	黒変、被熱	2.8	2.2	1.1	7.6
46-12			表土	石核	玉髄	両極打法？光沢？	4.5	2.4	1.5	12.4
46-13		I Y-39	I層	石核	玉髄	両極打法、光沢	3.3	2.6	1.3	8.8
46-14		I Z-41	I層	石核	玉髄	両極打法	2.9	2.0	1.0	5.4
46-15		II B-41	I層	石核	珪質頁岩	両極打法、光沢	3.0	2.2	1.2	7.1
46-16		I Z-39	I層	石核	珪質頁岩	両極打法、光沢	2.4	1.6	1.0	2.8
46-17		II D-41	I層	ピエス・エスキーユ	玉髄	縦横二方向の打撃	3.2	2.2	1.2	8.8
46-18			表採	ピエス・エスキーユ	珪質頁岩	玉髄質	5.1	4.1	1.5	34.5
46-19			表採	ピエス・エスキーユ	碧玉	赤褐色	5.5	3.1	2.6	44.4
46-20			表採	原石	石英		4.1	3.0	3.0	48.3
46-21		I V-35	I層	原石	玉髄		3.5	3.4	1.8	26.6
46-22			表採	打製石斧	粗粒玄武岩	刃部破片	(5.2)	(4.1)	(1.8)	(47.6)
46-23		II D-41	I層	打製石斧	粗粒玄武岩	磨製石斧未成品?	(11.6)	5.0	3.5	(277.7)
47-1		II C-41	I層	磨製石斧	閃緑岩		(8.8)	4.7	2.7	(184.0)
47-2		I Z-41	I層	磨製石斧	安山岩	基部折面再加工	7.3	4.4	2.8	144.4
47-3			表土	磨製石斧	安山岩	基部折面再加工	7.3	4.0	2.7	123.5
47-4		I Y-39	I層	磨製石斧	閃緑岩		11.0	4.3	2.4	169.8
47-5			表採	磨製石斧	流紋岩		5.3	2.2	0.9	15.0
47-6			表採	磨製石斧	不明		(5.0)	(3.0)	1.2	(30.1)
47-7		II B-41	I層	磨製石斧	粗粒玄武岩		11.2	4.7	2.5	214.1
47-8		I Z-37	I層	磨製石斧	粗粒玄武岩	折面再加工	5.6	4.5	2.4	98.1

図番号	遺構	グリッド	層位	器種	石材	備考	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
47-9			表採	磨製石斧	閃緑岩		(5.0)	(4.8)	(2.5)	(73.6)
47-10		ⅡA-40	Ⅰ層	磨製石斧	粗粒玄武岩		(10.1)	(4.4)	(3.4)	(245.4)
48-1			表採	敲石	チャート		7.0	5.8	4.8	225.7
48-2		ⅠZ-41		敲石	デイサイト		13.9	9.7	4.5	1004.4
48-3		ⅠX-39	Ⅰ層	敲石	流紋岩	溝状の敲打痕、被熱、火ばね	8.6	7.9	2.5	188.1
48-4		ⅠY-38	Ⅰ層	敲石	チャート	石製円盤？	6.0	5.9	2.7	111.1
48-5		ⅡB-41	Ⅱ層	敲石	チャート		7.4	5.6	2.3	134.3
48-6		ⅠZ-41	Ⅰ層	敲石	粗粒玄武岩	被熱	9.3	4.9	2.9	143.5
48-7			表土	敲石	チャート		4.1	3.9	3.2	65.6
48-8		ⅡD-41	Ⅰ層	磨石	粗粒玄武岩	磨面+敲打痕	15.5	8.6	6.2	1167.8
48-9		ⅠY-38	Ⅰ層	磨石	花崗閃緑岩	石鹸形、磨面+凹痕、ひび割れ、被熱？	11.6	7.3	4.9	699.4
48-10		ⅠW-33	Ⅱ層	擦痕のある礫	デイサイト	砥石？	5.4	3.6	1.7	51.2
48-11			表採	砥石	凝灰岩		13.6	6.6	2.3	235
49-1			表土	石錘	デイサイト	敲石？	12.7	11.9	3.7	740.6
49-2		ⅠZ-41		石錘	粗粒玄武岩		7.9	4.4	1.0	59.4
49-3			表土	石錘	安山岩	被熱、火はね	6.3	4.2	1.8	83.8
49-4			表土	石錘	チャート	両極打法	7.7	4.7	1.5	74.1
49-5		ⅠZ-41		石錘	チャート	両極打法	10.3	6.6	2.8	300.8
49-6		ⅠY-40	Ⅰ層	石錘	デイサイト		5.8	5.0	1.3	65.8
49-7			表採	石錘	砂岩		5.4	3.8	1.0	34.1
49-8			表採	剥離のある礫	安山岩	石錘？敲石？	10.1	8.4	2.9	361.4
49-9		ⅡD-42	Ⅱ層	石皿	安山岩		36.6	18.3	16.1	11585
49-10		ⅡA-40	Ⅰ層	石皿	安山岩		40.1	17.4	7.8	7685
49-11			表土	石皿	安山岩		52.2	26.1	9.3	26185
写真図版29-A		ⅡB-41	Ⅰ層	石鏃	珪質頁岩	正面・裏面ともに火ばね	2.9	1.7	0.5	(1.2)
写真図版29-B		ⅡA-38	Ⅰ層	搬入自然礫	チャート	石棒類似形状、加工痕跡なし	32.5	12.3	11.2	8185
52-1			表土	石棒	粗粒玄武岩		6.7	2.6	2.4	67.6
52-2		ⅠW-33	Ⅰ層	石刀	粘板岩		7.7	3.4	1.2	36.7

表9　館遺跡 土製品観察表

図版番号	写真図版	遺構名 グリッド	層位	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	文様	備考
50-1	30	第1号堀跡	覆土	土器片利用土製品	3.4	3.4	0.8	LR	
50-2	30	第1号堀跡	覆土	土器片利用土製品	2.3	4.3	0.7	R単絡5	
50-3	30	第1号堀跡	覆土	土器片利用土製品	4.9	4.6	0.8	無文	
50-4	30	第1号堀跡	覆土	ミニチュア土器	2.4	3.0		無文	
50-5	30	第1号堀跡	覆土	ミニチュア土器	1.6	2.9		無文	
50-6	30	第1号堀跡	覆土	ミニチュア土器	2.7	2.8		沈線(横位平行)、L	
50-7	30	SK06	1層	土器片利用土製品	3.0	3.1	0.7	無文	
50-8	30		Ⅰ層	土偶	3.8	3.2	1.4	表：乳房(円形粘土貼付)、裏：刺突	
50-9	30	ⅠY-40	Ⅰ層	土偶	3.0	3.6	2.0	表：臍(円形粘土貼付)、裏：無文	
50-10	30	ⅠZ-37	Ⅰ層	土偶？	4.1	4.6	1.7		脚部か
50-11	30		Ⅰ層	動物形土製品	3.8	2.6		耳・尾・四肢端部欠損、顔面剥落、背・側面刺突	
51-1	31	ⅡC-41	Ⅰ層	鐸形土製品	3.7	3.3		上部短軸に穿孔、刺突	
51-2	31	ⅠZ-37	撹乱	鐸形土製品	2.9	2.2		上部短軸に穿孔、沈線	
51-3	31	ⅡA-39	撹乱	棒状土製品	3.2	1.3	1.3	穿孔、刺突	
51-4	31	ⅡB-39	Ⅰ層	筒状土製品	3.6	2.4	0.6		
51-5	31	ⅡD-41	Ⅰ層	ミニチュア土器	4.8	3.0		波状口縁	
51-6	31	ⅡA-38	Ⅰ層	ミニチュア土器	3.5	3.4		沈線(横位平行、三角形文？)、刺突	
51-7	31	ⅡA-38	撹乱	ミニチュア土器	3.4	2.5		刺突	
51-8	31	ⅠD-41	Ⅰ層	ミニチュア土器	2.8	2.6			鐸形土製品の可能性あり
51-9	31	ⅡA-39	撹乱	ミニチュア土器	1.4	2.6			
51-10	31	ⅡA-38	Ⅲ層	ミニチュア土器	1.9	3.9		底部上げ底状	
51-11	31	ⅠW-35	Ⅰ層	ミニチュア土器	2.6	3.0			
51-12	31	ⅡA-39	撹乱	ミニチュア土器	1.7	2.4	0.4	波状口縁、波頂部下穿孔	
51-13	31		Ⅰ層	土器片利用土製品	3.7	4.2	0.9	隆沈線、隆線上LR	
51-14	31	ⅠZ-41	Ⅰ層	土器片利用土製品	3.8	3.7	0.6	沈線区画、LR	
51-15	31	ⅠY-39	Ⅰ層	土器片利用土製品	3.7	3.1	0.8	RL	
51-16	31		Ⅰ層	土器片利用土製品	2.7	3.6	0.7	RL	
51-17	31	ⅠZ-41	Ⅰ層	土器片利用土製品	3.2	3.5	0.9	R単絡5	
51-18	31		Ⅰ層	土器片利用土製品	3.7	3.7	0.8	R単絡5	
51-19	31	ⅡA-38	Ⅰ層	土器片利用土製品	3.5	3.7	0.8	沈線(波状入組文)	
51-20	31	ⅡA-38	撹乱	土器片利用土製品	3.5	3.6	0.6	沈線	
51-21	31	ⅡA-39	撹乱	土器片利用土製品	4.0	4.0	0.8	櫛歯状沈線	
51-22	31	ⅡC-41	Ⅰ層	土器片利用土製品	3.4	3.8	0.5	櫛引沈線文	
51-23	31	ⅠY-37	Ⅰ層	土器片利用土製品	3.4	3.4	0.8	櫛歯状沈線	
51-24	31	ⅡA-39	撹乱	土器片利用土製品	3.8	3.7	1.1	櫛歯状沈線	
51-25	31	ⅠY-40	Ⅰ層	土器片利用土製品	2.4	2.1	0.6	櫛歯状沈線	
51-26	31		Ⅰ層	土器片利用土製品	3.2	3.2	0.8	無文	
51-27	31	ⅡA-38	Ⅲ層	土器片利用土製品	3.7	3.3	1.0	無文	
51-28	31	表採		土器片利用土製品	5.0	4.4	0.7	無文	
51-29	31	ⅠW-37	Ⅰ層	土器片利用土製品	5.2	5.3	0.8	無文	
51-30	31	ⅡD-41	Ⅰ層	土器片利用土製品	1.8	3.8	1.2	無文	
51-31	31	ⅡA-39	撹乱	土器片利用土製品	1.9	3.1	0.6	無文	

写　真　図　版

調査区近景（南から）

調査区近景（北から）

写真図版１　西張（3）遺跡　近景

ⅢD～ⅢQ -72 ～ 80 付近 完掘（南から）

ⅢN～ⅢQ -74 ～ 77 付近 完掘（南から）

ⅢF～ⅢQ -72 ～ 80 付近 完掘（南西から）

ⅢS～ⅢU -76 ～ 80 付近 完掘（南から）

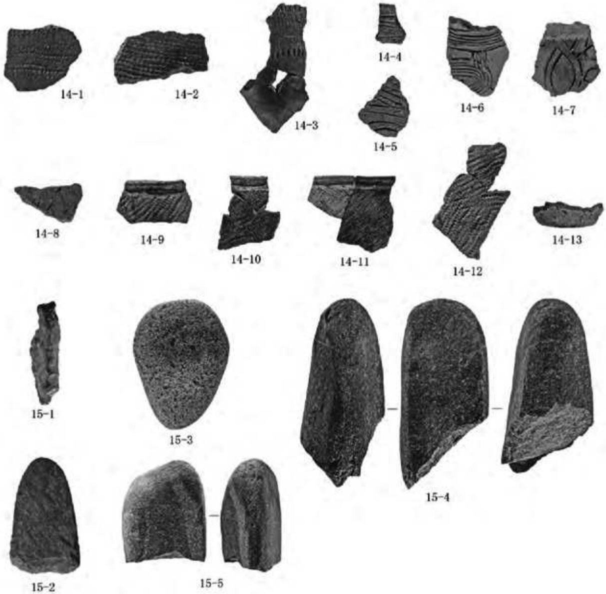
第１号溝状土坑 完掘（南から）

第１号溝状土坑 断面 （南から）

基本層序（南から）

作業風景（北東から）

写真図版２　西張（３）遺跡　調査区



写真図版３　西張（３）遺跡　出土遺物

調査区全景（上が南東）

第１号堀跡 南西屈曲部付近 完掘（上が南東）

写真図版４　舘遺跡　調査区

第１号堀跡 断面 A-A'（南西から）

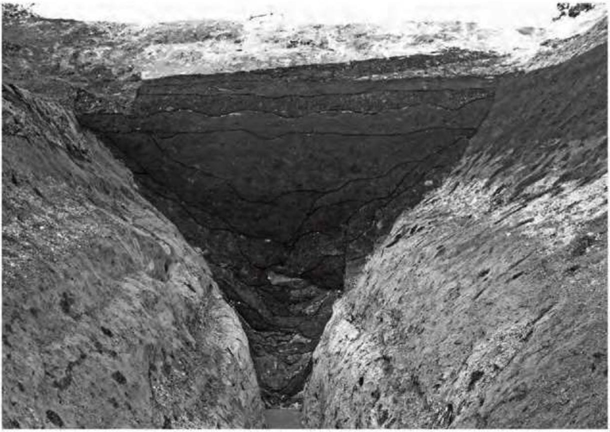
第１号堀跡 断面 B-B'（北東から）

写真図版５　舘遺跡　遺構１

第１号堀跡 断面 C−C'（南西から）

第１号堀跡 断面 D−D'（南西から）

写真図版６　舘遺跡　遺構２



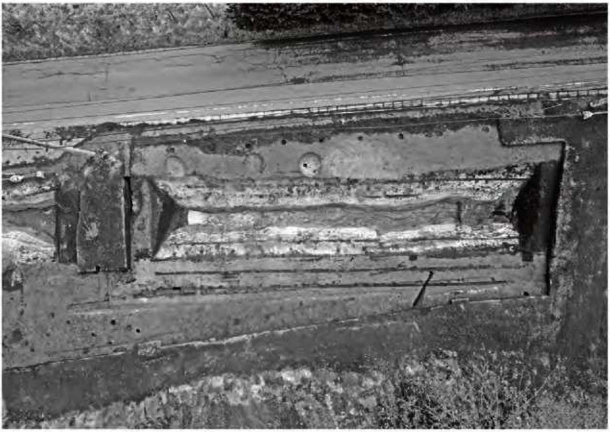
第１号堀跡 断面 E-E'（南西から）

第１号堀跡 南西屈曲部 完掘（南から）

第１号堀跡 断面 F-F'（南西から）

第１号堀跡 断面 G-G'（南東から）

写真図版７　舘遺跡　遺構３



第１号堀跡・第１号溝跡・第３～５号土坑 完掘（上が南東）

第１号溝跡 完掘（北東から）

写真図版８　舘遺跡　遺構４

第１号溝跡・第１号性格不明遺構 断面（北から）

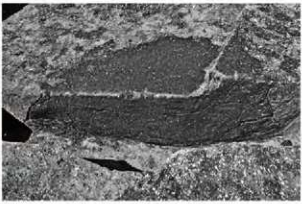
第１号溝跡 断面（北東から）

遺構検出作業（北東から）

第１号土坑 完掘（東から）

第１号土坑 断面（東から）

第２号土坑 完掘（東から）



第２号土坑 断面（東から）

写真図版９　舘遺跡　遺構５

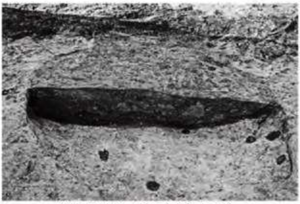
第３号土坑 完掘（南東から）

第３号土坑 断面（南東から）

第４号土坑 完掘（南東から）

第４号土坑 断面（南東から）

第５号土坑 完掘（南東から）


第５号土坑 断面（南東から）

第６号土坑 遺物出土状況（南東から）

第６号土坑 断面（南東から）

写真図版10　舘遺跡　遺構６

第７号土坑 完掘（北東から）

第７号土坑 断面（北東から）

第８号土坑 完掘（北東から）

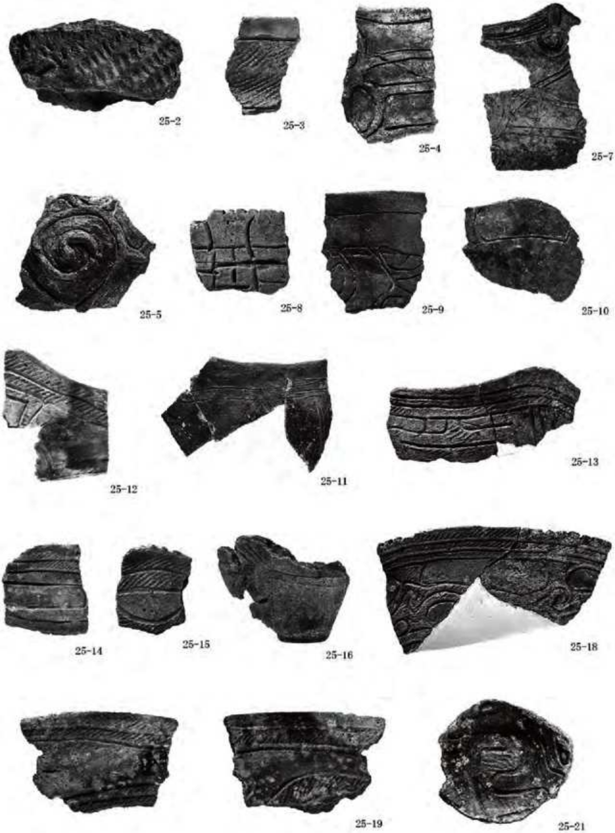
第８号土坑 断面（北東から）

第１号溝状土坑 完掘（南から）

第１号溝状土坑 断面（南から）

縄文時代後期の遺物 出土状況（東から）

写真図版 11 舘遺跡 遺構７



写真図版 12　舘遺跡　遺構内出土土器 1

26-1

26-6

26-8

26-7

26-9

26-14

26-13

27-13

27-8

27-1

26-17

26-16

写真図版 13　館遺跡　遺構内出土土器 2

27-16

28-6

28-3

28-14

28-12

28-11

28-18

28-17

写真図版 14　舘遺跡　遺構内出土土器 3

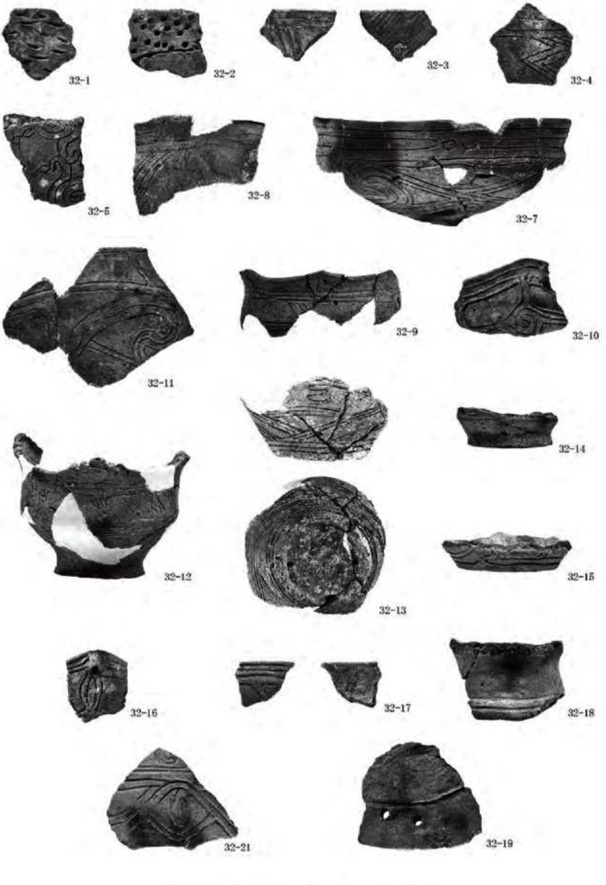
写真図版 15　舘遺跡　遺構外出土土器 1

31-1

31-3

31-4

写真図版 16　舘遺跡 遺構外出土土器 2



写真図版 17　舘遺跡　遺構外出土土器３

33-1

33-2

33-5

33-6

33-13

33-12

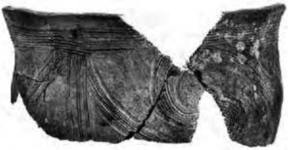
33-7

33-8

33-9

33-10

写真図版 18　舘遺跡　遺構外出土土器 4



34-1

34-2

34-5

34-7

34-13

34-11

34-3

34-12

34-8

写真図版 19　舘遺跡 遺構外出土土器 5

写真図版 20　舘遺跡　遺構外出土土器 6

36-16

36-18

36-19

36-20

37-1

37-2

37-3

37-4

37-5

37-6

37-7

37-12

写真図版21　舘遺跡　遺構外出土土器7

38-1

38-2

写真 22-1

38-9

38-7

38-4

38-8

38-5

38-10

写真図版 22　館遺跡　遺構外出土土器 8

39-5

39-6

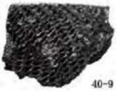
39-11

39-13

39-12

40-1

40-7



40-9

40-8

40-14

40-17

写真図版 23　舘遺跡　遺構外出土土器 9

40-24

41-4

40-15

41-6

41-9

41-11

41-7

41-8

41-5

41-12

写真図版 24　舘遺跡　遺構外出土土器 10

41-13

写真25-1

写真25-2

42-2

42-3

42-4

42-15

43-1

43-2

43-5

43-3

43-4

43-7

43-8

43-9

写真図版 25　舘遺跡　遺構外出土土器 11

第１号堀跡

29-1

29-2

29-3

29-4

29-5

29-6

29-7

29-8

第１号溝跡

29-9

29-10

29-11

第１号土坑

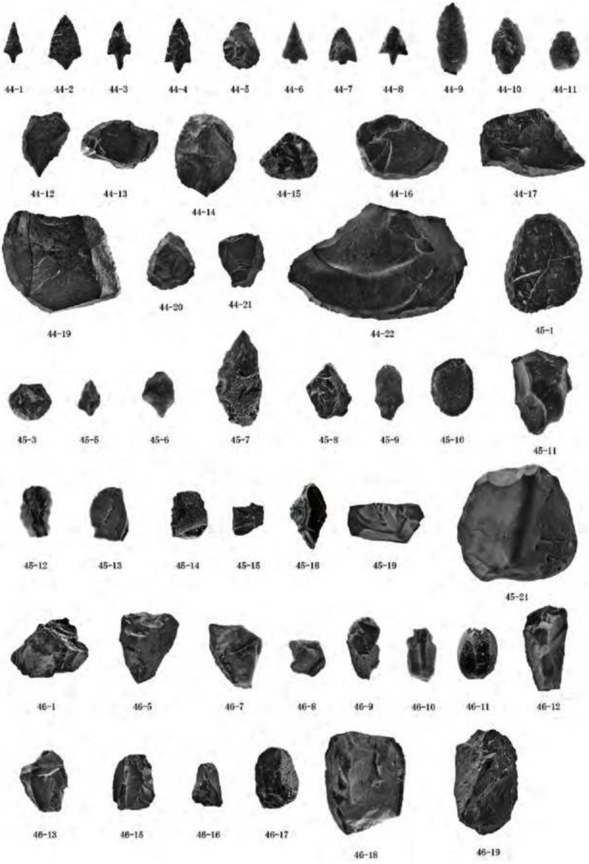
29-12

第６号土坑

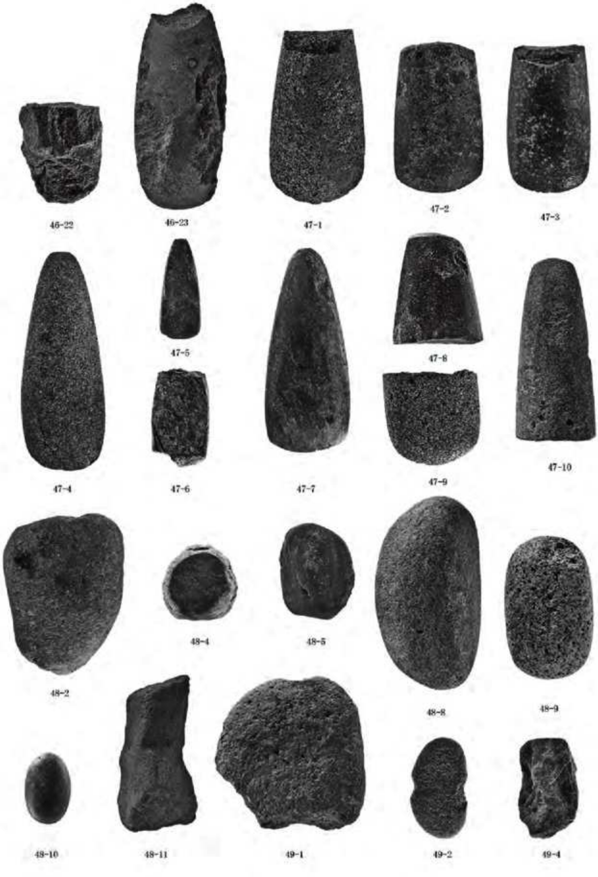
29-13

29-14

写真 26　舘遺跡　遺構内出土石器



写真図版27　舘遺跡　遺構外出土石器 1



写真図版28　舘遺跡　遺構外出土石器２

49-3

49-5

49-6

49-7

49-8

49-9

49-10

49-11

写真のみの報告石器

A

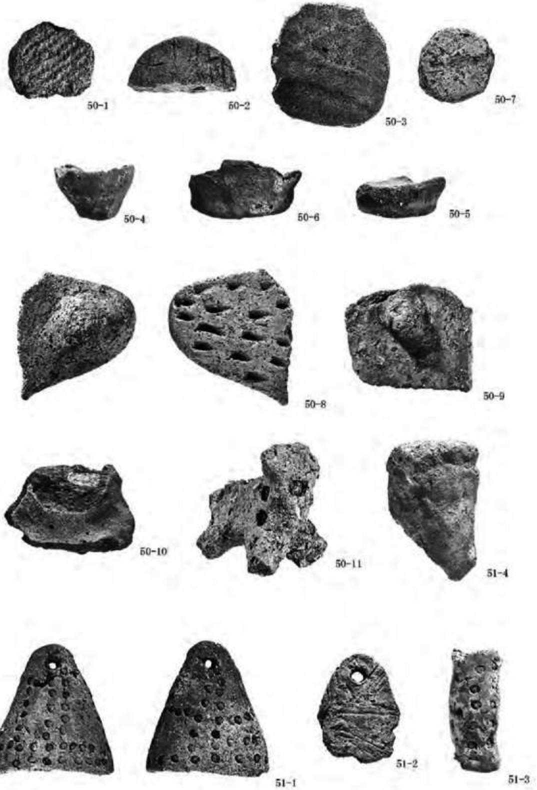
B

石製品

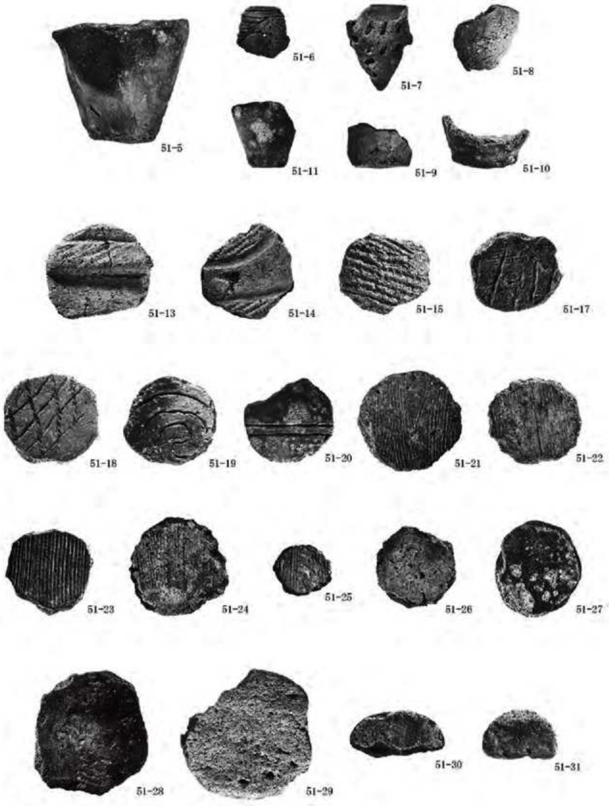
52-1

52-2

写真図版29　舘遺跡　遺構外出土石器3・石製品



写真図版 30　舘遺跡　土製品 1



写真図版31　舘遺跡　土製品2

報　告　書　抄　録

ふりがな	にしはりかっこさんいせきさん・たていせき
書　名	西張(3)遺跡Ⅲ・舘遺跡
副書名	県道櫛引上名久井三戸線道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第612集
編著者名	齋藤　岳、齋藤　正、木村恵理
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター
所在地	〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15　TEL 017-788-5701
発行機関	青森県教育委員会
発行年月日	2020年3月11日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系 (JGD2011)		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
(にしはりかっこさんいせき) 西張(3)遺跡	(あおもりけんさんのへぐん) 青森県三戸郡 (なんぶちょうおおあざほうしおか) 南部町大字法師岡 (あざだいどうのした) 字大道ノ下	024445	445145	40° 27′ 52″	141° 24′ 16″	20180425 ～ 20180629	1,700	記録保存調査
(たていせき) 舘遺跡	(あおもりけんさんのへぐん) 青森県三戸郡 (なんぶちょうおおあざごみわたり) 南部町大字埖渡 (あざたて) 字舘	024445	445116	40° 27′ 48″	141° 24′ 00″	20180904 ～ 20181031	1,700	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
西張(3)遺跡	狩猟場	縄文時代	溝状土坑	1	縄文土器(早・後・晩期) 石器	
舘遺跡	散布地 狩猟場 城館	縄文時代 中世 中世以降	土坑 溝状土坑 堀跡 溝跡 性格不明遺構 ピット	8 1 1 1 1 19	縄文土器(早～後期) 石器 土製品 石製品	

要　約

西張(3)遺跡は、調査の結果、溝状土坑を検出した。これまで2度の調査結果と同様に、狩猟場として利用されていたと考えられる。遺物は縄文時代早期、後期、晩期の土器と石器が出土した。

舘遺跡は、調査の結果、縄文時代と中世に利用されていることがわかった。縄文時代は土坑や溝状土坑を検出した。遺物は縄文時代後期前葉を主体とする土器・石器・土製品(土偶、動物形土製品、鐸形土製品、ミニチュア土器、土器片利用土製品)・石製品が出土した。

中世は堀跡を検出した。断面形状は薬研状を呈しており、大規模である。堀跡から年代を示す遺物が出土していないため、時期決定の根拠に欠くが、このような堀跡は全国的に16世紀に見られることから16世紀頃の時期が想定される。

青森県埋蔵文化財調査報告書　第612集

西張（3）遺跡Ⅲ
舘遺跡

－県道櫛引上名久井三戸線道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告－

発行年月日　令和2年3月11日
発　　　行　青森県教育委員会
編　　　集　青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042　青森県青森市大字新城字天田内152-15
TEL 017-788-5701　FAX 017-788-5702
印　　　刷　川口印刷工業株式会社　青森営業所
〒030-0811　青森県青森市堤町2丁目1-7
堤町ファーストスクエアビル6F-C
TEL 017-721-6520　FAX 017-775-3510

この印刷物は300部作成し、印刷経費は1部当たり7,205円（うち県負担3,062円）です。